

21世紀教育活動・評価報告書

平成17年度

弘前大学21世紀教育センター

目 次

1	巻頭言 (21世紀教育センター副センター長 土持 法一)	1
2	21世紀教育 F D 研修会	2
3	21世紀教育に関する学生アンケート調査	7
3-1	平成16年度後期学生アンケート調査の概要	7
3-2	平成17年度前期学生アンケート調査の概要	21
3-3	平成17年度 4 年生アンケート (21世紀教育) 結果の概要	33
4	21世紀教育授業実施報告	37
5	21世紀教育授業実施結果	57
6	21世紀教育授業運営・担当評価	78
7	あとがき	83
	(21世紀教育センター副センター長 大高 明史)	

1 巻 頭 言

「21世紀教育」の意義の再認識

21世紀教育センター

副センター長 土 持 法 一

本学の「21世紀教育」の理念とは、「21世紀を生きるうえで必要となる基本的な力を養う」ことで、それは、大学審議会の答申『21世紀の大学像と今後の改革方策についてー競争的環境の中で個性が輝く大学ー』（平成10年10月）にまで遡るものと考えています。そこでは、学部教育の再構築に関して、教育内容の在り方を「課題探求能力の育成」に求め、教養教育の重視、高大連携などを具体的に提言しています。教養教育については、「学問のすそ野を広げ、様々な角度から物事を見ることができる能力や、自主的・総合的に考え、的確に判断できる能力、豊かな人間性を養い、自分の知識や人生を社会との関係で位置付けることのできる人材を育てる」ことであると答申しています。これらは、「課題探求能力の育成」によって達成することができると述べています。

課題探求能力の育成とは、基本的には、学生の能動的学習によって培われるものですが、その基礎力（課題発見力・計画立案力・実践力）となるものは、教員の「授業スタイル」にかかっているとの興味ある調査が、大学教育学会の2005年度課題研究集会「学士課程教育と教養教育」（新潟大学）において、リクルートワークス研究所・角方正幸氏から報告されました。「授業スタイル」とは、まさに、本学が全学として取り組もうとしているティーチング・ポートフォリオ（Teaching Portfolios, 大学教員が自己の教育実践活動を自らの手で文書に残す教育業績記録ファイル）を裏づける教員のティーチング・フィロソフィー（Teaching Philosophy）ということになります。

中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来』（平成17年1月）において「単位制の実質化」が答申され、形骸化された単位制の見直しがクローズアップされました。単位制の基本は、講義とは別に、学生による「自学自修」にあることは言うまでもありません。そのためには、従来の講義中心から学生による課題中心の授業形態に改める必要があり、附属図書館との連携が不可欠となります。たとえば、「基礎ゼミナール」では、昨年度より「指定図書」制度を導入することで、学生の「自学自修」を促進しています。また、「指定図書」の活用を通して、課題探求能力を育成するための授業方法の改善も期待されています。

同答申は、「教養教育に携わる教員には高い力量が求められる。加えて、教員は教育のプロとしての自覚を持ち、絶えず授業内容や教育方法の改善に努める必要がある」と提言しています。すなわち、教養教育に携わる教員ほど、授業内容や教授法の改善への自己反省が求められているといえます。

新制大学における「一般教育」に多大な影響を及ぼしたハーバード委員会の報告書『自由社会における一般教育（General Education）』（1945年）は、「一般教育」は、経験豊かな「碩学」によって教えられるべきであると、その重要性を強調しました。そこでは、専門領域を超えて、学生に刺激を与える教授法が求められました。

最近、日本の学生の学ぶ意欲の低下が社会問題になっていることに関して、米IBMの教育事業責任者は、『日本経済新聞』（2005年9月26日）のインタビューに答えて、「インターネットやテレビ、ビデオゲームなど様々なチャネルから情報が入ってくる時代なのに、学校は何十年も前に適切だった教え方にとどまっている」と分析し、「学生たちの能力が下がっているのかといえば、決してそうではない。もっと彼らに響く教え方が必要だ」と現状の教授法のあり方を批判しています。大学の全入時代の到来によって、多様な学生が入学してくる現状では、従来のように、教員の視点に立った画一的な授業法では通用しません。「21世紀教育」においても、多様な学生のニーズに応じた能動的学習への転換が強く求められます。

2 21世紀教育FD研修会

平成17年度は、21世紀教育のFD研修会として6月に教育・学生委員会との共催でFDワークショップが、8月に高等学校との懇談会が行われました。FDワークショップは昨年度まで実施してきたFD講演会に代わる試みで、基礎ゼミナールを担当する教員15名が参加し、2日間にわたるシラバス作りを通して能動的学習を促進する授業方法が検討されました。また、平成17年度の高等学校との懇談会は「地学教育」に焦点を絞り、パネルディスカッション形式で高校教員と大学教員との意見交換が行われました。

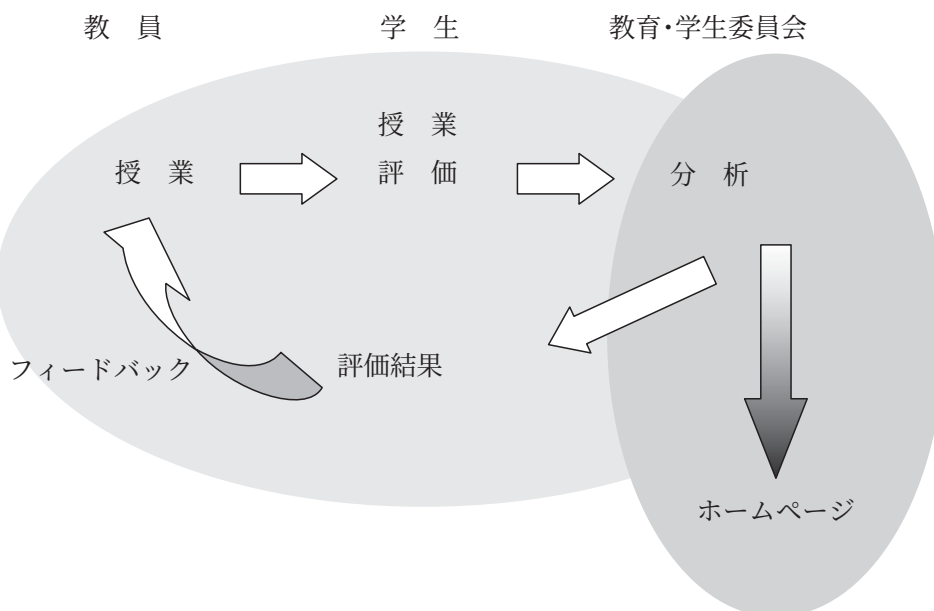
(1) 第2回弘前大学FDワークショップ「基礎ゼミナール」の共通理解を深める

平成17年度より、本格的なFDワークショップが開催されました。詳細なFDワークショップの日程表は、最後に添付されています。また、実際の活動状況については、『21世紀教育センターニュース』第7号（平成17年9月）に記載されていますので、これを参照にしてください。

ここでは、なぜ、FDワークショップが大学の授業改善に必要なのか。そして、なぜ、「基礎ゼミナール」としたのかについて簡単に述べることにします。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）は、教員が授業内容や方法を改善し、向上させるための組織的な取組の「総称」であって、そのなかには、新任教員のための研修会、教員相互の授業参観なども含まれます。文部科学省（平成17年3月）の調査によれば、「学生による授業評価の実施状況」している国立大学は、平成15年度までに約99パーセントという高い達成率となっています。しかし、授業評価の結果を改革に反映するための組織的な取り組みが行われていると答えた大学は、約54パーセントにすぎませんでした。

弘前大学の場合は、以下のような図式になります。



「学生による授業評価」が、授業改善にフィードバックされてはじめて効果的な大学改革に繋がります。そのためには、教員によるFDワークショップは不可欠であるといえますが、FD活動を実施している大学は、年々増加しているものの、平成15年度現在、約69パーセントしかありません。

本学のFDワークショップは、副学長（教育・学生担当理事）、センター長を含め、学外で1泊2日の集中的な研修を行うというもので、全3回のグループ作業を通して、授業シラバスを作成するものでした。その過程で、学習者にとっての効果的な授業シラバスとは何か、公平な成績評価とは何か、学期途中のフィードバックがどのように授業改善に役立つのかなどについて相互に考えました。

なぜ、「基礎ゼミナール」のためのFDワークショップとしたかについては、これが導入科目であって、すべての新入生の必修科目となっているからです。高大連携の重要性が指摘されるなかで、導入科目の役割はますます高まっています。高校から大学への移行は、新入生にとって戸惑いのあるものですが、なかでも「ゼミ」は大学特有のもので、しかも、大学教育の「要」として東京大学元総長の有馬朗人氏は述べています。授業にとって「導入」が重要であるのと同じように、「基礎ゼミナール」は大学教育の「導入」であって、4年間の成否を決定づける「鍵」とであると言っても過言ではありません。

本学の「基礎ゼミナール」は、各学部で開講され、その数は120と多くなっています。しかし、他の「21世紀教育」科目が、個別の授業シラバスを掲載しているのに対して、「基礎ゼミナール」は、到達目標などが簡潔に記載されているに過ぎません。そこで、FDワークショップでは、「基礎ゼミナールの共通理解を深める」ことを目的とし、各学部から「基礎ゼミナール」担当教員3名に参加してもらうことにしました。はじめての試みでしたが、教員間の相互理解がより深まり、シラバスが授業を進めるうえで、学生との重要な「契約」となり、コミュニケーションの役割を果たしていることを理解することができました。

また、個人的な感想や意見を述べるなかで、大学としての教育評価システムの整備についての意見が出され、そこでアメリカおよびカナダの高等教育研究機関で実施されているティーチング・ポートフォリオ（教員の教育業績ファイル）を紹介したところ、大きな反響があり、弘前大学として「ティーチング・ポートフォリオの積極的導入」に取り組むこととし、文科省の海外先進教育実践支援プログラムに申請して、本格的な取り組みをはじめたという経緯があります。FD活動の最終的な目標は、授業改善に繋がるような個々の教員のティーチング・ポートフォリオの作成にあり、そのためのコンサルティングが重要であるとの認識から、高等教育研究開発室では、新たに教員の授業改善のためのコンサルティングをはじめることになりました。このように、第2回弘前大学FDワークショップによる効果は甚大であったと考えています。

言うまでもなく、FDワークショップとは教員の組織的（ファカルティ）な取り組みであって、「継続」するところに意義があります。平成18年度も引き続き、「基礎ゼミナール」に関するFDワークショップを行います。今回は、中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来』（平成17年1月）で取り上げた「単位の実質化」を副題として、互いに議論を深めることにしています。教員の積極的な参加が望まれます。

平成17年度 21世紀教育FDワークショップ日程表

会場：ホテルちとせ屋（黒石市）

月 日 時 間	第1日 平成17年6月11日（土）
8:30	弘前大学創立50周年記念会館集合 受 付
8:45	弘前大学創立50周年記念会館発→ホテルちとせ屋到着（9:30） （貸切バス利用） 研修開始：オリエンテーション
9:30	ホテルちとせ屋到着 玄関前で記念写真
9:45	挨拶「弘前大学における教育の意義について」 副学長 大関 邦夫
10:00	ミニレクチャー「21世紀教育—その生まれと育ち—」 センター長 矢島 忠夫
10:15	ミニレクチャー「『基礎ゼミナール』の現状」 副センター長 大高 明史
10:50	ミニレクチャー「初年次教育を中心に」 副センター長 土持 法一
11:25	休 憩（10分）
11:35	オリエンテーション「FDとワークショップ」 副センター長 土持 法一
12:00	昼 食（60分）

12:00	昼食(60分)
13:00	ミニレクチャー「学習目標」―「カリキュラムと単位制」
13:30	グループ作業Ⅰの課題説明・グループ学習室への移動(10分)
13:40	グループ作業Ⅰ「授業の設計1:授業の副題・目標の設定」(60分)
14:40	各グループ発表10分・討論5分(45分) 司会進行:榊FD委員
15:30	休憩(20分)
15:50	ミニレクチャー「学習方略」―「授業設計(シラバス)」(30分)
16:20	グループ作業Ⅱの課題説明・グループ学習室への移動(10分)
16:30	グループ作業Ⅱ「授業の設計2:(目標の手直しと)・学習方略」(60分)
17:30	各グループ発表10分・討論5分(45分) 司会進行:佐野FD委員
18:20	風呂・夕食(100分)
20:00	意見交換「実際に『基礎ゼミナール』を担当してみて」(50分) 司会進行:内海FD委員
21:00	懇親会
第2日 平成17年6月12日(日)	
7:30	朝食散策(新緑・百人足湯・津軽伝承工芸館等)
9:30	ミニレクチャー「評価」―「評価とフィードバック」(30分)
10:00	グループ作業Ⅲの課題説明・グループ学習室への移動(10分)
10:10	グループ作業Ⅲ「授業の設計3:(学習方略の見直しと)評価」(60分)
11:10	各グループ発表10分・討論5分(45分) 司会進行:内海FD委員
11:55	休憩(10分)
12:05	参加者の個人的感想や意見(50分) 司会進行:大高FD委員長, 土持委員
12:45	昼食(30分)
13:15	ホテルちとせ屋発(貸切バス利用)
13:55	弘前大学創立50周年記念会館着

(2)『教養教育と高校教育の接点』に関するシンポジウム

『教養教育と高校教育との接点』をテーマにした弘前大学21世紀教育センターFDシンポジウムが、平成17年8月10日(水曜日)13時から15時までの約2時間、弘前大学総合教育棟2階大会議室で行われました。これは、高等学校と大学の教員が教育内容や教育方法についての問題点を話し合い、相互に連携をはかる目的

で開催されたものです。今回のシンポジウムでは「地学」に焦点を絞り、パネルディスカッション形式で話題提供と意見交換が行われました。「地学」を取りあげた理由は、高校では履修する生徒がわずかで教員の確保も困難な一方、大学では専門教育に占めるウェイトが高く、日常生活との関連が深い分野でもあるため、教養教育の充実が望まれていること、環境科学や地理学などと同様に学際的・統合的な側面を持つことから、他の理系領域だけでなく文系科目のモデルケースにもなりえると考えたためです。当日は会場をほぼ埋める約30名の参加がありました。

まず、高校教育の立場から田中克人氏と境博明氏に話題提供をいただきました。

田中克人氏は青森県立青森高等学校教諭。「地学教育の現状－全国的傾向と本校の現状－」という題目で、高等学校の地学教育の現状について報告されました。2003年から地球惑星科学関連学会で行われている地学教育に関する合同セッションでは、さまざまな現状分析と提言がなされています。これによると、高校の「地学」教育では現在、履修者数の減少や教科書採択数の減少、教員の減少を巻き込んだ「デフレ・スパイラル」とも言うべき悪循環が進行しつつあります。高校で「地学」の履修者を減少させている直近の課題として、大学入試で理科の科目選択をするにあたって、応用範囲の広い「化学」や、医学・看護系や農学系などで大学入学後に必要となる「生物」を優先して選択する傾向に関連して「地学」の優先順位が低くなっているという点があげられます。2003年から2005年までのセンター試験の受験者数をみると、「化学」を選択した受験者は約20万人とほとんど変化がないのに対して、「地学1B」の選択者数は23640人から18795人まで年を追うごとに減少しています。高校で理科の教員数に占める地学教員の割合はわずか5%ほどで、高校の「地学」は、トキの個体数の減少のモデルが適用される「絶滅危惧種」といえる状況です。一方で、実際に「地学」の授業を行っている田中氏は、高校生が決して学習内容に関心がないわけではないことを指摘されました。それにもかかわらず、「地学」の履修者数が減少しているのはとても残念なことで、文教政策や入試制度の改善が望まれるところです。最後に個人的な意見と前置きしたうえで、「物理」や「生物」と重複する内容が多く履修者にとってわかりにくい「地学」という名称を廃止して、他の領域と融合させた「自然史」や「自然環境」などの現代的な科目を新たに設立することを提言されました。

境博明氏は青森県立弘前中央高等学校教諭。「青森県の地学教育の現状」と題して、多くの具体的なデータを用いた現状分析のお話がありました。青森県内では、分校や定時制高校を含めた公立高校全85校のうち、カリキュラムに「地学」を含めている学校は27校で、そのうち実際に「地学」の授業を行っている高校は20校にすぎません。県内にある18校の私立高校で「地学」を実施している学校はわずか1校、弘前学院聖愛高校だけです。「地学」の履修者数が減少している要因として、先に田中氏が挙げられた大学入試での「地学」選択者の減少傾向とともに、地学教員の絶対数が少ないことに伴うカリキュラム編成の難しさを指摘されました。青森県では、地学教員の採用数が過去10年間で1人だけと非常にきびしいものがあります。若い教員の補充がないため、地学教員は高齢化が進んでいます。現在、青森県の高校で「地学」を専門にしている教諭は19名で、そのうちの16名は40歳以上という状況です。年齢のあがった教諭は管理職に移行する 경우가多く、これにより「地学」を教える教員はますます減少していきます。「地学」の教員は高校の数よりもずっと少ないことから、「地学」を開講できるかどうかは教員の移動に左右されます。先の見えないこうした状況の中で、生徒は「地学」の履修に不安を抱き、教員も安心して生徒に「地学」の履修を薦められないという状況にあるようです。境氏は話題提供の最後に、「地学」という教科の魅力を生徒や教員にアピールすることの必要性を強調されました。

つづいて、21世紀教育の立場から弘前大学理工学部の根本直樹氏からの話題提供をいただきました。テーマは「地学の基礎の現状」。現在展開されている21世紀教育授業科目「地学の基礎」について、自作された図表に基づいて内容や履修者数の推移を詳しくお話されました。「地学の基礎」の受講者数は年間約450名で、入学者の1/3ほどが履修していることになります。履修者数はこの3年間で次第に増加していることから、「地学の基礎」は初年次学生にとって関心の高い科目といえるようです。学生アンケートによると、高校での「地学」未履修者を対象とした前期の「地学の基礎Ⅰ」は21世紀教育科目全体に比べて理解度や満足度が低く、一方、既修者を対象とした後期の「地学の基礎Ⅱ」では逆に21世紀教育科目全体に比べて高い傾向があります。前期にⅠを履修することによって基礎ができ、後期のⅡに対する理解度が高まったためと分析されました。この話題提供に対して、会場から履修者が増加している原因についての質問がありました。これに対

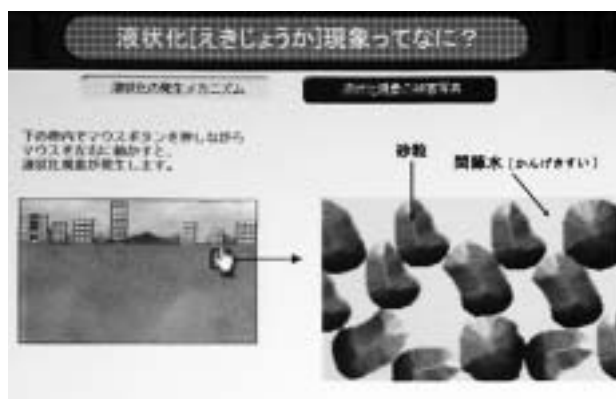
して、根本氏は環境問題や災害が社会で広く話題になっていることに伴って地学分野への関心が高まっていることをひとつの要因としてあげられました。

話題提供の最後は、専門教育の立場として、弘前大学理工学部の佐藤魂夫氏から教養教育としての地学教育の重要性をテーマとした話題提供がなされました。地震等の自然災害関連の報道を正しく理解できることを授業のねらいとして挙げ、解答を記述式とした試験内容を紹介していただきました。津波の到達時間や、最近発生した地震とプレートとの関連、地震国日本でマイホームを作る際に注意することなど、いずれも実生活や新聞報道など身近な話題を意識した「役に立つ」設問でした。また、文部科学省が作成したCD-ROM教材「地底三千マイルの旅」を用いた授業実践の報告もありました。ここでは、実際にパソコンを操作して、液化化現象、P波速度とS波速度の比較について説明していただきました。

以上の4氏からの話題提供の後、話題提供者と会場参加者と間で、以下のような質疑応答や意見交換が行われました。

- ・(会場から) 現在高校で「地学」を履修するのは文系学部への進学を希望する生徒が中心になっているが、理系学部への進学を希望する生徒に対しても、入学後の学習の必要性を訴えて個別学力試験で地学を選択するように指導してはいかか。そうなれば大学でも効率的な授業展開が行えるのではないか。
- ・(佐藤氏) 私自身は必ずしも高校で「地学」を学習しなければならないと思っていない。もちろん選択肢として高校で「地学」を履修できるような体制を整えるべきだが。
- ・(会場から) 「太陽が地球の回りをまわっている」と答える子どもが相当数あることを新聞報道で目にした。若い世代が「地学」を学習しなくなっていることで今後悪影響が出るのではないだろうか。
- ・(境氏) 子どもの実体験が少なくなっていることに加えて、小・中学校で実験や観察が少なくなっていることも問題である。
- ・(根本氏、高校側に対して) 高校で地学を履修するかどうかを1年生で決めてしまうのか。
- ・(境氏・田中氏) 次年度の教科書の採択と連動しており、無理があることは承知しているものの、1年生で希望をとり、秋までに決めざるを得ない。
- ・(田中氏) 野外で実際に体験すると、自然現象は特定の領域だけで説明がつくものではないことに気が付く。分野の壁を取り払って「自然科学を学ぶ」という姿勢を教員が共有すべきではないだろうか。
- ・(会場から) 教養教育としては「新聞報道を最低限理解できる」ための教育内容が必要ではないか。現在行われている「地学の基礎I」は受講人数が多すぎて教育の質を保証できていない。「地学の基礎I」に対する学生アンケートで理解度が低いことが話題提供で取りあげられたが、これには大人数教育が関係しているのではないか。
- ・(根本氏) 「地学の基礎I」では高校での教育内容を網羅しているが、単位数が2単位と高校での3単位に比べて少ないことも十分な教育を行えない原因になっている。人数が多いうえに時間が少ないため、効果があることはわかっているが学生を野外に連れ出したりビデオ教材を多用するのは困難な状況にある。

このほか、弘前大学の入試問題の質に関する感想や、地学の教員を志望する学生への対応、境界領域の授業の実践など、さまざまな観点から意見や報告がなされ、予定の15時を少し回って今回のシンポジウムは閉会しました。



3 21世紀教育に関する学生アンケート調査

平成14年度4月から開始された21世紀教育では、授業内容の改善を目指して、当初から21世紀教育センターが独自に企画・立案した「学生アンケート」を実施しています。このアンケートの特徴は、21世紀教育システムとして機能しているかどうかを検証し、センター全体として21世紀教育を改善していくためのシステムを作り上げることを目指していることです。

本アンケートは当該学期成績表と一緒に学生に配布し、次期履修科目届とともに提出するという仕方で実施されました。学生が自分の成績表を見た上で、成績評価の適切性などを判断できるようにするために必要な措置です。

3-1

(1) 平成16年度後期学生アンケート調査の概要

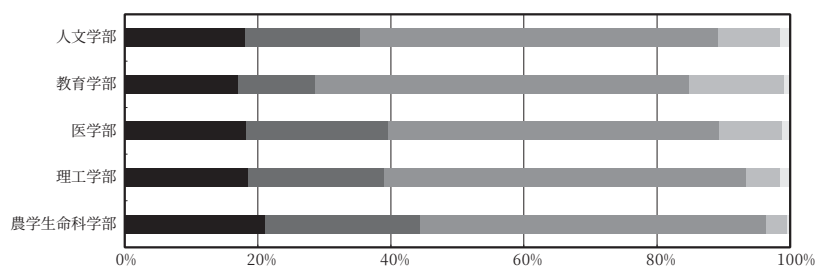
1年生に対して、テーマ科目と言語コミュニケーション実習の内容を中心に意識調査を実施しました。今回は新たに、テーマ科目の授業科目ごとにシラバスと授業内容の整合性や成績評価の適切性などを質問するとともに、英語コミュニケーション実習に関連してTOEIC試験への関心を問う設問を設けました。回収率は76%でした。

以下に、アンケート結果の概要を示します。

ガイダンスについて

問2. 後期ガイダンスの説明で後期の履修方法は理解できましたか。

1. 十分理解できた。 2. かなり理解できた。 3. ある程度理解できた。
4. あまり理解できなかった。 5. ほとんど理解できなかった。



十分理解できた、かなり理解できた、ある程度理解できたを合わせると全体で90.3%の学生のみなさんが理解できたことになります(14年度後期90.8%、15年度後期93.2%)。昨年と比べると、「十分とかなり」が減少し、その分「ある程度」が増えました。学部別に見ると、教育学部で「十分及びかなり」が若干少なく、農生学部が若干高くなりました。昨年度0%になった「ほとんど理解できなかった」は今年度再び1.8%になりました。

問4. テーマ科目についてそれぞれの科目を選択した基準は何ですか？(回答数3987)

1. 授業が面白そうだったから (18%) 2. 興味のある授業科目だったから (43%)
3. 幅広い教養を身につけたかったから (18%) 4. 専門と関連があるから (14%)
5. その他 (7%)

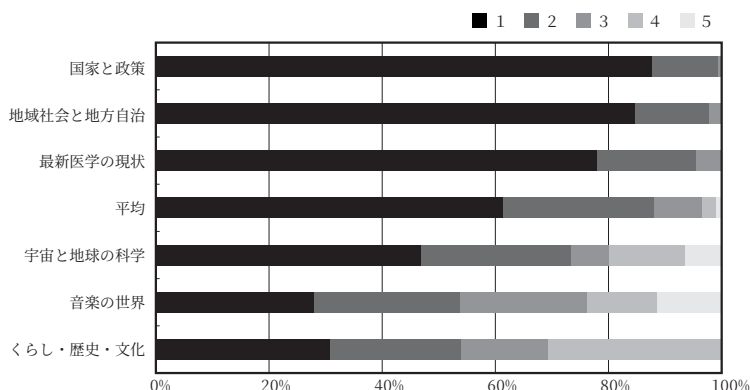
選択肢1(授業がおもしろそうだったから)と選択肢2(興味ある授業科目だったから)の両者を合わせた回答は平均で61%にのびりました。一方、テーマ科目の本来の目的にあたる選択肢3(幅広い教養を身につけたかったから)を選んだ数は平均で18%でした。興味と教養は相反するものではありませんが、半数以上の学生はテーマ科目の授業を選択するうえで興味を優先しているというようすがうかがえます。さまざまな

専門を持つ教員が授業を担当する総合大学の利点を活かした選択をしているともいえるかもしれません。

問5. それぞれの科目はシラバスと授業内容が一致していましたか？（回答数3975）

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. ほとんど一致していた（61%） | 2. 7割程度一致していた（27%） |
| 3. 5割程度一致していた（8%） | 4. 3割程度一致していた（1%） |
| 5. ほとんど一致していなかった（1%） | |

49のテーマ科目の中から、平均とベスト3、ワースト3をあげたのが右のグラフです。平均でみると約9割の授業が、授業内容の7割以上がシラバスに沿っていたと受け取められているようです。しかし、半数近い23の授業科目では、数は多くないものの、選択肢5（ほとんど一致していなかった）が回答されています。シラバスは教員と学生との「契約書」にあたるものですから、本来はシラバスに沿った授業が行われなければなりません。開講の初期段階では、授業内容が当初の計画どおりにいかないことも想定されます。平成16年度は21世紀教育が開始して3年目にあたります。この間の試行錯誤で、授業内容とシラバスとの整合性はしだいに向上しているものと予想されます。



問6. それぞれの科目の成績評価は、シラバスに記載された方法でおこなわれましたか？（回答数3978）

- | | |
|----------------------|-------------------------|
| 1. シラバスどおり行われた（65%） | 2. ある程度シラバスどおり行われた（24%） |
| 3. シラバスどおりではなかった（3%） | 4. わからない（9%） |

選択肢1と2を合わせると約9割の学生がシラバスに記載された方法で成績評価が行われたと回答しています。

問7. それぞれの科目の成績評価は、あなたの学習努力から見て適切でしたか？（回答数3968）

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 妥当な評価だった（74%） | 2. 予想以上の評価だった（16%） |
| 3. 低すぎる評価だった（10%） | |

全体の回答の分布は、平成14年度、15年度とほとんど変化がありませんでした。

問8. 複数の教員が担当したオムニバス形式の科目の場合、授業内容の連携が図られていましたか？（回答数2496）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 非常に図られていた（13%） | 2. かなり図られていた（19%） |
| 3. ある程度図られていた（48%） | 4. あまり図られていなかった（16%） |
| 5. ほとんど図られていなかった（4%） | |

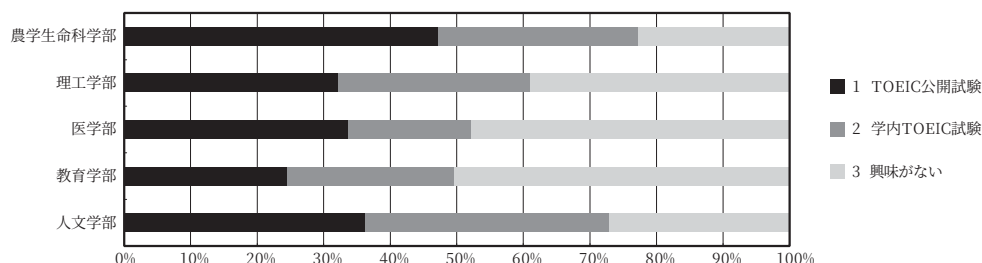
平成16年度後期に行われたテーマ科目では、約6割にあたる29の授業科目でオムニバス形式の授業が行われました。「ある程度」まで含めると80%がオムニバス授業で連携が図られていたと回答しています。同様の回答は、平成14年度後期で61%、平成15年度後期で70%だったので、年を追うごとに改善していることがうかがえます。連携の程度が最も図られていた授業科目は「国際協力と国際交流」で、回答数は少ないものの（9名）選択肢1（非常に図られていた）と選択肢2（かなり図られていた）の合計は約8割でした。逆に、「環境と資源」、「科学・技術の発達」、「科学・技術の最前線」の3つでは、選択肢4（あまり図られていなかった）と選択肢5（ほとんど図られていなかった）の合計の回答が3割以上に達していました。

英語コミュニケーション実習について

(16年度からTOEIC対策コースが試験的に開講されていることから、TOEICに関する設問を設けました。)

問10. TOEIC試験に興味がありますか？

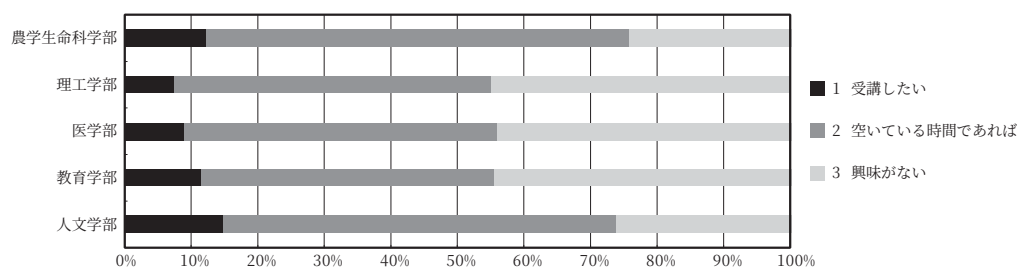
1. TOEIC公開試験を受験したい。
2. 学内TOEIC試験を受験したい。
3. TOEIC試験に興味がない。



全学平均して30%強の人がTOEIC公開試験を受験したいと考えています。学内TOEIC試験も含めると、60%強の人がTOEIC試験を受験したいと考えています。特に、農学生命科学部と人文学部では、70%を超える人がTOEIC試験を受験したいと考えています。

問11. TOEIC向けの授業を受講したいですか？

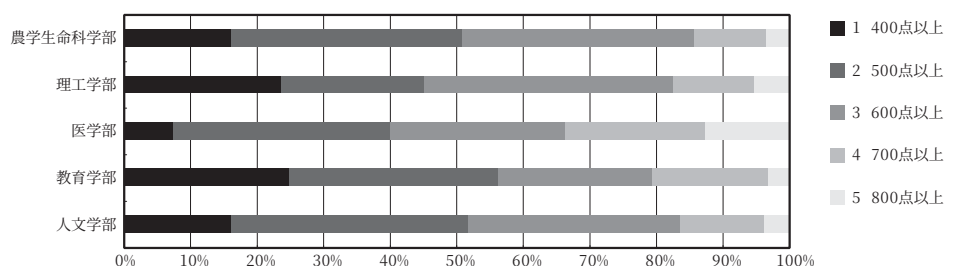
1. 受講したい。
2. 空いている時間であれば受講したい。
3. 興味がない。



全学平均して10%強の人が是非受講したいと考えています。空いている時間であれば受講したい人を加えると60%強の人がTOEIC向けの授業を受講したいと考えています。TOEIC向けの授業を受講したいと考えている人と、TOEICに興味を持っている人の学部毎の割合がほぼ一致しています。

問12. TOEIC試験を受験する場合は、何点ぐらいを目標にしたいですか？

1. 400点以上
2. 500点以上
3. 600点以上
4. 700点以上
5. 800点以上



500点から600点台を目標とする人が多く、全学平均すると、約半数の人が600点以上を目標としています。特に理工学部と医学部では、600点以上を目標とする人が50%を超えています。ただ、理工学部と教育学部では400点台を目標とする比率がやや高く、理工学部では、高い点数を指向する人と低い点数を指向する人に二極化しています。

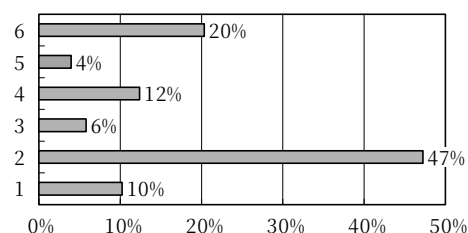
TOEIC試験に対する関心は非常に高く、3分の2以上の人がTOEIC試験を受験したいと考えていて、

その人達は大学のTOEIC向けの授業を受講したいと考えています。しかし、弘前大学では、TOEIC向けの授業を試験的に始めたばかりなので、開講の時間帯が限られています。そのため受講をあきらめている人が多いことが明らかになりました。

多言語コミュニケーション実習について

問13. 後期のⅡを履修しなかった一番の理由は、どのようなものですか？

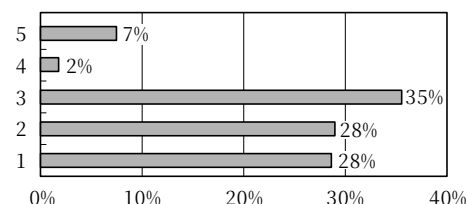
1. 前期のⅠの単位が修得できなかったから。
2. 前期のⅠで必要単位が満たされたので、後期は受講する必要はないと考えたから。
3. 前期の授業が興味深くなかったから。
4. 前期の授業が難しかったから。
5. 選択した言語そのものへの関心が低かったから。
6. その他



「必要単位が満たされたので」が一番多い理由となっており、全学部でほぼ50%を占めています。この数値は前年度同期と比較すると若干低くなっていますが、依然として多言語に対するモチベーションが高いとは言えません。

問14. 履修したのはどの言語でしたか？

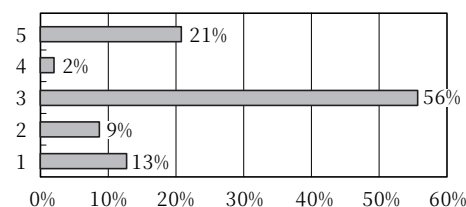
1. ドイツ語
2. フランス語
3. 中国語
4. ロシア語
5. 朝鮮語



この数値は前期の履修者数と呼応しています。このグラフには表れていませんが、独・仏語を指定されている医学部（医学科）を除き、人文・教育では中国語の履修者数が抜きんでており、理工学部では仏・中国語、農生学部では独・仏語が拮抗しています。

問15. Ⅱを履修した一番の理由は、どのようなものですか？

1. 「適宜修得単位」あるいは学部の「自由単位」に充てようと思ったから。
2. 前期の授業が興味深かったから。
3. 選択した言語そのものに関心を抱き、もっと力をつけようと思ったから。
4. 選択した言語が専門での学習に有用だと考えたから。
5. その他

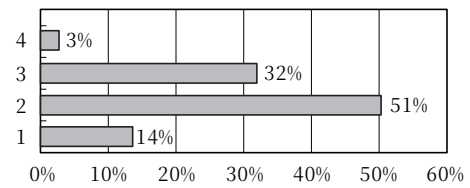


全学部で「言語に関心を抱いたから」という理由が圧倒的に多いのは評価されます。「その他」が21%になっているのは、医学部医学科での「必修」が大きな理由となっていると思われます。

問16. どのようなパターンでⅡを履修しましたか？

1. Ⅱ Aのみ
2. Ⅱ A＋Ⅱ B
3. Ⅱ A＋Ⅱ C
4. Ⅱ A＋Ⅱ B＋Ⅱ C

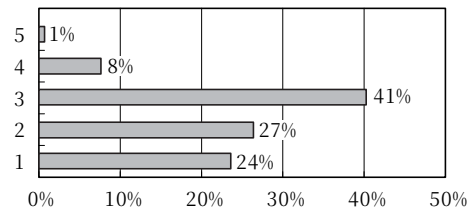
注
Ⅱ A＝総合
Ⅱ B＝会話・作文
Ⅱ C＝解説



Ⅱ A＋Ⅱ Bが半分を占め、次にⅡ A＋Ⅱ Cが続く傾向は前年度同期と変わりません。Ⅱ A＋Ⅱ B＋Ⅱ Cの組み合わせは一層減少しました。

問17. Ⅱを履修した満足度はどのようなものですか？

1. 非常に満足した。
2. かなり満足した。
3. ある程度満足した。
4. あまり満足しなかった。
5. 大いに不満だった。



前年度同期と同じく、「非常に」から「ある程度」満足まで加えると、全学部で90%を超えているのは評価できます。

(2) 科目主任による平成16年度後期学生アンケート結果に基づいた授業の分析

平成16年度後期に開講されたテーマ科目について、授業科目の科目主任に学生による授業アンケート結果を送付し、以下の3点について分析や改善への提言を依頼しました。科目主任による回答を示します。

1. シラバスと授業内容の関係は適切なものだったと判断できますか。問題点や改善を要する点があれば記入して下さい。
2. 当該科目の成績評価は、適切に行われたと判断できますか。問題点や改善を要する点があれば記入して下さい。
3. (オムニバス形式の科目の場合、回答をお願いします。) 教員間で授業内容の連携がよく図られていたと判断できますか。問題点や改善を要する点があれば記入して下さい。
4. その他

授業科目名 国際社会の現在

1. 7割以上の学生が「ほとんど一致していた」と答え、3割以下しか一致していないという回答はゼロだった。臨機応変に授業を組み立てることも時には必要だが、計画どおりに授業が実施されたことがわかる。
2. 7割の学生が「シラバスどおりに行われた」と答え、「シラバスどおりではない」と言う回答はゼロだった。成績評価方法が予定通り実施されたことがわかる。問い7(成績評価適切度)では、ほぼ7割の学生が「妥当な評価」と答え、残り3割の学生が予想以上ないしは以下と回答する。予想以上ないしは以下がゼロであるのが望ましが、平均点の操作で多少のばらつきが出た。
3. 7割5分の学生が「ある程度」ないし「非常に図られていた」と回答し、「あまり図られていなかった」「ほとんど図られていなかった」と回答した学生が2割5分いた。その中で、「非常に図られていた」とする学生が2人、「ほとんど図られていなかった」とする学生が2人あり、受け止め方に大きな違いがあることがわかる。各担当者の特色を最大限尊重しながら、連携を図ることの困難さがこのような回答となって表現されたものといえる。

授業科目名 世界の地域・国・民族

1. まず、「世界の地域・国・民族」は、授業が面白そうだから、興味がある内容だからという理由で概ね選ばれている。これは、テーマ科目の趣旨から言って歓迎されることであるし、「世界の地域・国・民族」担当教官はこの点を強く認識して授業をするのがよいであろう。次に、ほとんどの学生が、シラバスと授業内容が一致していた、成績評価はシラバスに記載された方法で行われたと感じており、この点からして、シラバスと授業内容の関係は適切なもの

であったと判断できよう。

2. 成績評価に関しては、8割近くの学生が妥当な評価であったと感じているものの、逆に言えば2割以上の学生が予想以上あるいは低すぎる評価であったと感じているわけであり、この点は、成績をより細やかにつけていく努力が教官の側に要求されるであろう。
3. オムニバス形式の科目の場合、教員間で授業内容の連携が強く図られていたと感じる学生は約半分にとどまっており、この点に関しては、教員間で、事前の話し合いを更に行うなどして授業内容に一層の連携を図る必要があると思われる。

授業科目名 紛争と平和を考える

1. シラバスと授業内容の関係は適切だったものと判断します。
2. 成績評価については、適切と思われます。

授業科目名 国際文化の展開

1. 受講生が本講座を選択した基準として、その殆どが「面白く興味ある科目」であること、「幅広い教養を身につけたい」ということの2点をあげているのは、講座の性格からして当然のことであり、担当者も十分これを心得、受講生の希望を満たすべく努めてきたつもりである。そのことは、「シラバスと授業内容の一致」という点での受講生の評価にもほぼ反映していると見ることができる。ただ「5割程度一致」以下の回答が、なお2割強存在することについては、担当者として一つの反省事項としなければならない。
2. 成績評価の方法については、担当者としてシラバスに示した約束を果たすべく努力したし、受講生の回答もほぼこれに応じたものであった。講座の性格からレポート中心ということになるが、多くの受講

生を抱えながらも、約束はほぼ果たし得たと考えている。成績評価の適正さについても、ほぼ適切との回答が得られたことは、ひとまず有り難いことであった。

授業科目名 研究・教育から見た世界と日本

1. シラバスと授業内容は関連度が高かった。
2. 成績評価はおおむね適切であった。
3. オムニバス科目における教員間の連携はよく図られていた。「ある程度図られていた」という回答についても改善されるであろう。

授業科目名 情報ネットワーク

1. 「7割以上一致していた」と判断した割合は90%であった。「3割程度一致していた」と判断した割合は4%あったが、大局的にはシラバスと授業内容はかなり一致していると判断できる。理工学部 of 回答をみると半数が「ほとんど一致していた」と判断し、残りの半数が「7割程度一致していた」と判断している。他の学部ではこの比率は7:1程度であり大多数は「ほとんど一致していた」と判断している。理工学部の学生の半数はシラバスから予想していた内容と実際の内容に相違を見いだしているようである。
2. 「シラバス通り」及び「ある程度シラバス通り」と判断した割合は89%であった。「わからない」と回答した7%を除くとほぼシラバス通りに成績が評価されていたと判断されている。成績評価を「妥当」及び「予想以上」と判断した割合は95%であった。「予想以上」と判断した2/3は理工学部の学生であり、彼らは評価を甘めと感じているようである。

授業科目名 情報の表現

1. 授業は、ほぼシラバスにそって行われた。学生の反応に合わせて、進度を調節することも必要であると思う。
2. 評価は10回に及ぶレポートの採点を基に行った。このことは学生によく知れ渡っている。

授業科目名 情報の処理

1. シラバスと授業内容はほぼ一致しており、シラバスに記載通りの成績評価が行われたものと判断できる。
2. 成績の評価基準も（学生側から見て）妥当なものであったということも示している。
3. 教員間の授業内容の連携については、ある程度は行われているものの、決して十分ではないことが問8の回答結果からわかる。授業内容の連携に関する問題は、「情報の処理（A）」の開設時からの懸案事項となっているのだが、本科目を理系以外の学生を含む一般の学生を対象に、オムニバス形式で実施すること自体がもつ構造的な問題点のように思われる。

今回のカリキュラムの再編により解決されることが期待される。

授業科目名 情報の利用

1. 89%の学生が「1. ほとんど一致していた」または「2. 7割程度一致していた」と回答しており、シラバスと授業内容の関係は適切なものだったと判断できる。
2. 87%の学生が「1. シラバスどおり行われた」または「2. ある程度シラバスどおり行われた」と回答していること、問7に対して69%の学生が「1. 妥当な評価だった」と回答していることなどから、評価は学生にとって概ね適切なものであったと判断できる。

授業科目名 情報の伝達

1. シラバスと授業内容の関係は適切であったと考えられる。
2. 成績評価についても同様ですが、相対評価を行っているため、不満があることも伺える結果だった。
3. アンケートの回収率が低かったことと、この科目はオムニバス形式でないにもかかわらず、問8の設問に約10パーセントの回答があったことは、残念である。アンケートの信頼性が損なわれると同時に、アンケートのありかたについて考える必要がある。

授業科目名 情報化革命

1. 60%が「ほぼ一致していた」を選択しており、また20%が「7割程度一致していた」を選択しているので基本的にシラバス通りの授業展開がなされたと考えられる。
2. 評価方法、および、各学生の評価について、1名の回答者のみ「不適切」と解答しているが、他の回答は概ね妥当なものであったと考えられる。

授業科目名 21世紀の環境問題

1. シラバスと授業内容の関係について、90%近い学生が、ほとんど一致していた、または7割程度一致していた、としていた。科目を選択した理由として、半数の学生が興味のある授業科目であったから、としており、シラバスを参考にして科目を選択した学生に、おおむね期待通りの内容の講義を提供できたと考えている。
2. 成績評価については、90%以上の学生が、ある程度シラバス通りに行われたとしており、およそ70%の学生が妥当な評価であったとしているので、適切であったと考えている。
3. 5～6名の教員によるオムニバス形式で行っている。この方法には批判もあるが、本科目の場合は、多様な内容を扱うことからオムニバス形式が効果的と考えることができよう。授業内容の連携につい

て、76%の学生が、ある程度、ないしはそれ以上の連携が図られていたとしていた。本科目の開始初年度に教員が集まって全体としての内容の検討を行った効果があったと考えられるが、今後も定期的に全体での検討を行うと効果的であろう。

授業科目名	環境と生活
-------	-------

1. 科目を選択した理由について、「授業が面白そうだったから」、「興味のある授業科目だったから」、および「幅広い教養を身につけたかったから」を合わせた回答が76.8%有り、期待感を持って履修していることがうかがえる。これに対し、シラバスと授業内容の一致に関しては87.0%が7割程度以上一致していたと回答しており、ある程度期待に応えることができたものと考えられる。
2. 成績評価はほぼシラバス通りに行われたと認識されているが、25%近くが「予想以上の評価」あるいは「低すぎる評価」と感じており、教員と学生の間に不一致が存在する。このような不一致はある程度やむを得ないと思われるが、学生の不信を招かぬよう厳密な評価に努めることが重要と考える。
3. オムニバス形式における授業内容の連携に関して、23.6%が「あまり図られていなかった」あるいは「ほとんど図られていなかった」と回答しており、今後の課題とすべきである。

授業科目名	環境と社会
-------	-------

1. シラバスと授業内容の関係については、「ほとんど一致していた」と答えた学生は6割以上、「7割程度一致していた」とする学生を含めると9割以上が「一致」を認めており、適切なものだったと判断できる。
2. 成績評価については、約95%の学生が「シラバスどおり行われた」としており、さらに学習努力とのかかわりでは「妥当」「予想以上」と受け止めた学生が8割以上を占めており、概ね適切な評価が行われたと考えられる。
3. 教員間での授業内容の連携についても、8割以上の学生が「図られていた」としており、基本的な連携は実現できたと考えられる。

授業科目名	環境と資源
-------	-------

1. 本授業はシラバスに掲載したとおり、「環境と生物資源」をテーマにバイオマス資源、生物・遺伝資源、木質資源についての3部構成で授業を行い、具体的な目標を達成しているかどうか、各項目の終了時点でレポートを提出させ、その達成度を確認した。授業はシラバスに則って行われ、内容も適切なものと判断される。受講生の約半数は興味のある授業科目だから選択したと答え、87%の学生がシラバスと講義内容がほぼ一致したと答えている。

2. 成績評価に関しては「成績評価の方法と基準」を参照して行ったが、学生の評価も「シラバスどおり」「ある程度シラバスどおり」合計で95%が適切だったと答えていた。さらに成績評価結果に関しても75%が適切だったと考えていた。複数教員合議の上での成績評価は、適切であったと判断される。
3. 3名の教員が「環境と生物資源」をテーマに、授業内容を分担して行っており、バランスの取れた授業内容となっている。ただし、学生のアンケート結果では32%が「あまり」「ほとんど」連携が図られていないと感じており、授業当初における授業内容の説明をさらに強化するなどの対応が必要である。

授業科目名	環境との共生
-------	--------

1. 回答者59名のうち「ほとんど一致している」が49%、「7割程度一致している」が41%であり、シラバスと授業内容がほぼ一致した授業が展開出来たと判断している。
2. 成績評価方法が「シラバスどおり」が68、「ある程度シラバスどおり」が20%、また成績評価について「妥当な評価」が80%との回答から、適切な評価を行ったと判断している。
3. 「非常に図られている」が5%、「かなり図られていた」が21%、「ある程度図られていた」が66%の回答を得た。このことから、これまで以上に、教員間で授業内容の密な連携を図り、更なる授業内容の向上に務める必要がある。

授業科目名	環境と農業
-------	-------

1. 122名のうち107名(87.7%)がシラバスと授業内容は「ほとんど」或いは「70%以上」一致していたと回答していることから、授業は概ねシラバスに記載されている通りに実施されたものと判断される。ただ、2名が「ほとんど一致していなかった」と回答しており、学生の受け取り方に随分差があることを認識した。少数だが、何故なのか今後の検討課題である。
2. 122名のうち109名(89.3%)が「シラバスどおり」或いは「ほとんどシラバスどおり」に実施されたと回答していることから、成績評価は概ねシラバスに記載されている通りに実施されたものと判断される。
3. 当該期間にそれぞれ5名と4名の教員によるオムニバス形式で2科目が開講された。アンケート回答数116名は2科目の合計であるため各授業の違いは分析できなかったが、「教員間で授業内容の連携がよく図られていたか」との問に対して、55名(47.8%)が「ある程度図られていた」、30名(25.9%)が「非常に」或いは「かなり図られていた」、31名(26.7%)が「あまり」或いは「ほとんど図られていなかった」と回答した。つまり賛否両論というところである。本授業科目は、環境と農業の関わりを様々な視点か

ら学ぶことを骨子としていることから、担当教員により視点が異なり、内容も多岐に渡らざるを得ませんが、今後一層教員間の授業内容の連携を図り授業内容に統一性をもたせたいと思う。

授業科目名	生活習慣と健康
-------	---------

1. ほとんど一致していた73%そして7割程度一致していた19%と概ね良好な評価が92%に達し、ほとんど一致していなかったと不満を示す意見は91名中1名のみであり、シラバスと授業内容の関係は適切であったと判断できる。
2. シラバスどおり行われた73%そしてある程度シラバスどおりに行われた17%と概ね良好な評価が90%に達し、否定的な意見は1名のみであり、シラバスに沿って成績評価がなされたと判断できる。さらにその成績評価を妥当な評価だったとするものが78%で、昨年度の81%ほぼ同レベルであり、特に問題はないと考えている。また、予想以上の評価だったとするものが10%ある一方、低すぎる評価であったとするものも12%あった。さらに到達目標について討議し、評価の方法と基準について検討する必要があると考えている。
3. 非常に図られていたとかなり図られていたがそれぞれ21%、そしてある程度図られていた47%と肯定的な評価が89%であったが、否定的な評価が11%にみられた。シラバス作成時に科目主任を中心に、講義担当者とそれぞれの授業内容について、さらに討議する必要があると考えている。

授業科目名	メンタルヘルス
-------	---------

1. 科目を選択した基準であるが、医学部は専門と関連があるからが多いのは当然である。他の4学部間では $P=0.53$ であった。人文学部、理工学部、農学生命学部間では差がなく、「興味ある授業科目である」が多かったが、教育学部では「面白そうだった」が23%と他学部の14%と差があった。特に人文学部と教育学部とでは選択の基準に有意差($P=0.26$)があった。シラバスと授業内容の一致については95.5%が7割以上の一致があったとの回答であり、学部間の差もなかった。
2. 成績評価がシラバスに記載されたとおりにか否かについても93.9%がある程度以上記載されたとおりの回答であり、学部間の差もなかった。成績評価は妥当とする回答が77.6%を占め、学部間の差もなかった。この質問項目は昨年と同じ質問がなされており、16年度と17年度の差は $P=0.064$ であった。17年度は妥当が77.6%と16年度の70.8%より高かった。授業の連携については全体では26.9%がかなり以上、78.6%がある程度以上の連携があったとの評価であるが、学部間で $P=0.005$ と有意差があり、医学部の評価が他学部よりも低かった。

3. 連携が難しいのはオムニバスの短所である。しかし、オムニバスの長所についての設問がなかったので、オムニバス形式に対する評価は不明と言わざるをえない。

授業科目名	障害者の健康
-------	--------

1. シラバスと授業内容の関係は皆さんの4分の3以上の方が「ほとんど一致している」と答えられており、大きな問題はなかったものと思われる。
2. 成績評価に関しては、シラバス通りに行われたとされる方が3分の2以上、また妥当な成績評価であったとされた方が9割近くおられ、方法・結果ともに妥当であったと思われる。
3. 全ての授業がオムニバス形式で行われたが、多数の教官が担当する「C障害者の医療の世界」を除いて、ほぼ整合性が図られていたのではないのでしょうか？ Cに関しては、多忙が教官が多く、一同に会したミーティングも困難なので、内容面でのすり合わせが十分ではなかったと思う。

授業科目名	薬と健康
-------	------

1. 7割以上一致した、とする回答が90%以上を占め、シラバスは授業内容を良く反映し、授業は当初の目的どおりに進められていたと考えられる。
2. 成績評価は平常評価のみで行なったが、授業に出席していれば成績評価の方法は自ら体験し、理解できたはずである。単位未修得と判定した学生がおおよそ一割おり、「問5に対する4. わからない、問6に対する3. 低すぎる評価だった。」と回答した学生の多くが未修得となった学生と思われる。平常評価のみ、という評価方法は明らかに片手落ちであり、正当な評価方法とは言い難い。H18年度のテーマ科目再編に合わせて、期末評価を組み込むように変更する予定である。
3. 薬と健康Aは10名の教員により行なわれるオムニバス形式の授業であるが、授業内容の連携がある程度図られていた、とする回答が2/3以上あり、ほぼ満足すべき結果であると考えている。今後も科目責任者を中心に連携を図り内容の充実に努力したい。
4. 評価についてはすでに述べたところではあるが、平常評価のために提出されたレポートを見ると、同一筆跡のものや、異なる筆跡であっても内容が同一のものが散見される。また授業終了間際に現れ、レポートのみを教室の外で書いている学生がいることも事実である。これらを総合的に判断し、評価の方法を改善していく。

授業科目名	発達と老化
-------	-------

1. 学生のアンケート調査の結果からは、シラバスと授業内容がほとんど一致していたと答えた学生は69%、7割程度一致していたと答えた学生が26%で

あった。両者をあわせると95%の学生が、シラバスと授業内容はおおむね一致していたと回答していた。この結果から判断するとシラバスと授業内容の関係は適切なものであったと思われた。

2. 学生からのアンケート調査の結果では、成績評価はシラバスどおりおこなわれたと答えた学生が76%、ある程度シラバスどおりに行われたと答えた学生が14%であった。成績評価と学生の努力との関係では、妥当な評価であったと答えた学生が79%、予想以上であったと答えた学生は16%であった。この結果より、成績評価は適切に行なわれたと判断された。しかし、学生の評価は出席と期末テストでこれまで行ってきたが、学生の理解度を知るためには、講義毎に学生から感想文などを提出させる評価方法の方が望ましいと考えられた。このため、学生の評価方法は、平成17年度からは講義毎の評価を重視する方式に変更することにした。具体的には、平常評価は、出席および毎回の授業で提出するレポートあるいは小テストで行ない、中間評価、期末評価については、毎回の授業担当者の平常評価の合算で評価し、期末テストは行ないこととした。
3. 発達と老化は、複数の教官が担当するオムニバス形式で授業がおこなわれているが、授業内容の連携が非常に図られていたと回答した学生は13%、かなり図られていたが19%、ある程度図られていたが54%であった。合計85%の学生が授業内容の連携が図られていたと回答している。しかし、一方、連携があまり図られていなかったと回答した学生が12%もあり、教官間で授業内容の連携についてもう少し協議する必要があると思われた。
4. 発達と老化は、平成16年度も多く多くの学生が受講した。この科目を選択した基準は、学生のアンケート結果によれば、授業が面白そうだったからが10%、興味ある授業科目だったからが37%、幅広い教養を身に付けたかったからが23%、専門と関連があるからが19%であった。様々な理由で、この授業が選択されていることが分かったが、学生の満足度に関するアンケートがあっても良かったのではと思われた。

授業科目名	最新医学の現状
-------	---------

1. 78%の学生が「ほとんど一致していた」と回答し、17%の学生が「70%程度一致していた」と回答した。合計すると95%となり、殆どの学生がシラバスの内容と授業内容について一致していたと認識している。
2. 80%の学生が「妥当な評価」と回答し、13%の学生が「予想以上だった」と回答している。一方で7%の学生が「予想より低かった」と回答している。総合すると概ね妥当な評価だったと言えるかも知れない。
3. 47%の学生が「ある程度図られていた」、23%が「かなり図られていた」、19%が「あまり図られてい

ない」、9%が「かなり図られていた」、2%が「ほとんど図られていなかった」と回答している。当該年度はある程度のテーマは設定されていたものの、かなり幅広い医学領域についてほぼ網羅的に最近の進歩についてそれぞれの裁量によって講義を行った。あえて各講師間での事前の連携はとらなかったが期せずして学生にはある程度の連携があったように理解されたのはやや意外であった。各講師の目的意識がある程度共通だったためではないと思われる。今後は、ただ単に知識の伝授、披露だけではなく、学問の真髄に触れさせる講義、すなわち学生が自分で考えて身につけることができるような方向の教育方法に転換させたいと考える。

授業科目名	健康と運動の科学
-------	----------

1. 全体の75%が「ほとんど一致していた。」と答えており、「7割程度一致していた。」と答えた学生も含めると98%という結果が示された。したがって、シラバスと授業内容の関係は適切なものであったと分析する。
2. 全体の約71%が「シラバスどおり行われた」と答えており、「ある程度シラバスどおり行われていた。」と答えた学生も含めると約92%という結果が示された。また、評価の妥当性については約83%の学生が「妥当な成績評価だった。」と回答しており、適切な評価がなされていたものと分析する。
3. 約27%の学生がよく連携が図られていたと考え、一方、約21%の学生は改善の余地があるとの結果が示された。本科目「健康と運動の科学」の場合、その科目名から担当教員の所属部局と専門領域が多岐に渡るため、このような結果が示される傾向にあると分析する。次年度以降、本科目は授業テーマ・内容をさらに絞り込み新たに出発する予定であり、このような結果が是正されるものと考え。

授業科目名	科学・技術の発達
-------	----------

授業はシラバスに沿って進められ、成績評価も妥当におこなわれたと判断される。

授業科目名	科学・技術の最前線
-------	-----------

1. 「ほとんど一致」67%および「7割程度一致」22%であり、シラバスと実際実施された授業内容はよく一致していたと考えられる。
2. 「シラバスどおり行われた」62%および「ある程度シラバスどおり行われた」26%であり、成績評価はほぼシラバスで予告された通り行われたものと思われる。また、成績評価と受講生自身の努力を対比させたアンケート(問7)から、成績評価について72%の受講生が自らの学習努力を省みて「妥当な評価だった」としている。この間からは正当な成績評価がなされたかどうかはわからない。各授業の成績

分布と合わせて検討する必要がある。

3. 回答にばらつきがある。「非常に図られていた」12%「かなり図られていた」13%「ある程度図られていた」41%「あまり図られていなかった」27%「ほとんど図られていなかった」7%「あまり図られていない」と「ほとんど図られていない」の両者をあわせると34%であり、全体として各授業を担当する教員間のグループ内での連携が不十分であったと考える。ただ、本アンケートが2つの授業を一括して集計したものであり、各授業についての実情を反映したものではない。2つの授業の内、一つについては連携はよく、他のものについては連携がはかられていなかった可能性もある。教員の連携についてはオムニバス方式の大きな課題と考える。テーマにそった授業が展開できるよう開講時に調整すべきであるが、全学担当制という前提のため、より多くの教員に参加してもらうことに力点が入り、授業内容が後付けになってしまう恐れもある。

授業科目名	生活の科学・技術
-------	----------

1. シラバスと授業内容の関係はほとんど一致していたというアンケートの回答が一番多く、回答数の73.8%を占めた。しかし、7割程度一致していたと回答した人が21%であったことから、シラバスについてはさらに見直しをして、授業内容を反映させる必要がある。
2. アンケート結果によれば、「シラバスどおり行われた」に「ある程度シラバスどおり行われた」を加えると89.3%になり、おおむねシラバスに記載された方法で行われたと推察された。
3. 16年度は3～5人の教員でオムニバス形式の授業を行った。この授業では一人当たり3～5回の担当となり、それぞれの教員の授業の意図を表せたものと思う。担当教員の間で授業の範囲が重複しないように調整を行ったが、全体を通しての展望の点で十分ではなかったと思われる。アンケート結果では授業内容の連携が「ある程度はかられていた」が一番多かったものの、「非常に図られていた」と「かなり図られていた」の合計が「あまり図られていなかった」と「ほとんど図られていなかった」の合計とほぼ同じであったことから、この点について改善する必要がある。

授業科目名	生物の科学・技術
-------	----------

1. シラバスと授業内容の関連、および成績評価の方法については特に問題はないと判断される。
2. 成績評価に関しては8割近くの学生が妥当だったと回答しているものの、約2割は予想以上の評価を受けたと思っている。本授業はオムニバス形式で行われたため、教員間で評価基準にずれがあったのかもしれない。

3. 7割以上の学生が、担当する教員間で授業内容の連携がある程度以上図られていたと回答している。一方で、ほとんど図られていなかったとする回答も8%あった。教員ごとに個別なトピックを取り上げ、そこから全体に迫る授業構成としているため、授業内容がばらついたという印象を与えたものと思われる。核となるテーマの説明やつなぎの配慮が不足なかった点は今後改善しなければならない。
4. 受講学生の半数が農学生命科学部学生で占められていた。科目選択の基準としては、興味のある授業だったから(44%)と専門と関連があるから(26%)の回答が群を抜いて多く、どちらも農学生命科学部の学生が6割以上を占めていた。幅広い教養の養成を身につけるというテーマ科目の趣旨からすると、他学部の学生にももっと興味が持てるような授業内容にしていく必要がある。

授業科目名	自然や社会の数学
-------	----------

1. シラバスと授業内容の関係は適切なものだったと判断できる。
2. 成績評価は適切に行われたと判断できる。
3. 該当せず。
4. 特になし。

授業科目名	宇宙と地球の科学
-------	----------

1. シラバスと授業内容の関係については、「ほとんど一致していた」および「7割程度一致していた」と答えた学生数が70%を超えている(73%)。「5割程度一致していた」と答えたものが約20%おり、これら学生の理解が得られるよう、講義の導入部などで、その都度内容が十分伝わるよう工夫したい。
2. 成績評価については、「シラバスどおりに行われた」と答えた学生が67%、また、成績評価が自分の学習努力に見合ったものであると答えた者が67%、予想以上に良かったとするものが33%であった(合計100%)。成績の評価については、シラバスどおり、また、学生が納得する成績がつけられたものと判断できる。

授業科目名	社会と経済
-------	-------

1. シラバスと授業内容との関係について、ほとんど一致していたと答えた学生の割合は60%、7割程度一致していたという学生は31%あり、9割をこえる学生がシラバスそって講義が行われたとみなしている。シラバスは講義内容の事前の周知に十分いかされたと判断できる。
2. 成績評価がシラバスに記載された方法で行われたと答えた学生の割合は67%、ある程度シラバスどおり行われたという学生は25%で、90%以上がシラバスに示されたルールにそって評価が行われたとみなしている。他方、評価が妥当であったと答えた学生

は70%あるものの、予想以上という学生は16%、低すぎるという学生は14%である。客観的ルールの周知と、学生の主観的判断との齟齬の問題ははみだ残る。

3. 受講動機に関して、興味があったからという学生の割合は34%、専門との関連をあげた学生は30%である。他方、教養を身につけるためという学生は24%、面白そうだからという学生は8%である。科目の特性として、教養指向的であるよりも、専門教育指向的であるとみなしえよう。

授業科目名	企業と経営
-------	-------

1. 74名中70名が5割以上シラバスと授業内容が一致していると評価している。
2. 74名中63名がある程度シラバスどおり行われたと回答しており85%以上の学生が成績評価がシラバスに記載された方法で行われたと評価している。問7は、1. 妥当な評価だったという回答が74名中55名おり、ほとんどが妥当と考えているが、2. 予想以上の評価だったという回答も11名いた。
3. オムニバス形式の科目ではないので、あやまって回答したものと思われる。
4. 問4に関しては、2. 興味のある授業科目だったからが最も多く自分の関心のある授業科目を選択する姿勢がみられる。次いで4専門と関連があるからを人文の学生が多く回答しており、3幅広い教養を身に付けたかったからが続いている。

授業科目名	社会と市民生活
-------	---------

1. シラバスと授業内容は、ほとんど一致(57%)、7割程度(19%)、5割程度(19%)、3割程度(3%)、ほとんど一致せず(2%)という分布であり、特に問題はなかったと考える。
2. 成績評価は、シラバス通り(72%)、ある程度シラバス通り(22%)、シラバス通りではなかった(0%)、分からない(6%)という分布であり、適切であったと考える。学習努力からみた成績評価は、妥当だった(54%)、予想以上(39%)、低すぎる(7%)という分布であり、適切であったと考える。
3. 授業内容の連携は、非常に図られていた(16%)、かなり図られていた(18%)、ある程度図られていた(47%)、あまり図られていなかった(14%)、ほとんど図られていなかった(4%)という分布であり、性格の異なる学問分野をミックスした授業としては、概ね連携が図られたと考える。

授業科目名	地域社会と地方自治
-------	-----------

1. シラバスと授業内容の関係については、「ほとんど一致」が85%、「7割程度一致」が13%、「5割程度一致」が3%だったので、ほぼ適切だったと判断する。なお、シラバスと授業内容が異なっていた点は、最終回に「住民の政治参加」を追加したことぐ

らいだと思うので、「7割程度一致」「5割程度一致」という回答の、残りの3割・5割が何を指すのか分からない。

2. 成績評価については、「妥当な評価」が67%、「予想以上の評価」が15%、「低すぎる評価」が18%だったので、おおむね適切に行われたと判断する。なお、期末試験の際に連絡したとおり、レポートや試験の答えは研究室で返却しているので、成績評価に不審な点があれば、それらを受け取った上で質問してほしい。

授業科目名	社会とジェンダー
-------	----------

1. 適切なものだったと思われる。
2. 担当教員同士で十分に話し合い、選択方法を多少変更した。
3. これまでどおり、多彩な視点からの授業をおこなうことができた。

授業科目名	美術の世界
-------	-------

1. アンケートに回答した学生数が少ないのが残念だが、シラバスと授業内容の関係はおおむね適切なものであるといえる。おそらくシラバスによる情報から、面白そう、興味があるなどと選択した授業内容は、ほぼシラバスと一致していたと受けとめられている(92%が5割以上内容一致と回答し、シラバス通りと答えた学生も77%)。
2. 期待以上に適切に行われたと判断できるのではない。成績評価の方法については81%以上がある程度以上シラバスに記載された方法で行われたと感じ、成績評価については80%以上が妥当とみなしている。

授業科目名	文学の世界
-------	-------

1. アンケートへ回答したのは70名弱であった。内容については、まず、シラバスと授業内容の関係適切性、成績評価はシラバス通に行われた(回答番号1と2)と答えたものが9割を占め、なんら問題はないと考えられる。
2. 7割が妥当と答え、1割以上が予想以上の評価だった、と答えている。なおこの授業は単独で行われており、全体的にみても問題点や改善点は今のところないと思われる。

授業科目名	音楽の世界
-------	-------

1. ほとんど一致が28パーセント、7割程度が26パーセントと全体の過半数を超え、一方、3割程度が12パーセント、ほとんど一致なしが11パーセントと否定的意見は少ない。従って、シラバスと授業の関係は適正と判断される。
2. 妥当59パーセント、予想以上7パーセント、低すぎる34パーセントで妥当が多い半面、不満の割合も少なくない。自由回答の別のアンケートでは、同一

タイトルで開講される3つの授業のうち、特定の1つのものに評価への不満が目立っており、成績評価の基本方針について、受講生への十分な説明が必要と思われる。

授業科目名 思想と文化

1. シラバスと授業内容と関係は、概ね適切だったと判断できる。
2. 本科目の成績評価は、極めて適切に行われたと判断できる。
3. アンケート結果と担当者の努力との相関関係が窺われる。今後も適切な授業運営を心懸けたい。

授業科目名 言語の文化誌

1. シラバスと授業内容の関係はほとんど一致していたと7割程度一致していたと判断している学生が90パーセント以上であり、目立った問題点、改善点はないと言える。
2. 成績評価についてもシラバスに記載されている方法に沿った形で行われていたと判断する学生が90パーセント以上であり、妥当な評価であったとしている学生が75パーセント以上を占めていることから問題点及び改善点はないと思われる。
3. オムニバスの連携に関する学生の判断はある程度、図られていたとあまり、ほとんど図られていなかったが72パーセントという高い数字であり、オムニバスの形式をとる場合は教員間の事前の連携が必要であると言える結果であった。オムニバスの形式の採用はそれぞれの分野の特性を考えた上で行うべきであろう。分野によっては馴染まないということであり、分野の特性を踏まえて判断すべきであると考えます。

授業科目名 くらし・歴史・文化

1. 授業科目の選択基準として、「面白そう・興味ある・幅広い教養の取得」など多くの学生が積極的に履修したことが伺え、シラバスは学生に興味を引く授業内容であったと思われる。また実際に、その授業内容はシラバスと5割程度以上が一致していたと約70%の学生が回答しており、良好な評価を得ている。しかし「ほとんど一致」と「3割程度一致」の回答が、1番多い分布であることは、改善の余地が考えられる。
2. 成績に関しては、実際の評価法とシラバス掲載法は、90%以上の学生が「シラバスどおり・77%」、「ある程度シラバスどおり・15%」と回答している。また「評価」と「学生の努力」との関係は、「妥当な評価・77%」、「予想以上の評価15%」と回答しており、成績評価は十分に適切だったと判断できる。
3. オムニバス形式での授業展開は、「かなり図られていた」との回答があるものの、回答数が非常に少なく、学生にとって判断が困難だったことが伺える。

授業科目名 人を育む営み

1. 「ほとんど一致」66%、「7割程度一致」が27%、「両者合計で93%という結果である。シラバスと授業内容はかなり一致しており、適切な関係にあったと判断される。
2. 「シラバス通り」63%、「ある程度シラバス通り」26%、「両者合計」で82%という結果である。成績評価は概ねシラバスに記載した通りの方法で行われたと判断される。問7集計によると「学生の学習努力から見て妥当な成績評価」とする者が71%あるので、評価は概ね学生の学習努力に見合っていたと判断される。

以上から成績評価は概ね適切であったと言える。ただし、問7で「学習努力に見合っていない(甘すぎる+辛すぎる)」が29%という点は、評価の仕方を見直すなどの改善の余地があることを示している。

3. 「非常に図られていた」15%、「かなり図られていた」15%という結果であり、両者合計でも30%に留まった。結局、最も多かったのが「ある程度図られていた」52%であり、したがって「連携が悪い」というほどではないが、「連携が良い」とも言えないようである。以上から授業内容の連携を高めるべく改善する余地があると思われる。ただし、一つのテーマを多角的に考えることの良さがオムニバス授業にはあり、兼ね合いを考慮しなければならない。

授業科目名 人間の尊厳

1. 本科目のシラバスと授業内容の一致率は1と2が96%を占めている。成績評価の一致率も1と2が83%を占めた。授業と成績評価は、シラバスに記載した通りに行われたと判断される。本科目の選択は色々な理由によるが、シラバスの記載がその材料を提供し、シラバスの役割を果たしていると考えられる。
2. 妥当な評価とするものが71%、予想以上とするものが23%であり、適切な評価が行われたと考えられる。
3. 1が29%、2が15%、3が44%を占め、授業内容連携の程度は、それ程高くない。ただし、授業担当者の創意工夫を考慮すると、この程度の数値で満足すべきかも知れない。

授業科目名 生態系の中の人間

1. 「ほとんど一致していた。」2. 「7割程度一致していた。」で100%を占めているので、シラバスと授業内容の関係は適切なものだったと判断できる。
2. 科目の成績評価は、1. 「シラバスどおり行われた。」2. 「ある程度シラバスどおり行われた。」で92%を占めているし、又、1. 「妥当な評価だった。」と答えた人が83%であること。3. 「低すぎる評価だった。」との答えが0%であることから当該科目の成績評価は適切に行われたと判断できる。

3. 2. 「かなり図られていた。」 3. 「ある程度図られていた。」という回答を合わせると72%になるので、教員間で授業内容の連携はある程度図られていたとして問題ないと思われる。しかし、残り27%が、あまり図られていないと回答しているので、もう少し授業内容の順番等を改善する必要があるかも知れない。
4. 受講条件として「2回目の講義までにレポート2枚提出」を課しているにも関わらず、「興味のある授業」と考えて受講した学生が大部分なので、問題意識が強く、授業はやりやすかった。

授業科目名	人間の知
-------	------

1. 7割方の学生が「ほとんど一致」と回答しており、「7割程度一致」と回答した学生も2割あり、合わせると約9割の学生がほぼ一致していると受け止めていたことがわかる。このことより、シラバスと授業内容との関係は適切なものであったと判断できる。
2. シラバスとの関係についての問6の回答、および、自分の学習努力から見た問7の回答のいずれにおいても学生から良好な評価を受けていることから、成績評価は適切に行われたと判断できる。
3. 該当せず
4. アンケート結果を見る限り、授業は適切に行われたと判断できる。

授業科目名	創造する人間
-------	--------

1. テーマ「創造する人間」、そしてサブテーマは「創造と破壊」、1960年代を中心に創ること、壊すことの関係性を展開した。今までのアカデミックな意味での「芸術」というワクを超へ、カルチャー、サブカルチャー問わず考察した。シラバスの授業内容と少々ずれた理由は、学生たちの興味、感心と理解度に合せ授業展開をした。授業は常にライブでありシラバ

ス通りでは、一方的な授業になってしまうので、この方法をとった。

2. 出席率を重んじ、毎週作文による感想文を提出させた。ほとんどの学生が、熱心で出席率は非常に良かった。最終的に点数の差が、少なかったように思う。

授業科目名	人間のこれから
-------	---------

1. 「ほとんど一致していた」と回答している学生が25人(62.5パーセント)、「7割程度一致していた」が8人(20パーセント)、という回答状況からして、概ねシラバスに合致した授業内容であった、と考える。
2. 4人の教員で授業を分担し、それぞれグループ指導を担当した教員が担当したグループの学生について成績評価を行っているので多少の「個人差」はあり得るが、教員同士の協議をつみかさねており、「個人差」は極めて少ないと考える。アンケート調査でも、「シラバスどおり行われた」という回答が25人(62.5パーセント)、「ある程度シラバスどおり行われた」が10人(25パーセント)で、成績評価も「妥当な評価だった」という回答が34人(85パーセント)あり、概ね適切に評価が行われている、と考える。
3. 4人の教員がそれぞれに現代的な課題を様々な領域(例えば、資源・エネルギー、教育、少子高齢化、等々)から取り上げているので、「授業内容の連携」ということでは自ずと統一性の欠如したものにならざるを得ない、と考える。また、学生の側での問題意識・一般教養のレベルの問題も関連すると考える。そうした状況の中で、「あまり図られていなかった」という回答と「ほとんど図られていなかった」という否定的な回答の合計は9人(27.3パーセント)にとどまっていることは、「授業内容の連携」にこだわらず「実際に受講して勉強になった」という肯定的な評価がなされた、と捉えたい。

3-2

(1) 平成17年度前期学生アンケート調査の概要

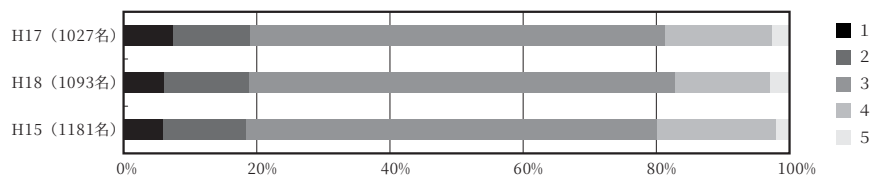
1年生に対するアンケートでは、これまでとほぼ同様に、入学時のガイダンスやシラバスに対する印象、基礎教育科目に対する反復履修や履修人数制限に関する意識、基礎教育科目、英語・多言語コミュニケーション実習、情報処理演習、スポーツ・体育実技、芸術実技、基礎ゼミナールに関する意識を調査し、その実態を把握することを目的としました、一方、2年生に対しては、1年次に履修した「情報処理演習」と「基礎ゼミナール」の学習内容がどれくらい活用されているかという視点からのアンケートを行いました。回収率は1年生が74% 2年生が51%でした。

一年生に対するアンケート

〈開講時のことがらについて〉

問2) ガイダンスや『履修マニュアル』を通じて、「21世紀教育」の重要性や意義が理解できましたか？（回答数1027）

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 充分理解できた (7.6%) | 2. かなり理解できた (11.7%) |
| 3. ある程度理解できた (61.9%) | 4. あまり理解できなかった (15.9%) |
| 5. ほとんど理解できなかった (2.9%) | |



充分理解できた、かなり理解できた、ある程度理解できたを合わせると81.2%（H16は79.9%、H15は82.6%）が理解できたようです。意見のちらばりは毎年殆ど同じです。

問3) ガイダンスの説明で、21世紀教育の履修のしかたがよく理解できましたか？

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 充分理解できた (7.0%) | 2. かなり理解できた (13.8%) |
| 3. ある程度理解できた (49.4%) | 4. あまり理解できなかった (23.8%) |
| 5. ほとんど理解できなかった (5.9%) | |

充分理解できた、かなり理解できた、ある程度理解できたを合わせると70.2%（H16は62.8%、H15は69.6%）が理解できたようです。

問4) 「履修相談」に行きましたか？

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1. 相談に行った (55.5%) | 2. 相談に行かなかった (44.5%) |
|-------------------|----------------------|

全体の半分くらいの人が相談に行くようです（H16は54.4%）。

問6) 『履修マニュアル』の解説は分かりやすかったですか？

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 非常にわかりやすかった (5.2%) | 2. かなりわかりやすかった (18.9%) |
| 3. ある程度わかりやすかった (58.5%) | 4. あまりわかりやすくなかった (15.4%) |
| 5. 非常にわかりにくかった (20%) | |

非常にわかりやすかった、かなりわかりやすかった、ある程度わかりやすかったを合わせると82.6%（H16は80.0%、H15は83.6%）がわかりやすいと感じています。

問7)『授業計画解説』(シラバス)を読んだときの印象と実際の内容とが対応している授業が多かったですか？あなたが履修した授業全般について教えてください。

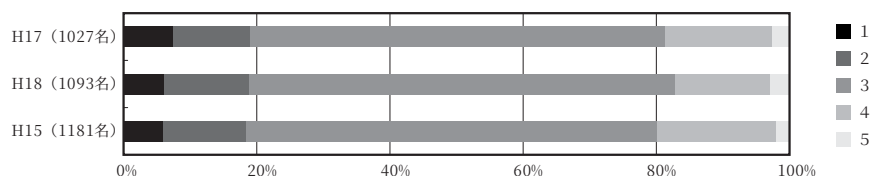
- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 多かった (82%) | 2. かなりあった (31.6%) |
| 3. 半分程度あった (49.0%) | 4. かなり少なかった (9.4%) |
| 5. ほとんどなかった (1.9%) | |

多かった、かなりあったと感じた人は39.8%で、H16では39.5%、H15では34.5%、H14では32.4%でしたので増加傾向にあるかもしれません。

〈基礎教育科目について〉

問8) 21世紀教育では、副題・内容が異なっている場合でも、授業科目名が同じであれば、同一授業の反復履修禁止と規定しています。同一授業の反復履修禁止をどう思いますか？

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| 1. 非常に良い (一年生4.7%、二年生3.8%) | 2. かなり良い (同6.7%、2.9%) |
| 3. ある程度良い (同28.0%、27.0%) | 4. あまり良くない (同49.0%、47.6%) |
| 5. 非常に良くない (同11.6%、18.7%) | |



あまり良くない、非常によくないを合わせると一年生では60.6%、二年生では66.3%でした。H16はそれぞれ56.1%、72.1%、H15は60.5%、81.8%でしたので二年生に関しては良くないとする意見が年々低下する傾向にあるようです。

問9) 基礎教育科目では、履修制限を避けるために、授業によって履修者が大人数 (例えば150名以上) に上る場合があります。これについてどう思いますか？

- | |
|--|
| 1. どれだけ大人数であっても履修制限を受けるよりはよい (一年生64.7%、二年生60.5%) |
| 2. 多くとも150名くらいで履修制限すべきだ (同22.7%、28.2%) |
| 3. 100名くらいで履修制限すべきだ (同12.6%、11.2%) |

過半数の人が履修制限に反対のようですので、履修制限をなるべく回避するような工夫が必要でしょう。

〈英語コミュニケーション実習について〉

問12) 入学時の習熟度に基づいたクラス編成についてどのように考えますか。(回答数975)

- | |
|---|
| 1. 習熟度に基づいたクラス分けでよい
(レベルⅠ、94.6%；レベルⅡ、88.9%；レベルⅢ、75.9%) |
| 2. 習熟度とは関わりのないクラス分けがよい
(レベルⅠ、5.4%；レベルⅡ、11.1%；レベルⅢ、24.1%) |

レベルが上がる程、「習熟度とは関わりのないクラス分けがよい」という回答の割合が大きくなりますが、「習熟度に基づいたクラス分けでよい」という回答が9割程度ですので、現行の習熟度別クラス編成が概ね支持されていると考えて良いでしょう。

問13) あなたはどのレベルにクラス分けされましたか。そのレベルはあなたの英語力から言って、適切なレベルでしたか。(回答数974)

1. 適切なレベルであった (レベルⅠ、80.2%；レベルⅡ、79.9%；レベルⅢ、67.2%,)
2. 高すぎるレベルであった (レベルⅠ、3.6%；レベルⅡ、11.5%；レベルⅢ、27.6%,)
3. 低すぎるレベルであった (レベルⅠ、16.6%；レベルⅡ、8.5%；レベルⅢ、5.2%,)

レベル1では1割から2割が「低すぎるレベルであった」、レベル3では2割強が「高すぎるレベルであった」と回答しています。よりの確なクラス分けの方策が求められていると考えられます。

問14) 英語コミュニケーション実習で受けた成績評価について、あなたの学習の努力から考えて適切だと思いますか。(回答数970)

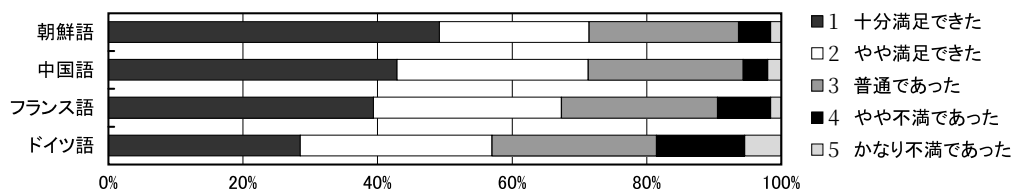
1. 妥当な評価を受けた (79.5%)
2. 高すぎる評価を受けた (11.1%)
3. 低すぎる評価を受けた (9.4%)

約2割が自分の努力に見合っていないと回答していますが、英語コミュニケーション実習の場合、クラスの数が多く、多数の教員が関与しているため、より詳細なクラスごと教員ごとの評価の妥当性を調査する必要がありますと考えられます。

問15) あなたはどの言語を履修しましたか

その言語を履修して満足できましたか

- | | | |
|----------|------|---------------|
| a. ドイツ語 | 選択項目 | 1. 十分満足できた。 |
| b. フランス語 | | 2. やや満足できた。 |
| c. 中国語 | | 3. 普通であった。 |
| d. 朝鮮語 | | 4. やや不満であった。 |
| | | 5. かなり不満であった。 |

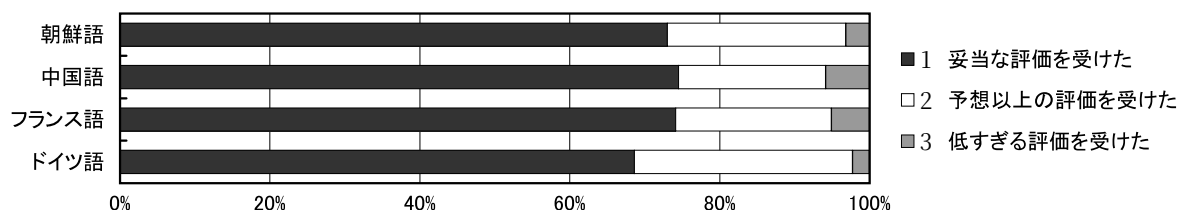


全学部統計からみて、1、2、3ではほぼ7割を占めていることがわかります。

アンケートの回答数の増加もあって、去年度後期の1、2の24%、27%をかなり超えており、逆に3と4は昨年度の41%、8%から23%と7%と下がっていることは評価できるでしょう。ただし、5では昨年後期の1%に対し、今年度は4%と高くなっています。

問16) 多言語コミュニケーション実習で受けた成績評価について、あなたの学習の努力から考えて適切だと思いますか。

1. 妥当な評価を受けた。
2. 予想以上の評価を受けた。
3. 低すぎる評価を受けた。



選択肢1が7割以上を占めていることから、成績評価はおおむね妥当であると言えます。ただし、選択肢2が2割強を占めていることからみれば、やはり成績評価にアンバランスか甘さがあるのではないかと思います。なんらかの改善策を講じる必要があるでしょう。

〈情報処理演習について〉

問17) あなたはどのレベルで履修しましたか。授業の内容は、あなたにとって適切なものでしたか。(回答数870)

1. 適切なレベルであった (レベル1、78.8%；レベル2、79.5%；レベル3、71.8%,)
2. 高すぎるレベルであった (レベル1、11.3%；レベル2、10.8%；レベル3、9.7%,)
3. 低すぎるレベルであった (レベル1、10.0%；レベル2、9.7%；レベル3、7.7%,)

レベル1・レベル2・レベル3とも、2割程度が不満を持っているため、レベル分けを適切に行う基準を明確にするなど何らかの方策を講じる必要があると考えられます。

問18. 情報処理演習で受けた成績評価について、あなたの学習の努力から考えて適切だと思いますか。(回答数869)

1. 妥当な評価を受けた (レベル1、82.5%；レベル2、8.8%；レベル3、8.8%,)
2. 高すぎる評価を受けた (レベル1、80.3%；レベル2、15.2%；レベル3、4.5%,)
3. 低すぎる評価を受けた (レベル1、84.6%；レベル2、7.7%；レベル3、7.7%,)

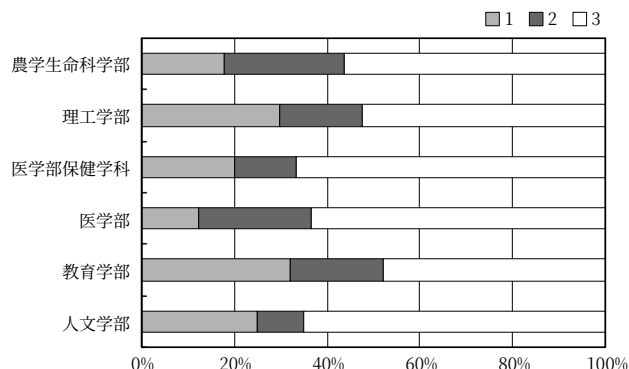
各レベルとも2割程度が自分の努力にあっていないと感じています。やはり、成績の評価基準を明確に伝えるなど何らかの方策を講じる必要があると考えられます。

〈スポーツ・体育実技について〉

問19) スポーツ・体育実技を履修しなかった人におたずねします。あなたがスポーツ・体育実技を履修しなかった主な理由は何ですか。

1. スポーツがあまり好きでない。
2. 興味ある種目がない
3. 受講する時間帯がとれなかった。

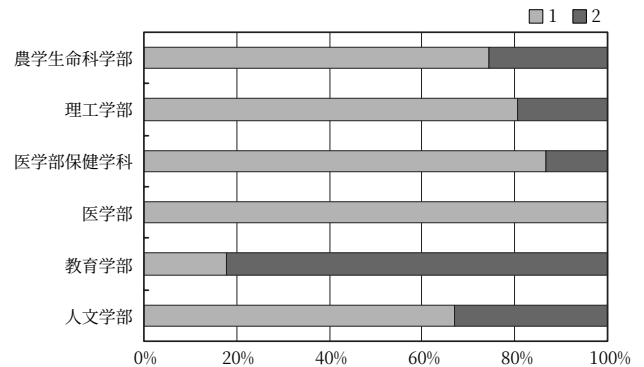
「受講する時間帯がとれなかった」が、全回答の半数を超えています。平成14年度前期のアンケートでも全体の67.8%が同様に回答しており、実技の内容によっては、希望の時間帯に調整するのが今でも難しいことがわかります。



問20) スポーツ・体育実技を履修した人におたずねします。あなたがスポーツ・体育実技を履修した主な理由は何ですか。

1. スポーツが好きだから。
2. 教員の資格を取りたいから。

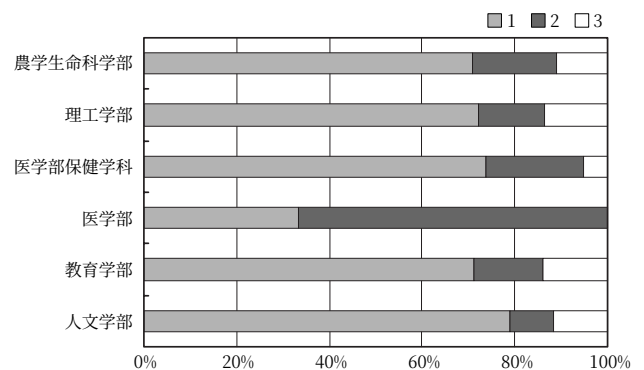
教育学部では教員資格のためとする回答が圧倒的に多く、スポーツへの嗜好よりも教員資格取得がより重要な動機として意識されているようです。



問21) スポーツ・体育実技で受けた成績評価について、あなたのできばえから考えて適切だと思いますか。

1. 妥当な評価を受けた。
2. 予想以上の評価を受けた。

医学部学生のみが「予想以上」を選んでいます、多くが成績評価を妥当としています。

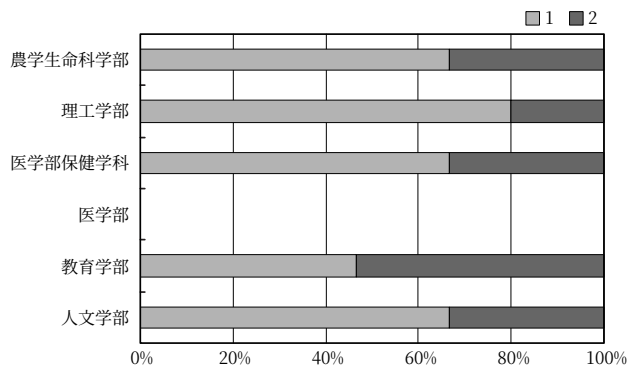


〈芸術実技について〉

問23) 芸術実技で受けた成績評価について、あなたの学習の努力から考えて適切だと思いますか。

1. 妥当な評価を受けた。
2. 予想以上の評価を受けた。
3. 低すぎる評価を受けた。

問21と比べて「予想以上」が多く選ばれ、50%を超えた学部もありました。芸術表現についてスポーツよりも自己評価が低いことのあらわれともとれる傾向が見えます。医学部は回答なし。

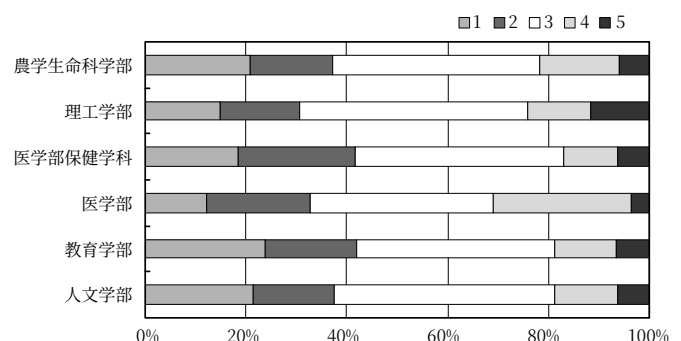


〈基礎ゼミナールについて〉

問24) 基礎ゼミナールは大学の学習生活に溶け込むために役立ちましたか。

1. 非常に役に立った。
2. かなり役に立った。
3. ある程度役に立った。
4. あまり役に立たなかった。
5. ほとんど役に立たなかった。

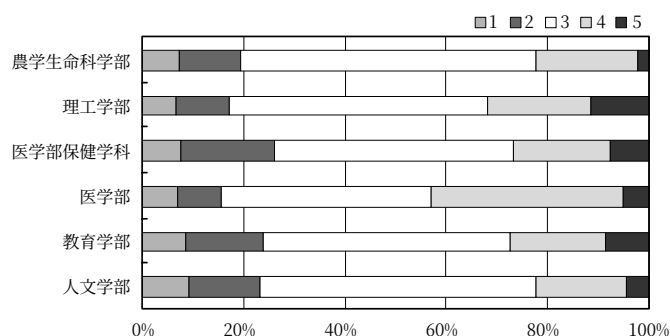
大学の学習環境に慣れる上で、基礎ゼミナールがその役割を果たしていることがわかります。



問25) 基礎ゼミナールを履修した結果、大学における学習に必要な基本的な技能が獲得できたと思いますか。

1. 大いに獲得できた。
2. かなり獲得できた。
3. ある程度獲得できた。
4. あまり獲得できなかった。
5. ほとんど獲得できなかった。

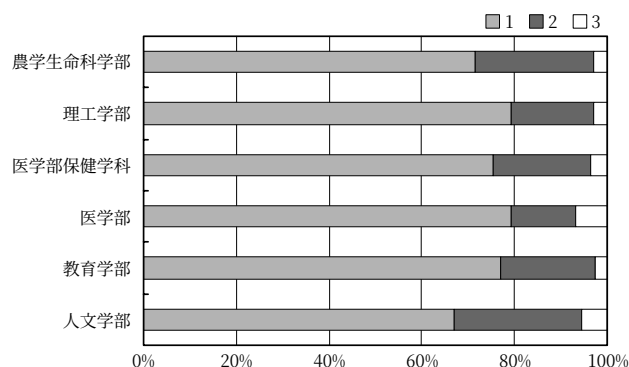
平成14年度前期実施分の回答でも、「ある程度」が全学で46.5%、「あまり獲得できなかった」が21.9%と高い割合を占めていました。当時の分析では、基礎ゼミナールがスタートして初めてだったことや、実施ガイドラインの不備などを原因として考えていました。しかし、このような問題は、次の問26の回答でみるように、すでに改善されているはずです。それにもかかわらず今も同じ傾向が続いているということは、アンケート実施時点でわずか数ヶ月間程度の大学生活では、設問でいう「基本的な技能」を用いる機会がまだ少ないことを表しているようです。



問26) 基礎ゼミナールで受けた成績評価について、あなたの学習の努力から考えて適切だと思いますか。

1. 妥当な評価を受けた。
2. 予想以上の評価を受けた。
3. 低すぎる評価を受けた。

全学で妥当な評価を受けたとする回答が半数を大きく超えています。基礎ゼミナールは円滑に実施されているといえます。



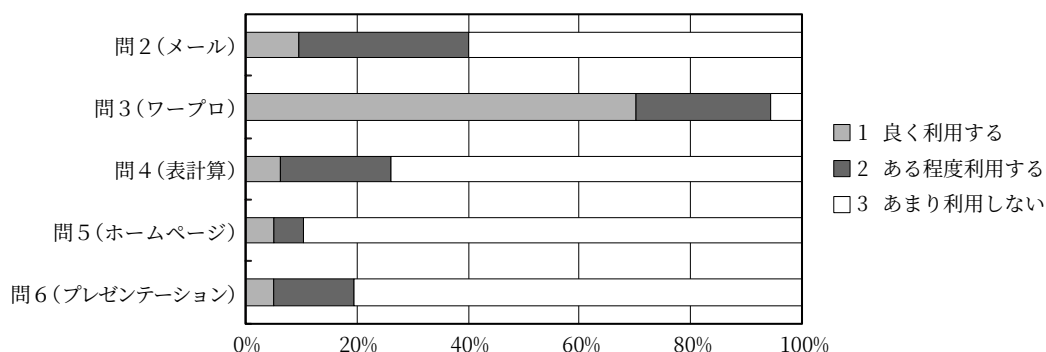
2年生に対するアンケート

〈情報処理演習について〉

情報処理演習で学んだ内容を現在活用していますか。(回答数706)

- 問2. メールのやり取りにパソコンを使用していますか？
- 問3. レポート等の作成にワープロソフトを使用していますか？
- 問4. レポート等の作成に表計算ソフトを使用していますか？
- 問5. ホームページを作成していますか？
- 問6. 発表にプレゼンテーションソフトを使用していますか？

回答は問2～6とも、1. よく使用している；2. ある程度使用している；3. あまり使用していない。



問2～6は、1年次に情報処理演習で学んだことが活かされているかを調査する質問です。問2の「メールのやり取り」に対しては、パソコンを利用しているという回答がかなり少ない結果でした。これは、携帯電話によるメールの利用が影響していると考えられます。今後は、携帯電話を含めたメール利用の実態を調査する必要があります。問3の「レポート等の作成」では、ほとんどの学生がワープロソフトを利用していると回答しています。これに対して、問4の「レポート等の作成に表計算ソフトを使用していますか?」、問5「ホームページを作成していますか?」、問6「発表にプレゼンテーションソフトを使用していますか?」に対しては、ほとんどの学生が利用していないと回答しています。これは、2年次までの段階では、比較的簡単なレポートが課題として課せられることが多く、より詳細なグラフや表を多用するようなレポートや、口頭発表などを課されることがほとんど無いことを反映していると考えられます。情報処理演習で学んだ事項がどれだけ活用されているかを知るためには、ゼミに所属し、卒業研究を控えた、3年次・4年次の学生を対象とした調査を行う必要があります。

〈基礎ゼミナールについて〉

「基礎ゼミナール」を通して学んだ内容は、現在役に立っていますか。(回答数706)

問7. レポートの作成に役立っていますか?

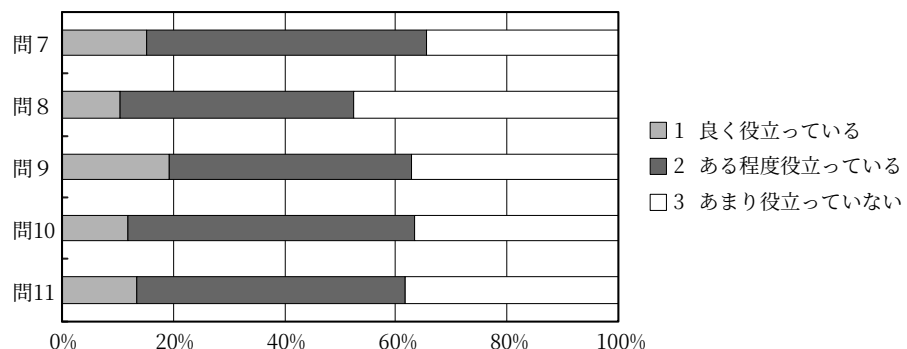
問8. 発表などのプレゼンテーションに役立っていますか?

問9. 図書館などの資料検索に役立っていますか?

問10. 自主的な学習態度を身につけることに役立っていますか?

問11. 興味ある課題を探すことに役立っていますか?

回答は問7～11とも、1. よく役立っている; 2. ある程度役立っている; 3. あまり役立っていない。



問7から問11に対する回答はいずれも、「よく役立っている」が1割から2割程度、「ある程度役立っている」が4割程度、「あまり役立っていない」が4割から5割程度という、ほぼ同様な回答のパターンが現れています。これは、2年次の学生が、まだこの設問で問われている事柄を実践する機会が少ないことを反映していると考えられます。基礎ゼミナールで学んだこと、あるいは、学ぶべきだった事の価値を実感するには、ゼミの発表や卒業研究などに取り組む3年次や4年次の段階まで待たなくてはならないのではないかと思います。したがって、基礎ゼミナールの効果を調査するためには、同様のアンケートを、3年次・4年次の学生に対して継続的に行う必要があると考えられます。

〈その他〉

問12) 21世紀教育では、副題・内容が異なっている場合でも、授業科目名が同じであれば、同一授業の反復履修禁止と規定しています。同一授業の反復履修禁止をどう思いますか？

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1. 非常に良い (38%) | 2. かなり良い (29%) |
| 3. ある程度良い (27.0%) | 4. あまり良くない (47.6%) |
| 5. 非常に良くない (18.7%) | |

あまり良くない、非常によくないを合わせると二年生では66.3%でした。H16は72.1%、H15は81.8%でしたので良くないとする意見が年々低下する傾向にあるようです。

問13) 基礎教育科目では、履修制限を避けるために、授業によって履修者が大人数（例えば150名以上）に上る場合があります。これについてどう思いますか？

1. どれだけ大人数であっても履修制限を受けるよりはよい (60.5%)
2. 多くとも150名くらいで履修制限すべきだ (28.2%)
3. 100名くらいで履修制限すべきだ (11.2%)

過半数の人が履修制限に反対のようですので、履修制限をなるべく回避するような工夫が必要でしょう。

(2) 科目主任による平成17年度前期1年生学生アンケート結果に基づいた授業の分析

平成17年度前期に開講された基礎教育科目について、それぞれの授業科目の科目主任に学生による授業アンケート結果を送付し、成績評価の妥当性と自由記述に対する意見などを求めました。科目主任による回答を示します。

1. 当該科目の成績評価は、適切に行われたと判断できますか。問題点や改善すべき点があれば記入して下さい。
2. 自由記述のうち当該授業科目に関わる記述があれば、それに対して回答またはコメントをお願いします。
3. その他(21世紀教育センターへの要望などがあればお書き下さい。)

授業科目名 言語学の基礎

1. 116名の受講者のうち、97名が妥当な成績評価を受けたとし、高すぎるが12名、低すぎるが7名となっている。大人数の講義科目でありながら、受講生のうち、94%の学生が評価に満足した(高すぎるとの回答も含む)と考えらる。問題なく、改善の必要もないものと判断できる。

授業科目名 芸術学の基礎

1. 妥当な評価を受けたという回答が8割以上、低すぎる評価を受けたという回答が1割以下ということを見ると、適切な評価が行われたと判断される。
2. 機器に関して事務方の対応が遅くて授業がつぶれたという記述があった。担当教員の責任ではないようである。
3. 前項に関連してのことですが、教室の視聴覚機器設備について強く言いたいことがあります。「ただつけておけばよい」というおぼろげな感覚で設置された機器が多数あります。具体的には、
 - ・ピントの合わないプロジェクター
 - ・スクリーンに干渉する(移動できない)教室設備
 - ・教室規模に対して小さすぎるモニター
 総合教育棟の改修時に、実際に視聴覚機器を多用する授業を開講している教員が設計したものを事務方の判断で勝手に変更されてしまったということさえもありました。早急に全教室の視聴覚機器の詳細な点検を、実際に使用することで、行ってください。ことに美術系の授業では複数のスクリーンを使いたい場合がありますが、そのような設備は用意されていません。定時に授業を始めるために、20分くらい前から教室に機材を持ち込んで準備しなければならないこともあります。昼休みを挟んで前後に授業がある場合など、満足に昼食も摂れません。

これは視聴覚機器操作に不慣れた教員の意見ではありません(実際に私は視聴覚機器操作の専門科目の授業も担当しております)。予算ということで無

視されるような問題とは異なる次元のものだと思います。迅速な対応をお願いいたします。

授業科目名 心理学の基礎

1. 73.6%の学生が、「妥当な評価を受けた」と回答しているため、おおそ成績評価は適切に行われたと判断している。
2. 第一の問題はオムニバス形式である。心理学の基礎の価値を認める記述がある一方で、(心理学の基礎とは限定されていないが)オムニバス形式の講義では中身が薄くなるという記述が散見された。学生との私的なコミュニケーションでも、その問題は指摘を受けている。そのため、心理学の基礎はできるだけ早い時期に3人程度の教官で1コマを担当し、各教員がより長い時間をかけて講義を行う形式への転換を計画している。

第二の問題として、「401講義室で右前に座るとスクリーンが見えない」という不満が寄せられている。この点については、科目主任(石黒)も講義の際に認識している。心理学の基礎単独で対応が取れる問題ではないが、教員としても改善を希望している(それ以前にセンターの問題でさえないが)。

第三の問題は履修制限である。履修者多数時の人数制限と、反復履修禁止の双方への不満がある。これも心理学の基礎に限定した記述ではないが、不満は多い。もちろん解決は容易ではない。反復制限を緩めれば人数が増え、教室に入れないという事態が生じるし、人数の制限は物理的に不可避である。さらに、むしろ履修制限を厳しくし、少人数制とすべしという要求もある(上限を100人程度にするべしという意見がある)。

すでに書いたように、心理学の基礎は1コマ3人担当制への変更を計画しているが、この変更により、個々の講義の中身が変わってくることになる。そのため、反復履修の要望が出てくることが予想される。当面はシラバスにそれぞれのコマの内容を十分に書

いたうでで学生の選択に任せるが、履修状況を見ながらよりよい授業形態を模索する必要があると考えている。

授業科目名	教育学の基礎
-------	--------

1. 「妥当な評価」という意見が60%程度であり、評価は適切に行うことができたと考えられる。「予想以上の評価」の回答が30%程度あった。これは出席点や平常点の割合が高いためではないかと思われるため、期末試験との割合について検討する余地があると考えている。
2. 担当科目に対する直接的な意見は見あたらなかった。ただし、オムニバス形式で行われる講義の問題点について、いくつか指摘が見られたため今後の参考としていきたい。
3. 多人数収容教室ではマイクを使ってほしいとの要望が多く見られた。机に備え付けのマイクは使い勝手が悪いので、ワイヤレスマイクを設置してほしい。

授業科目名	古典語実習（漢文）
-------	-----------

1. 成績評価は、ほぼ適切に行われた。低すぎると感じた人はゼロである。予想以上の評価を得たと感じた人が、回答者17人中7人と多かったのは、受講生の偽らぬ気持ちと思われる。試験の成績が必ずしもよくなく、平均点のある枠内に収めるために、評価を甘くせざるを得ないところがあったためである。

授業科目名	古典語実習（ギリシア語Ⅰ）
-------	---------------

1. 古典語実習（ギリシア語Ⅰ）について、アンケート調査に回答を寄せてくれた受講学生のうち、約8割が成績評価について「妥当な評価を受けた」と回答し、残り2割が「予想以上の評価を受けた」と回答している。この結果から、当該授業の成績評価は適切であったと一応判断することができる。
3. 17年度前期の古典語実習（ギリシア語Ⅰ）については、学生諸君のモチベーションの高さが例年になく顕著であった。今後とも、熱意のある学生諸君と一緒に、授業をよりあげていきたいと考えている。

授業科目名	会計学の基礎
-------	--------

1. 79.6%の学生が妥当な評価としており、学部によってもほとんど差がなかった。平均点75点として評価したが、科目の性質上100点か0点かという解答が多くなり、A評価の割合が56%と高かった。そのためアンケート上で学生の反応がよいのも納得できる。また、全て初心者を対象にした授業のため、教科書の解説と練習問題の反復練習を行えば十分解けるような試験問題のため、講義の出席を加味してもいくらか評価が易しかったきらいがある。それが、低すぎるという学生がわずか2%であった原因

であろう。ただし、日頃の不勉強を期末試験前にまとめて取り戻そうとして学生には苦しかったと見え、10%以上の23人不可となっているのは残念である。もっと早くから小テストを頻繁にやれば防げたかもしれない。

2. 〔1年生：教育学部〕

会計学の基礎は例年150人程度で、席は2～3回目の講義に固定しています。前の方にも空席がありましたので、もっと早めに窮状をご相談頂ければ、変更も可能でした。このような理由なら喜んで変更させていただきます。

マイクは、音量を上げたくても今が限界のようです。これまで私語を防ぐために机間を巡回していましたが、今回はエクストラの増設席が作られ、通路を歩くのもままなりません。また、ワイヤレス・マイクの電波も後ろの方の席に行くと届かなくなり、苦勞しています。

板書は、このような大教室の授業の場合、通常は上下2段の黒板を使用しますが（医学部臨床講義室にある）、その設備がないため、教科書のまま話を進めるようにして、出来るだけ板書をしないようにしています。（なお、同じ教室で行なっている専門科目では練習問題の解答を私や学生が板書していますが、見えないと言う苦情は聞いておりません。）

ただ、最後尾の増設席では黒板は見えないだろうと思います。それで、席を決める時もっと前に座るように勧めましたが、聞き入れていただけなかった。最後尾の皆さんの意思を尊重しました。アンケートのような方は、出来るだけ前に座るようにしていただければ幸いです。

なお、マイクと黒板の改善はセンターの方に要請しているのですが、予算の関係上なかなか進まないようです。

〔2年生：人文学部〕

総合教育棟305や306の教室で150人程度の受講者を対象に授業を行なっている時には私語はありませんでした。総合教育棟301でも150人程度の時は私語はありません。総合教育棟301に増設席を付けて200人以上の受講者がいると私語が出るようです。理由は上記の通りですが、マイクと黒板は今と変わりありませんでしたので、机間巡回が出来ないのが最大の原因ではないかと思っています。私の授業は予習を勧めますが、教科書の練習問題を予習してこない学生がいると、緊張感が薄れて私語が出るかもしれません。（専門科目では問題がなかったのもそのままだけにしていたが）、これから小テストを増やすなどして緊張感を与えるようにすれば防げるかもしれません。

3. マイクと黒板の整備をお願いします。

授業科目名	経営学の基礎
-------	--------

1. 成績評価について、61%の学生が妥当であると答えている。一方で、予想以上の評価であったとする学生は18%、低すぎると考えていた学生が21%であった。期末におこなった試験の成績は全体的に低く、そのため試験以外のものを加味して総合的に判断をして評価をおこなっている。そのため試験の印象とは異なる評価であると思った学生も見られたのではないだろうか。そのことを勘案すれば、今回の成績評価については適切におこなわれていると判断している。

授業科目名	日本国憲法
-------	-------

1. 「日本国憲法」の成績評価は、とくに問題はなく、改善すべき問題点は見あたりません。
2. 自由記述中には、「日本国憲法」に関わる記述はなかったようです。従って、学生のほうからの要望は具体的に指摘されておりません。

授業科目名	数学の基礎
-------	-------

1. 数学の基礎においては「妥当な評価」の数が8割弱、「予想以上」が2割弱であり、成績評価は適切に行われたと考えます。

授業科目名	物理学の基礎
-------	--------

1. 回答数が極端に少ない学部を除き、物理学の基礎 I (B)、II (A)、II (D) ともに「妥当な評価を受けた」の回答が最も多く、成績評価は概ね適切に行われたと判断できる。しかしながら、「予想以上の評価を受けた」と「低すぎる評価を受けた」の回答数を比べると前者が多く、評価は若干甘いようである。全員から「妥当な…」の回答を得ることが目標であるが、少なくとも「予想以上…」と「低すぎる…」が同程度となるように改善する必要がある。
3. 全教員が半期1コマのノルマを果たすようなシステムを構築してほしい。

授業科目名	化学の基礎
-------	-------

1. 成績評価の適正さを「低すぎる評価を受けた」と感じる学生の割合が10%台となることを分析の基準としてきている。回答数は少ないものの、昨年度と同様、化学をまったく履修したことのない文系学生向けのクラスにおいて低い評価を受けたと感じた学生の割合が若干多い傾向を示したが、多くのクラスで「妥当な評価」を受けたと感じた学生の割合が、昨年度に比べかなりの割合で増えており、また、「低すぎる評価を受けた」と回答した学生の割合は10%以下と適切な評価が行なわれたものと考えられる。

授業科目名	地学の基礎
-------	-------

1. 努力にふさわしい、あるいはそれ以上の評価を受けたとの回答が多く、受講者にとってはハッピーだったのではないのでしょうか。
2. 該当する記述はなかった。
3. 画一的な運用は避け、実情に即したきめ細かい対応を考えてほしい。

授業科目名	統計学の基礎
-------	--------

1. 統計学の基礎の成績評価については、医学部保健学科、農学生命科学科の二つによるが、概ね適切だと思われる。統計学は分野によって用いられ方が異なり、対象クラスによって授業内容や難易度にも違いが現れる。よってすべてのクラスに同じ基準を当てはめることは賢明でないものと考えます。

授業科目名	基礎科学実験
-------	--------

1. 適切に行われていると思う。
2. 基礎科学実験を1年生に降ろすことについては、医学部医学科としても検討事項になっている。2年生の実習レポートが過密になっていることも周知している。現状では、基礎科学実験を1年生で履修するためには大幅なカリキュラムの変更を伴うので、来年度からすぐ実施というわけには行かない。その前に専門科目の実験の実施時期などの改善を現在検討し、少しずつ改善されるようにする。
〈医学科2年生のバカ発言について〉
このような考え方しかできない人間こそ余程バカです。医師として不適格な人間です。即、考え方を改めなさい、もっと大人になりなさい。

授業科目名	英語コミュニケーション実習
-------	---------------

1. 履修レベル1～3の学生計970名から寄せられた回答を分析すると、全体として「妥当な評価を受けた」が79.5%、「予想以上の評価を受けた」が11.1%、「低すぎる評価を受けた」が9.4%であった。従って、評価に不満な学生が1割程度にとどまり、適切な評価が行われたと言えるのではなかろうか。しかしながら、レベル3に関しては不満な学生が約15%で他のレベルよりも多く、クラスレベルが高すぎたと感じる学生が27.6%いることも関連していると考えられる。クラス編成、授業内容などの点から対応策を考慮したい。
2. 自由記述の中で、「同じレベルの授業でも担当教員によって授業内容や試験が異なり、評価にも影響する」ことを指摘するケースが気になった。レベル2以上になると、担当教員が教材を選択し独自の授業展開が可能であることから生じる問題で、現在のシステムからすれば当然想起されることではある。しかしながら、教材を統一し何事も共通を原則とす

ることが大学の授業としてもっとも優れたやり方であるを見なすことにも単純には受け入れがたい面がある。担当教員同士が学生からの意見を前向きに考慮し、お互いの意識統一を強化することが重要であろうと考える。全体会議でも検討したい。

授業科目名 多言語コミュニケーション実習

1. 妥当な評価を受けたという選択項目の1は全体の7割以上を占めていることから、成績評価はおおむね適切に行われたということがいえます。ただし、予想以上の評価を受けたという選択項目の数字は全体の二割強を占めていることからみて、成績評価における甘さが指摘されるでしょう。これについては、なんらかの改善策を講じる必要がある。
2. 1) 評価基準がばらつきあって疑問に思います。
 - ・多言語だけの問題ではなくて21世紀教育全般に見られる問題でしょう。この問題の解決または是正は、さまざまな試行錯誤一たとえば統一テキストの使用、統一試験問題の作成などを行っているところですが、また最終的な解決策は見いだしてないというのは現状です。当然、引き続き是正のために工夫したい。
- 2) 人数による履修制限すべきではないこと
 - ・人数制限は今現在の教室数と講師の数からみて、やむをえない措置です。
- 3) 通年必修にしてほしい。前期だけでは不十分であること
 - ・学則改正にかかわることになりますので、多くの意見を集約したうえ、その可否を検討していきたい。
- 4) 前後期の教員が同じ教員であってほしい(教員が違うため、後期の授業を取るのをやめた)と、学生による先生の選択の自由が与えられてほしい。
 - ・18年度において積極的に検討して可能な限りそうしていきたい。
- 5) ヒスパニック系市場の拡大につれて、多言語コミュニケーション実習の中にスペイン語、イタリア語も取り入れてほしい。
 - ・特設言語の枠で可能な限り開講します。スペイン語の講師の問題でしょう。実現するよう努力したい。
- 6) 中国語と朝鮮語のⅢがないとおかしい、開講してほしい。
 - ・今現在の講師陣と予算の関係ですぐ解決難しい問題ですが、ニーズの動向を見極めて解決していきたい。

授業科目名 スポーツ・体育実技

1. 成績評価は、各教員が評価基準に基づき適切に行われていると判断できます。今回の調査で、時間数を増やしてほしいという要望がありますが、現状については体育施設・担当教員数・学部の実業等を考慮して、実施可能な授業科目数・時間帯を決定して

います。改善するためには、時間帯・曜日の調査をする必要があると思います。集中授業も何種目かありますので、受講を検討してください。

2. 授業時間帯・時間数について、増やしてほしいという要望については、現在の担当教員数・体育施設・学部の実業等を考慮して、適切に配慮してあります。対応するためには、どの曜日・どの時間帯についてなのか調査が必要だと思います。そこで、検討してみたいと思います。また、新しい種目については、担当教員の確保が難しく実施不可能です。
3. 学園町施設を使用している種目では、4月から授業を開始するのが無理なのですが、どのように対処すればよいでしょうか。

授業科目名 音楽実技

1. 適切に評価されたと判断している。
2. 学生の受講姿勢は常に積極的であり、教員側も手ごたえのある授業を展開できたと感じている。

授業科目名 情報処理演習

1. 演習内容のレベルに関してほぼ80%の受講生が、適切であったと回答している。また、評価に関して妥当な評価であったと回答しているものが80%であった。以上から、全体的に見た場合、授業実施における問題は無かったと考える。ただし自由記述欄に内容がやさしすぎるというものや、教員の予習不足を指摘するものがあつた。前者に関しては、H18年度からのカリキュラム改訂で対応しているが、後者に関しては教員の改善を求めて行く。

授業科目名 基礎ゼミナール(人文学部)

1. 「基礎ゼミナール」(人文学部)の成績評価は概ね適切に行われたと判断します。「妥当な評価を受けた」と回答したのは約67%で、全学平均の約74%に若干及びません。約27%の学生が「予想以上の評価を受けた」と回答していますが、これは全学平均の約22%よりも若干高い数値です。

授業科目名 基礎ゼミナール(教育学部)

1. 「妥当な評価を受けた」という回答が77%もあり、「低すぎる評価を受けた」という回答は2~3%しかない結果でしたので、成績評価はほぼ適切に行われたと考えています。基礎ゼミナールは導入科目という性質上、基本的で初歩的な内容の学習が中心となるので、難しい内容を扱うことは少なく、成績評価に差を生じさせることは難しいと感じております。
2. 「他のクラスとの合同授業があっても良いと思う」というご意見について：レクリエーションなどでクラス対抗のスポーツ競技を行ったクラスもありました。合同授業が基礎ゼミナールにおいて有効な活動かどうかは、これから検討していきたいと思っています。

授業科目名 基礎ゼミナール(医学部医学科)

1. 医学部医学科では、基礎ゼミナールの授業を専門基礎科目の基礎人体演習と連動させて行っています。従って、どこからどこまで基礎ゼミナールなのか、学生の認識が難しいため、このような評価を受けることになったものと思われる。当面は現行のやり方を踏襲する予定である。
2. 基礎ゼミナールについての自由記述は見当たらなかったもので、特になし。
3. 基礎ゼミナールを21世紀教育科目として続けるのか、あるいは専門基礎科目にするのか、という問題を、改めて考えたほうが良いと思う。もし、21世紀教育として続けるなら、21世紀教育独自の、学部の特徴を取り込んだ構成にすべきであると思われる。

授業科目名 基礎ゼミナール(医学部保健学科)

1. 妥当な成績評価を受けたとする学生が76%で、低すぎるという評価を受けたとする学生が3.5%に過ぎなかったことから、成績評価は概ね適性に行われたものと思われる。しかし、21%の学生が予想以上の評価を受けたと回答していることから、教員側の教育到達目標の基準(80%)が学生にきちんと伝わっていなかった可能性があり、ガイダンスなどで周知する必要がある。

授業科目名 基礎ゼミナール(理工学部)

1. 理工学部だけでも24クラスの授業が行われたことになるが、ほとんどすべての学生が妥当な成績評価(あるいはそれ以上)を受けたと思っている。
2. 基礎ゼミナールの達成目標を十分に理解していない学生が少数いると思われるが、学部全体としては担当教員の努力を評価したい。

授業科目名 基礎ゼミナール(農学生命科学部)

1. 農学生命科学部では妥当な成績評価を受けたと答えた学生は72%、低すぎる評価を受けたと答えた学生は3%であり、成績評価は概ね適切であったと考えられる。しかし、予想以上の評価を受けたと答えた学生が25%であったことは、若干の過大評価の可能性を示唆しているので検討を要する。

3-3

平成17年度4年生アンケート(21世紀教育)結果の概要

21世紀教育センター 点検・評価専門委員会

「平成17年度4年生アンケート(21世紀教育)」は、平成17年10月、21世紀教育の第1号生である4年生を対象に、①21世紀教育のめざす諸能力が身に付いたと思うか、②入学時に21世紀教育に期待したことは何か、③21世紀教育は専門教育に役立っているか、④21世紀教育は将来の仕事や人生に役立ちそうか、⑤21世紀教育への要望・意見・提案、を尋ねる内容で行われた。以下は、その調査結果の概要である。

(1) 学部別の有効回答者数及び対入学者比

学部	有効回答者数	対入学者比(%)
人文学部	132	37.7
教育学部	154	61.8
医学部	119	42.5
理工学部	88	28.8
農学生命科学部	69	37.3

(2) 21世紀教育のめざす諸能力が身に付いたと思うか (%)

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	一概に言えない	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない
幅広く深い教養	6.9	39.9	30.3	13.2	9.8
総合的判断力	2.5	21.4	43.6	21.2	11.4
豊かな人間性	4.8	25.3	37.2	20.1	12.7
課題発見・解決能力	2.7	25.8	41.3	21.5	8.7
専門の基礎・基本となる能力	9.3	43.8	26.2	14.1	6.8
科学的思考力	2.0	25.4	38.3	24.9	9.4
対話等での適切な表現力	3.0	19.8	36.1	26.3	14.8
良好な学習環境の醸成能力	5.5	30.6	31.0	22.4	10.5
国際化に対応する技能	6.6	30.6	32.0	18.5	12.3
情報化に対応する技能	5.0	40.0	31.0	15.7	8.4
健康管理等の自己管理技能	3.7	26.3	36.1	18.9	15.0
芸術的な自己表現能力	3.0	15.8	39.0	23.9	18.3

(3) 21世紀教育に期待したもの (%)

大学生活や学習に馴染むための準備的なことを学ぶこと	15.5
教養的なことを学ぶこと	53.8
専門の基礎となることを学ぶこと	27.4
その他	3.4

(4) 21世紀教育は専門教育に役立っているか (%)

役立っている	8.7
いくらか役立っている	52.5
あまり役立っていない	28.3
役立っていない	10.5

(5) 「21世紀教育は専門教育に役立っていない」ことに関する自由記述から

①「専門に役立たないが、役立たなくてもいい」、「専門に役立たないが、何らかの意義があった」といった記述例

- ・幅広い教養を得られたと思うが、専門とは別のもの。(あまり役立っていない)
- ・個人的には面白かったが、専門には関係がなかったので。(あまり役立っていない)
- ・教養的なものとしては役だったが専門には役立たなかった。(あまり役立っていない)
- ・幅広い教養には役立っているが、専門を学ぶのには役立っていない。(あまり役立っていない)
- ・専門でも学ぶことのない内容なので為になったが、専門には直接つながらないから。(あまり役立っていない)
- ・専門に関係なく興味のある科目を履修したため、それはそれでよいと思っている。(あまり役立っていない)
- ・専門は専門で受けるので、逆に別の分野を学んでみたかった。(あまり役立っていない)
- ・知識を増やすという点では役だっても、専門教育にはつながっていないように感じた。(あまり役立っていない)
- ・21世紀教育は、自らの見方、物事のとらえ方を広げる目的で受講したので、専門に特に役立ったということはない。(役立っていない)

②「専門的すぎて専門に役立たない」といった記述例

- ・基礎を学ぶものと思っていたが、専門的すぎて理解できなかった。(あまり役立たない)
- ・専門的内容を含みすぎていて役に立たなかった。(あまり役立っていない)
- ・総合教育なのに専門的すぎる。(あまり役立っていない)
- ・難しすぎたから。(役立っていない)
- ・専門的な内容について学ぶ機会が早すぎたから。(あまり役立っていない)

(6) 21世紀教育は将来の仕事や人生に役立ちそうか(%)

役立ちそうである	8.9
いくらか役立ちそうである	59.8
あまり役立ちそうにない	22.8
役立ちそうにない	8.5

(7) 「21世紀教育は将来の仕事や人生に役立ちそうもない」ことに関する自由記述から

①「人生や仕事に役立たないが、役立たなくてもいい」といった自由記述例

- ・研究者になるわけではない。趣味である。(あまり役立ちそうにない)
- ・興味のあるものを履修しただけであり、今後に役に立つと言われると思う。(あまり役立ちそうにない)
- ・大学で学んだことと将来の仕事は関係ないと思っているし、関係のない仕事に就こうと就職活動をしている。(あまり役立ちそうにない)
- ・専門的な職業に就職するなら別だが、普通の一般企業に就職するものにとっては役立たない。(役立ちそうにない)
- ・広い教養を身につけるという意味では役立ちそうな気がする。(あまり役立ちそうにない)

②「役立たないと言いながら、役だつこともある」といった自由記述例

- ・パソコンを使った情報の授業は役に立つと思う。(あまり役立ちそうにない)
- ・情報の能力や外国語を活用できたのでよかった。(あまり役立ちそうにない)
- ・人生の趣味や興味については広がったが、仕事に役立つとは感じない。(あまり役立ちそうにない)

(8) 21世紀教育改善への4年生の提案例

- ・教養を高めるなら、もっと時代の流れにのった内容にしたらいと思う。興味を引くテーマにして外部から講師やお年寄りを呼ぶなど、面白いことをやってほしい。
- ・文系・理系ともバランスよく知識を身につけることが大切なので、豊富な科目を用意し、自由に選択できるシステムが望ましい。だから、学部・学科を指定するのはよくない。
- ・21世紀教育用の先生がいたらよかった。
- ・各科目において、より専門的なことをやるクラスと教養的なことをやるクラスに分けてみたら。
- ・オムニバスの場合、口頭での打ち合わせでなく、実際の授業を見てみて状況改善してほしい。
- ・講義形式中心ではなく、テーマを与えて発表させる形式がいい。将来的に、人と協力して作業を行うことは重要になる。
- ・インターンシップ以外でも、会社訪問の科目があるといい。
- ・理系・文系という枠だけでなく、各学部・学科の枠で授業内容を分けたらいい。
- ・実際に授業内容を体験したり、学生個人で実験等を行い、レポートにまとめるような工夫が必要である。
- ・代返・代筆ができないシステムをつくる必要がある。
- ・実際の現場に出かけたり、資格取得といった具体的な目標に向けた学習をすれば、将来に役立てる知識が得られると思う。
- ・21世紀教育はすべて選択制にしてもいいと思う。特にテーマ科目はそうしてほしい。

- ・専門教育や仕事に役立つために21世紀教育があるのなら、すべてのテーマ等を取らせるのではなく、好きな科目を取ることに集中させたほうがいい。
- ・21世紀はいらない。専門科目を学びたくて大学にきてるんだから興味のない科目はやらなくていいし、時間の無駄。その分専門で学ぶ時間を増やせばいい。
- ・とにかく出席させることが重要なので、出席点をアップしてはどうか。
- ・まだまだ就職支援体制が整っていない。職業と密接に関連するカリキュラム編成をしてくれれば、21世紀教育は必ず役立つものになる。
- ・将来の職業適性を知るための授業を開講すればいい。将来の職業適性を分からせ、その職業に就くために必要なスキル等を教育する授業があれば、4年間何もしずに暮らす学生はいなくなるのではないか。
- ・先生方には、「どのような力を育成するための授業なのか」を明確に示してもらい、「今レジュメのどの部分を語っているのか」がはっきり分かる話をお願いしたい。混沌として難しい授業もあった。
- ・もっと自由度を減らし、強制的に勉強させると、今の学生はしっかり勉強しないのではないか。
- ・語学やパソコンの授業を、例えばTOEICや初級シスアドなど資格を意識したものにするれば、学生が資格試験や就職に意識を持つよききっかけになると思う。しかし、その他の授業において、入学してすぐに専攻コースを決め、あらかじめ決められた科目を取るというのは、課程間の敷居が低く、比較的自由に科目を選べるという弘大のよいところが半減するようで少しさみしい。
- ・基礎知識は深まると思うが、専門的な知識はあまり深まらないし、将来の仕事にもあまりつながらないと思われるので、もっとそれぞれの学部毎で専門的な領域を設けてほしい。
- ・21世紀教育という名前に違和感を感じる。教養科目という純粋な名の方が受け入れやすい。
- ・医学部の学生には校舎が離れているので移動が大変だった。21世紀教育の日は21世紀教育の科目だけになるよう、カリキュラムを変更できないのでしょうか。
- ・プレゼン能力を養える授業があると為になると思う。後、いろいろな学部の学生と一緒に授業ができるのは、21世紀教育の時だけなので、教官と学生だけでなく、学生と学生との関わりを持てるような授業を増やしてほしい。
- ・仕事体験とか科学実験とかやればより意欲的に授業に取り組めるかと思います。
- ・21世紀教育を専門に役立てるという考えはいらないのではないか。知識の幅を広げるためにあればいい。

(9) 若干の考察

- ・大半の学生は21世紀教育に教養教育(53.8%)を期待しており、21世紀教育の柱は教養教育であることが示された。
- ・専門教育との関わりでも肯定的評価を得た(62.2%)。紙幅の関係で例示できなかったが、健康領域は医学部学生にとって専門と関わりが深い等の、基礎教育科目以外の科目からも学んだとする自由記述も見られた。また、直接的ではなくても間接的に専門につながる等の自由記述も見られた。このように、専門教育との連携は、基礎教育科目に限られず、テーマ科目等も含めて総合的でかつ多様な形で、柔軟に深めていくべきであることが示された。
- ・将来の仕事や人生との関わりでも肯定的評価を得た(67.8%)。「無理して仕事や人生に結びつけようとしなくてもいいのではないか」といった主旨の自由記述もあった。概ね現状でよいことが示された。
- ・大学生活や学習になじむための準備的なこと(初年次教育)に関しても、一定数の要求があり、これを軽んじることなく、懇切丁寧な教育的配慮をしてゆく必要性が示された。
- ・当アンケートに関する詳細な分析は「21世紀教育フォーラム」に掲載されるが、そこでも「21世紀教育は教養を幅広くするために効果的であり、専門教育の学習や将来の仕事などに有意義」と認識されている。また、主な改善点として、①総合的な判断力や幅広い人間性の涵養を目指した指導方法の工夫及び情報表現能力を高めるための科目構成、②21世紀教育と専門教育との位置づけを明確化し、それぞれの価値を有機的に認識して学習する態度の涵養及びそれを支援するシステムの強化、の2点が指摘されている。

4 21世紀教育授業実施報告

21世紀教育センターでは、共通教育では実施してこなかった、授業実施についての点検・評価の一環として、授業担当全教員（オムニバス形式の授業は、全体で一つの授業とする）及び各授業科目の代表科目主任あるいは科目主任に、授業の実施状況及び授業に対しての問題点や提案を簡潔に記載した「授業担当実施報告書」及び「授業実施報告書」を提出してもらうこととしている。

平成16年度前期から、報告書の様式を見直し、二つの報告書を「授業担当実施報告書」に一本化している。内容上の主な変更点は、「授業計画との整合性」及び「設定目標の到達度」の項目を削除した点、そして新たに「授業の工夫」という項目を設けた点、さらに科目主任が提出していた「授業実施報告書」の「授業感想」と授業担当者が提出していた「授業担当実施報告書」の「自由記述欄」を一体化して「授業感想・要望・提案」という項目にした点である。

以下に、平成16年度後期及び平成17年度前期の授業担当実施報告書の依頼項目及びそれらの回答集約結果等を示す。

1) 平成16年度後期

(1) 授業担当教官からの授業担当実施報告書集計結果

No.	調査項目	回 答 項 目 等	開講数	回答数
①	担 当 授 業 科 目 名	テーマ科目	76	66
		英語コミュニケーション実習	39	39
		多言語コミュニケーション実習	48	36
		スポーツ・体育実技	12	12
		芸術実技	2	2
		情報処理演習	2	2
		文化系基礎	10	10
		社会系基礎	10	8
		自然系基礎	37	33
		基礎ゼミナール	6	5
		計	242	213
②	担 当 教 員 氏 名			
③	授 業 実 施 回 数	30回（週2回で15週実施の授業）		4
		28回（週2回で15週実施の授業）		1
		15回		144
		14回		37
		13回		15
		12回		2
		8回		1
		集中授業		1
		計		204
④	休 講 の 有 無 と そ の 対 応 措 置	1 休講はしなかった。		137
		2 休講をした。		68
		（以下は2に○をした場合のみ記入してください。）		
		3 補講を実施した。		21
		4 課題を出し、提出させるなど何らかの措置をした。		38
⑤	成 績 評 価 に つ い て	5 特に何も措置はしなかった。		14
		1 「成績評価の方法と基準」を参照した。		203
		2 「成績評価の方法と基準」を参照しなかった。		10
		計		213

(2) 平成16年度後期授業担当教員からの
「授業感想・要望・提案」

授業科目名 紛争と平和を考える(A)

受講者が多いと採点が非常に大変である。中間テスト、小テスト、レポートなどは不可能である。すべての科目に複数評価を義務づけるのはやめてほしい。

平均点は意味があまりない。A・B・C・Dの比率だけでよい。

授業科目名 国際文化の展開(B)

授業ではPCによるプレゼンテーションを予定していたが、その設備がない講義室を配当され、また教務課で貸与されるプロジェクタ(複数)が教室のVTR設備と適合せず、さらにプロジェクタのセット内に電源コードや接続コードも無いなどメンテナンスが不十分であったため、結果的にPC利用をあきらめ、また当初の講義予定内容を大きく変更を加えざるを得なかった。今後もPCを利用する授業は増加するであろうから、講義室側を早急に対応させるよう望む。

授業科目名 国際協力と国際交流(B)

受講していた学生のみなさんには非常に満足しました。出席率もほぼ全員が毎回、出席しており、授業中、私語もなく熱心に勉強し、質問をする学生も多くいました。自分の思った通りの授業ができました。

授業科目名 研究・教育から見た世界と日本(A)

科目主任から担当者へ連絡がしやすいように、連絡を紙で印刷したものだけでなく、pdfファイルでも配布してもらいたい。(コピーしたりスキャナーでとる手間がはぶける)

授業科目名 研究・教育から見た世界と日本(C)

教員は、主として「話す」ことで情報を伝達しなければならないが、これは普段学生が接しているテレビ(効果的な音楽が流れ、編集されたビデオやテロップが入り、多くの人物が登場する。また、番組自体編集されていることも多い)に比して不利であると感じるのは私だけではないだろう。

教員も様々な工夫が必要なわけであるが、とりあえず、すべての教室にプロジェクターを入れることを希望する。

授業科目名 情報ネットワーク(A)

人数が多すぎる。

授業科目名 情報の伝達(A)

教室がせまかったので広い教室を希望。

授業科目名 環境と社会(A)

成績処理が大変である。このような作業を21世紀にかかわる教員が行う時間・コストを考えれば、平均を出すプログラムを作り、教員の負担を減らしてほしい。

授業科目名 環境と農業(A)

- ・教室(201)のプロジェクターが見にくい。
- ・人数が多すぎる。農生の学生の受講を制限すべきである。
- ・成績提出期限が早すぎる。4年生だけ早めに設定して、残りは、遅くしてほしい。

授業科目名 生活習慣と健康(A)

概ね計画どおり授業を実施することができた。学生自身の健康にも直接関わりある卑近なテーマだけに出席率も良好で受講態度にも熱心さが感じられた。試験も半数以上の学生が期待した基準に達していた。今後さらに授業の充実を図るためには保健学専攻教官の参加が必須となる。

授業科目名 生活習慣と健康(B)

仕方のない事かもしれないが、受講者の背景や基礎知識がバラバラ過ぎると感じた。

授業科目名 障害者の健康(B)

できれば80人ぐらいのクラス編成として欲しい。

授業科目名 発達と老化(A)①

最初の1~2回は人数が全く不明で授業準備のプリントの予測がつかず、大変困る。もっと早くに受講者の把握ができないか?

授業科目名 薬と健康(A)

受講者が多すぎ、すべての受講者がまじめに受講しているとは思われない。

授業科目名 薬と健康(B)

医学部保健学科の学生の成績がよくて当たり前なのに、中にはひどいものもある。どのレベルに合わせて授業するかが一番難しい。理工でも分かる学生はできる。

授業科目名 最新医学の現状(A)

液晶プロジェクターを設置してほしい。医学部から運搬するのは結構大変なことです。

授業科目名 最新医学の現状(B)

液晶プロジェクターとできればパソコンを常設してほしい。

授業科目名 健康と運動の科学(A)③

履修者が200名を超えている。

基本的には教育学部以外の学部の学生の教職必須単位であるが、教職を希望しない学生も多く見られるため、履修制限をしたい。

授業科目名 科学・技術の発達(C)

受講人数の割に講義室が大きすぎた。昨年までの室にしていきたい。

授業科目名 科学・技術の最前線(B)

大学で教えるべきものは何か、教養とは何か、を考えさせられる。

授業科目名 科学・技術の最前線(D)

良い出席率で、186名という大勢の学生の興味を集めた。レポートの感想も全体として良かった。(受講者数が多すぎる)

授業科目名 生活の科学・技術(A)

教養科目なので、むしろ理工系以外の学生に多く聴講してほしい。

授業科目名 生活の科学・技術(B)

受講者数が170人ほどになり、多すぎたため、授業方法がある程度制約されたと思われる。例えば小テスト等の実施は容易ではない。

授業科目名 生物の科学・技術(A)

単位を取るために坐っている学生が多く、積極性に欠けると思う。

授業科目名 生物の科学・技術(B)

人数にあった教室を用意してほしい。

授業科目名 宇宙と地球の科学(A)

未改修の教室なので音響設備が良くない。たまに大音量のノイズが入る。ワイヤレスマイクの電池が消耗した時に学務部まで行かなければならないのが時間のロスになる。

授業科目名 社会と経済(F)

出席をとる義務をなくしてほしい。

授業科目名 企業と経営(A)

レポートを要求しても、出さない学生がいて困った。優秀な学生を誉めるために、成績を貼り出したい。

授業科目名 企業と経営(A)

出席が成績に直結すると学生が考えているのか、毎回、150名ほどの学生が出席するものの、一部が後

方で漫然と着席するだけで、やりにくく、採点法も含めて中学、高校の授業のようであった。中学や高校と大学の教育法は、本来違うべきでないと思う。

授業科目名 社会と市民生活(A)

小テスト4回、試験2回実施したが、教育学部の施設見学の実習(1日のみ)とぶつかり、試験が受けられない学生があった。担当者が多く、試験も多ければやむを得ないが、フォローが大変であった。

授業科目名 社会とジェンダー(A)

基礎ゼミにおける有効な文章作法の指導が望まれる。また開講時間の制限をなくしてほしい。それから、1度断った開講コマ数の理由を無視して増減を決定しないで頂きたい。

授業科目名 美術の世界(A)②

今回はスライドを多用したい。また学生に質問を投げかけたり、応答したりという授業スタイルが望ましいと思われます。

授業科目名 音楽の世界(A)

学生の出席状況は大変よく、授業内容の理解もほぼ達成されている。受講者の成績は平均77点で80点前後に集中したため、最終の評価に苦労した。

授業科目名 音楽の世界(B)

今回の感想です。音楽という事柄即娯楽の先入観が強く、レポート課題に対してもテーマと授業の趣旨を無視逸脱した思い入れの吐露に終始するものが目立ちます。自らを含め人間を捉える眼差し(思考)に不自然な幼さと頑固を感じます。

授業科目名 暮らし・歴史・文化(B)

今年の学生は昨年よりレポートがよかった。

授業科目名 人を育む営み(C)

「良」を最大多数にする根拠が不明。学生数と教室の大きさが合っていない。(多すぎる)

授業科目名 人間の尊厳(A)

オムニバス授業の場合、特定の教員の講義のみ聴く学生が散見されるのは困ったことと思った。

授業科目名 生態系の中の人間(A)

学生1人1人が環境問題に心を痛めていることを知り、安心した。

授業科目名 英語 I B

基礎学力不足、生活習慣の不安定などで後期再履習のケースが多いようだが、出席者についてはそれなりに努力が評価できる。

授業科目名 英語Ⅱ A

積極性には、欠けるが、たいへん熱心にクラスに取り組んでくれていた。

授業科目名 英語Ⅱ A

インターネットを用いた授業を試みたが非常にうまくいったと思う。

授業科目名 英語Ⅱ A

Please put students' names on the grade sheet in Fuligana.

授業科目名 英語Ⅱ A

1 unitを授業時間内に終わらせることができなかった。課題がいろいろあって目標を絞り切れず、試行錯誤状態で、まとまりのない授業をしてしまった。

授業科目名 英語Ⅱ A

リスニング力をつけるため、音の変化を聞き取ることを重心をおいたが、せっかくの少人数クラスだったので、スピーキングもやってみれば良かった。机間が狭く、動き回りづらい。

授業科目名 英語Ⅱ A

比較的に見て、積極性に欠ける生徒が目立ったが、熱心に取り組んでくれたと思います。

授業科目名 英語Ⅱ A

Please put students' names a the grade sheet in Furigana.

授業科目名 英語Ⅱ A

C D付のテキストでしたが授業時間外に利用した学生は少なかったようです。motivationを持たせる工夫が必要だと感じました。青森まで受験に行くことへの不満も多く出されました。TOEIC試験の後の出席率は低かったのですがそれを責める気にはなりません。

授業科目名 英語Ⅱ B

学生3名が、出席時数不足で0点であったことが、残念である。

授業科目名 英語Ⅱ B

人数が少なく学生は大変だったと思うが内容のある授業ができた。

授業科目名 英語Ⅱ B

出席時数不足の学生がひとりもいなかった。

授業科目名 英語Ⅱ B

人数が少なく学生は大変だったと思うが内容のある授業ができた。

授業科目名 英語Ⅱ B

クラスの人数が多く、個々への対応が十分にできなかった。

授業科目名 英語Ⅲ A

目的設定をもう少し明確にしてほしい。

授業科目名 英語Ⅲ A

前期の英語Ⅱの成績でⅢの履修資格が生ずる制度だが、英語Ⅱのレベルが担当教員によりばらつきがあるため英語Ⅲの履修生の英語力にかなりの開きが見られる点は、今後改善の必要があると感じた。

授業科目名 英語Ⅲ B

英語Ⅰと英語Ⅱ Aから読替になっている学生2名は一度も授業に来ないまま終わってしまったのが、残念である。

授業科目名 英語Ⅲ B

質問：TOEICの点数がクラス目標に満たない学生の多くはTOEICの点数を事務所に申告しなかった様です。その場合の扱いはどうなるのでしょうか？

授業科目名 ドイツ語Ⅰ

再履修の学生が多かったせいか、欠席が目立った。それに伴い、成績も全体にかんばしくなかった。

授業科目名 ドイツ語Ⅰ

やはり語学は通年授業の方が学生の興味も広がるのではないかと思います。

授業科目名 ドイツ語Ⅱ (A)

学生は、宿題も皆、全部やってきて、欠席も少なかった。今回は、よく勉強してくれました。

正書法の移行期間は2005年、7月31日までであるから、教師はそのことをよくおさえておく必要がある。(新正書法が必ずしもよいとは思わないけれど……。)と思います。

授業科目名 ドイツ語Ⅱ (A)

教室(総合318)の暖房が効きすぎていて、学生が眠くなる一因となった。経済性の面からも一考を要すると思った。

授業科目名 ドイツ語Ⅱ (B)

37人という人数は多すぎる。

授業科目名 ドイツ語Ⅱ(B)

英語のようにレベル別のクラスを作ってはどうか。語学の苦手な学生があまり辛くないように。

授業科目名 ドイツ語Ⅱ(C)

意欲のある、理解力の高いクラスだったので、期末試験は中間試験より若干難度を上げ、応用問題を入れたにも拘わらず、平均点が高く(81.7点)、従って「優」の学生数も多くなりました。(全体の8割)インターネットで容易に生のドイツ語・情報に触れる事が可能な現在、学生達にはできるだけ中級に進み、ドイツ語の知識を更に深め、英語以外の他言語の情報の必要性も認識していった欲しいと思います。

授業科目名 ドイツ語Ⅱ(C)

学生数が少ないと当然毎回学生の予習が必要となるので、とてもよく勉強してくれたと思います。語学には、毎日の積み重ねが不可欠なので、少人数のクラスほど学習効果があがるのではないかと思います。

授業科目名 フランス語Ⅰ

再履修の学生が多いなか、語学への苦手意識を少しでも軽減することができた。クラス規模も丁度よく、一人一人に丁寧に接することができたことも満足できる。

授業科目名 フランス語Ⅱ(A)

グレード制とは思えないほど、学生のフランス語力に差があり、指導に苦勞する。テキストを統一することに甘んじず、指導方法、評価ポイントなども申し合わせる必要があると思われる。

授業科目名 フランス語Ⅱ(C)

意欲ある学生が集まったため、互いに熱の込められた、楽しい、何よりも有意義な15回の授業になった。

授業科目名 中国語Ⅰ

後期のクラスに受講した学生の約半分は、再履修の人でした。その学生達の学習意欲を高めると同時に、中国語の楽しさを理解してもらうのに大変苦勞しました。

授業科目名 中国語Ⅱ(A)

意欲のある学生や、中国語に興味を持っている学生が大多数でしたので、楽しく教えることができました。

授業科目名 中国語Ⅱ(C)

男子学生が多かったが教えやすいクラスだったと思う。

基礎段階での学力差はみられたが、大むね真面目に取り組む学生達であった。レベルⅡ段階での少人数クラスなので、平均点調整は最小限にとどめた。

授業科目名 スポーツ実技(バスケットボールⅠ)

筋肉的・偶発的思考から論理的科学的思考へと運動意識及び行動の変化が顕著に認められた。

授業科目名 スポーツ実技(トランポリン)

受講希望者が多くより良いサービスを行う為にはもう1台トランポリンが必要である。

授業科目名 スポーツ実技(バレーボールⅡ)

個々の運動能力に多少の差はみられたが、授業を行ううえで大きな支障は無かった。今回は25名の履修学生であったが、可能であれば30名程度が理想の人数ではないかと思われる。

授業科目名 スポーツ実技(卓球A)

今回、不可の評価はなく、全体の出席率96.9%と良かったと思います。

卓球台、古いものが、足がよわく、設置するのが困難です。中級クラスの卓球台、2〜3台、欲しいところです。

授業科目名 スポーツ実技(サッカー)

授業に積極的に参加し、欠席者も毎回少なく何事にも意欲的であり楽しい授業であった。

授業科目名 スポーツ実技(バドミントンA)

基本技術の指導、説明は全体に対して行うが、グループ毎の練習の中で受講生に対して適度なアドバイスを経験者がしてくれる。

学生同士でもあり、気軽なふん囲気を感じられる。

授業科目名 スポーツ実技(バドミントンB)

受講人数がもう少し少ない方が指導しやすい。

授業科目名 情報処理演習

再履修学生は出席数が2/3に達しないものが多い。

授業科目名 音楽実技

芸術実技(音楽実技)としての技能レベルをある程度、明確にしていきたい。

授業科目名 美術実技

絵画実技：受講生を10名以内にしていきたい。

授業科目名 芸術学の基礎②

視聴覚設備の整った教室ではあったが、肝心の液晶プロジェクタがスクリーンサイズに見合った照度

のものでなかった。天井吊下げにもかかわらず、リモコンでピント合わせのできない機種だった。

授業科目名 心理学の基礎④

学生数が多く、負担が過重。

授業科目名 教育学の基礎③④

2月18日の締切りが動かせないとなると、授業回数15回では、ていねいな採点と集計はできない。11～12回の授業とすべきではないか。(前期についても同じですが、特に後期は、卒・修論口頭試問や大学院二次募集の試験、学部入試などで切り切り舞いです。)

授業科目名 古典語実習(ギリシア語Ⅱ)

アンケート項目について、検討を希望する。(項目内容によっては、項目として立てられていることの趣旨がよくわからないものもあり、問題を感じる)

授業科目名 経営学の基礎

授業履修者が多く、学生の習熟度を把握が難しかった。そのためか、学部間による差が大きかったように思える。

授業科目名 経済学の基礎(A)

小テストの成績と本試験の成績は高い相関を示した。

授業科目名 地理学の基礎③

数年間改善を加えながらも基本的には同様の内容(分野の基礎として必須の内容)をとりあつてきたが、今回に限っては試験の出来が軒並み悪く、理解が不十分な学生が多かった。理由は不明。

授業科目名 法学の基礎③

受講者が多く、試験の際に1人あけて座ることができない。試験教室をふやせば、監督者も必要となり頭の痛いところである。大教室だと出席記入の名簿が回りきらないこともあった。2枚回して対処した。

授業科目名 日本国憲法

受講者名簿は、「共通教育」の名簿の形式の方が利用しやすいように思います(出席状況チェックのために)。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(B)⑧

受講生の初期到達度が「かけ離れ」すぎ。黒板がせますぎる。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(C)④

「成績評価状況調べ」はコンピュータ処理してほしい。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(C)⑤

黒板の下の方には書くと、後ろからは見えないという指摘があり、気をつけていたものの、この制約は強かった。教壇というものも必要ではなからうか。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(C)⑥

黒板が小さくて、授業がひじょうにやりにくかった。数学の授業は、黒板に書く量が多いので、大きな黒板のある講義室を準備して頂きたい。

授業科目名 物理学の基礎Ⅰ(A)

学生は、ほとんど14回以上出席し、自分の努力と組にした理解と達成感を得たように思われる。ただし、平成17年度はⅠ(A)が1クラスのみになるため受講者増が心配される。少なくとも前・後期各1クラスずつ開講にしていきたい。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(B)

物理を履修していない学生がおり、大学初年の電磁気学と高校程度とのどの程度にすべきかで悩んだ。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(B)

141人と受講者が多いため、出席確認および、演習等が、大変であった。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(B)

受講生は60程度までとしたい。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(B)

知能機械は必修であるが、高校での修得レベルに差があり、数学的基礎も考慮しつつ進める必要性を感じている。

授業科目名 化学の基礎Ⅰ(A)

文系の学生が主でしたので数学が使えないので苦労した。上記、自然現象との関連づけが成功したか不安である。

授業科目名 化学の基礎Ⅱ(A)

講義の目標とするところが不明確。勿論、21世紀教育としてです。(高校の物理を履修していない学生が量子化学の基礎を学ぶことは不可能です。)

授業科目名 化学の基礎Ⅱ(B)

成績の良い者と悪い者の2分化が進んでおり、良い者の数が減っているようです。

授業科目名 化学の基礎Ⅱ(B)

21世紀教育で指定した講義室は、黒板が1枚だけであり書けないので、理工の黒板を上下に使用できる教室を使用した。すべての講義室の黒板を上下

にスライドできるように希望する。

授業科目名 化学の基礎Ⅱ（B）

授業内容を厳選し、重要な点に焦点をあて授業を行うことで、大多数の学生は授業内容を消化してくれたものと各試験の結果から推測される。授業毎に簡単な演習を行い授業内容の理解を深める試みを行なったが、各演習の整理および出席確認の作業に有用な新たな電子化システムの構築を検討していただきたい。

授業科目名 生物学の基礎Ⅰ（A）①

病で休講となったことの事実関係の連絡が遅れ、バックアップの予定を作る上で一部混乱が生じた。一考の余地あり。今後も有り得るので。

授業科目名 生物学の基礎Ⅱ（A）②

教室が狭かった。受講生が多い場合は、教室の変更をお願いしたい。

授業科目名 生物学の基礎Ⅱ（A）③

総じて、学生の受講態度が「受け身的」で、自主的に「学びたい」という意気込が少ない。90分の授業時間は長すぎるため60分程度への短縮を希望する。

授業科目名 地学の基礎Ⅰ（A）

受講学生が多すぎる。

授業科目名 地学の基礎Ⅱ（A）

理工の講義室のように、各部屋にプロジェクターを置いてほしい。毎回コンピュータとプロジェクターを運ぶのは大変である。

授業科目名 地学の基礎Ⅱ（B）

この授業の前に化学実験を受講している学生がおり、実験が長びくため、講義の最初からは出席が困難であるとの訴えがあった。時間割に工夫をして欲しい。

授業科目名 統計学の基礎③

例年に比較して学生のレポート提出状況が良くない。

授業科目名 統計学の基礎④

50名以下のクラスを要望する。数学的能力の差があり、説明がむづかしい。

授業科目名 基礎科学実験（化学）

成績評価は、9テーマ、9名の教員の評価を平均化して行い、総合的に評価されるようにしている。

授業科目名 基礎ゼミナール

前半は自分で発言することはなかったが、後半は長い発言ができるようになった。この方式は学生が一人だからできた。

2) 平成17年度後期

(1) 授業担当教官からの授業担当実施報告書集計結果

No.	調査項目	回答項目等	開講数	回答数
①	担当授業科目名	テーマ科目	54	48
		英語コミュニケーション実習	116	107
		多言語コミュニケーション実習	46	46
		スポーツ・体育実技	26	25
		芸術実技	2	2
		情報処理演習	23	20
		文化系基礎	15	10
		社会系基礎	20	16
		自然系基礎	61	57
		基礎ゼミナール	118	88
		計	481	419
②	担当教員氏名			
③	授業実施回数	30回(週2回で15週実施の授業)		31
		29回(週2回で15週実施の授業)		9
		15回		284
		14回		80
		13回		12
		12回		2
		集中授業		1
		計		419
④	休講の有無とその対応措置	1 休講はしなかった。		293
		2 休講をした。		126
		(以下は2に○をした場合のみ記入してください。)		
		3 補講を実施した。		33
		4 課題を出し、提出させるなど何らかの措置をした。		73
		5 特に何も措置はしなかった。		23

(2) 平成17年度前期授業担当教員からの
「授業感想・要望・提案」

授業科目名 国際社会の現在(E)

14名という上記形式にちょうどよい人数。プレゼンや出席、意見発表により採点する方式のため、14名中8名が80点となり、分布上、上位得点者が多い形となったが、ゼミ的な性格の結果である。

授業科目名 世界の地域・国・民族(F)

人数が多すぎて、教室内の教材も貧しく、工夫どころではない。(受講生)を各講座均等になるようならして欲しい。

授業科目名 国際文化の展開(C)

受講生が多人数(約160名)であったので、レポートの処理等大変な労力を要した。できればもう少し少人数でありたい。

授業科目名 国際協力と国際交流(A)

授業の工夫が、学生にとっては難しいととられたかもしれない。

授業科目名 情報の処理(B)

あまりの学力のアンバランスにガクゼンとした。例を上げれば、数学科の学生が $Y=1+1$ のグラフが描けない。Testは問題のレベルと、採点の仕方を考慮して行った。これだけのアンバランスでは、能力別のクラスにするなどの、授業方法の大改革をしなければ、実質のない大学生が量産される。(品質補正など夢の又夢)(これ迄、少しずつ傾向を見せていたが)

授業科目名 環境と資源(B)

今年度の受講生は80人前後で、ほぼ適正な人数であったため、映像機器の効果が高かったように思う。

(できれば50人程度が望ましい)

最終レポートの作成には努力のあとが見られたが、インターネットからの資料収集のみもかなりあった。(文献は明示するように指導している)

授業科目名 環境と資源 (C)

受講学生が多岐に渡っているため、どの辺りに講義の照準を合わせるか考えさせられた。理系の学生は専門科目でも学ぶ機会があるので、文系の学生に照準を合わせたため、理系の学生にとって満足のいく講義であったか自信がない。理系／文系を問わず、講義を聞けるのはある意味で理想であるが、講義する方にとってはやりにくい面も否めない。

授業科目名 生活習慣と健康 (C)

学生はあまり熱心とは言えなかった。

授業科目名 メンタルヘルス (C)

受講者数が多いわりには熱心であった。教室が狭く、きゅうくつそうにしており、気の毒に感じた。

授業科目名 障害者の健康 (A)

プロジェクターの設置に時間がかかった。プロジェクターを置く台を設置して欲しい。

授業科目名 薬と健康 (A)

成績評価が平常評価のみであるのは片手落ちであり、来年度からは変更とする。

授業科目名 薬と健康 (B)

きちんと大学レベルの講義をすれば(高校の知識を理解できることは少しも大学の講義ではない)聴く方も真剣になる。必ず試験をする。

授業科目名 発達と老化 (A)

受講者が多く、資料の作成が大変でした。講義室も大きすぎた。

授業科目名 最新医学の現状 (C)

各講師の教養教育に対する意欲より大きく左右されるものとなる。次年度からは講師の数を5人以内にしばりこみ学問の真髄、すなわち単なる知識の伝授ではなく、物の考え方が理解できるようなコースとしたい。

授業科目名 健康と運動の科学(A)①

オムニバス形式の授業のため成績の取りまとめに苦労した。(今回も成績提出の締め切り日にまにあわなかった。)

授業科目名 科学・技術の発達 (G)

受講の学生が301名と多く、授業に苦労した。適

切な受講生数を調節して頂きたい。

授業科目名 自然や社会の数学 (A)

受講者数が多過ぎて、きめ細かい指導が出来なかった。数学は以前やったことを使いながら講義を進めていくのにしっかりと復習していない学生が余りに大すぎる。

授業科目名 宇宙と地球の科学 (B)

理工10番は、プロジェクトがなく、ビデオもテレビのみにしかうつせない。DVDは使えない。要カイゼン!

授業科目名 地域社会と地方自治 (B)

受講者の割に教室が広すぎて、ディベートはやりづらかった。

授業科目名 音楽の世界 (C)

この授業は、1人年間30時間の原則によって、かなり苦心して昨年度から開講したものです。昨年度は1年目でまったく手探りの状態でしたが、今年度は少し改善されたと思います。3年目はもう少しきちんと出来ると思っていましたが、科目そのものがなくなるとのことです。どうすればよいのか途方にくれています。

授業科目名 思想と文化 (C)

黒板が異常に汚ない。

黒板消しを掃除しようにも、クリーナーが目づまりをおこして使えない。

教室内の清掃をつき1回ぐらい行って欲しい。

授業科目名 暮らし・歴史・文化 (A)

出席回数の少ない学生ほど、試験成績が良くない傾向が明らかである。

授業科目名 人間の尊厳 (C)

前回に比べ、受講学生が減少し、教員と学生の双方方向性のやりとりを可能にする余裕が生じた。ただし、学生の意欲がやや低調だったのは残念であった。

授業科目名 創造する人間 (A)

映像と音響も主な授業の材料なので、教室分けの時のご配慮お願い申し上げます。最初の時間(第1時間目)に学生が教室に入りきれず、40名程の学生が、リタイアした模様です。決局、最終的には、169名の学生に単位を出しました。

授業科目名 人間のこれから (A)

基礎学力、一般教養の不足、学習意欲の低下傾向が顕著である。

授業科目名 社会と私—仕事を通して考える(A)—

既存の映写装置がパソコンに対応しておらず、不自由を感じる(401講義室)。

授業科目名 英語で学ぶ経営

学生の英語力不足とビジネス知識の低さから議論より一方通行の説明になりがちになった。人数少ないことからやりづらい面あったが、学生は最後まで付いてきた者もあり、平均点は低くない結果となっている。

授業科目名 英語 I A

統一テキストを使い、統一試験をやったところで、それぞれの担当者の教え方までは統一できないわけだから、あまり意味がないのではないかな。

授業科目名 英語 I A

共通テストのあり方と、テキスト選定をもう少し慎重にしてほしい。

授業科目名 英語 I A

非常に楽しい授業であった。

授業科目名 英語 I A

良いテキストだったが、盛沢山な内容で、ていねいな授業ができなかった。予めテスト範囲(各Chapterの中での範囲)と、最低でもどのChapterまで進んでもらいたいという指示を出してもらおうと授業しやすい。Chapterの中でどの部分に重点を置けばよいのか分からないと全てをていねいに行おうとするため、進度が遅くなってしまう。

授業科目名 英語 I A

学生が実際に英語を用いてコミュニケーション活動を行うことが重要であり、コミュニケーションな英語授業を学生中心で運営できる教授力が指導者側に求められる。大学における授業改善の一環として受けとめるべきと思う。できれば、学生用のCDの付いたテキスト選択が好ましい。

授業科目名 英語 I B

テキストの選定はもう少し慎重にしてほしい。

授業科目名 英語 I B

各章で扱われるトピックは多様であるが、学生の興味をそそるものであったかどうか気になる。もっと身近な社会問題を扱うと思考力がと高まるかもしれない。また、英作の内容に関して、学生自身が自己表現してみたいと思うものをより多く含むことが望ましいと考える。

授業科目名 英語 II A

双方向的な授業となり教官自身楽しめた。

授業科目名 英語 II A

なるべく多くの学生が毎時発言できるように、テキスト以外でも学生が興味を持ちそうなものを話題に取りあげるようにした。個人差が大きく、理解はできても発音が良くない。会話のクラスは少人数のほうがよいと思われる。

授業科目名 英語 II A

発音記号を理解していない学生が多い。

授業科目名 英語 II A

比較的、積極的に授業に参加する生徒が多く、いたように感じられた。

授業科目名 英語 II A

教室が極めて暑い。テーブルを使う授業なので入り口のドアを開けておくこともできず、密閉するので余計つらいことになっています。

授業科目名 英語 II A

ほとんど休む学生もおらず皆集中して授業に取り組んでいた。

授業科目名 英語 II A

Please have the janitors sweep the classroom regularly. My classroom was very dirty each week.

授業科目名 英語 II A

生の英語を聞いたり、話したり(発音したり)という経験が、とても少ないのを感じる。ほとんどの学生が[æ]を発音できない。聞き取りには文法的な知識も必要だが、品詞の特徴や、時制の知識が足りないように思われる。

授業科目名 英語 II A

教室の環境／安全面について：幸い今年は昨年と比べて低温で過ごしやすかったのですが、それでも6月の時点で学生に『なぜエアコンがないのか』と聞かれたり、暑さにより具合が悪くなって途中で帰る学生や、集中力の低下などがみられました。もちろん窓を開けていますが、中庭に面した別の教室から流れてくる高音の音楽の爲、授業しづらくなりました。(3・4時限のみ)。もっと配慮していただきたいと思います。また、まったく清掃をしていないようで、特に後半には、紙くず、髪の毛、ヘアピン、チョークのくずや、下に落ちて踏まれたチョーク、大きな綿埃などのごみが大量にあって、とても居心地が悪かったです。最後に、教室は狭く、使ってい

ない机も多数あるので、オーディオキャビネットのものを取り出しにくく（学生の机を動かさないと不可能です）、出入り口をふさいでいるなど、使いにくい上に安全面の問題もあると思います。

授業科目名	英語ⅡA
-------	------

いわゆる英語4技能をできるだけ融合して授業を行うと、受講生のモチベーションも高まり、それぞれの技能も相乗的に上達するようだ。その意味で、英語を英語で教えることは非常に有効であり、弘前大学生の英語能力を真に高めたいと願うのであるならば、今後この方法でできるだけ多く取り入れるべきであると思う。「21世紀教育英語コミュニケーション実習」では4技能を、speaking／listening、reading、そしてwritingに分けて教えているが、これは、本来同時に扱われるべき4技能を便宜上分けているのであって、実はこのことによって英語というコミュニケーションの手段としてのことばの統一性が失われ、受講生に不自然な形で、英語ということばを提示しているものであり、望ましい状況ではない。この状況はできるだけ早く解消されるべきである。

授業科目名	英語ⅡA
-------	------

英語の習熟度別クラス編成が厳密さに欠けるため学生の能力にバラツキが見られる。できればプレイスメントテストの実施を考えてもらいたい。

授業科目名	英語ⅡA
-------	------

大学生らしい英語授業とはどういうものか。その可能性を問う授業であったと思う。自分の考えを英語でまとめる作業を通して、論理的な思考力が高まり、回を重ねる毎に成長を感じさせる学生が見られた。学生にとってこれまで未体験の授業スタイルのようだが、継続的に観察してみたいと思う。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

出席時数不足の学生が2名いたことが残念である。クラスの中での個人差が大きいと思った。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

①入試の2次テストに英語が課せられている学生は総じて成績がよかった。英語は全受験生に必要なのではないだろうか。

②音声面で劣る学生が目立った。ことばの学習としての音声はもっと大事にしてもよいのではないかと思う。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

宿題であるはずの課題を授業中にやる学生が目につき残念だった。しかし、しっかり準備してきた学生のものとは出来ばえが明らかに違うため成績には反映されていると思う。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

最初に作文をさせた時、文法的な知識がないのに驚いた。断片的な知識（熟語など）はあるのだが、文型や時制、関係詞、態が特に弱いようだ。また、力のある学生とない学生の差が以前より広がっている印象を受けた。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

自分の考えや意見を英文で書くことに慣れておらず、最初は難しいと感じた学生も多かったようだが実際に書いてみることで、英文展開のコツをつかんだり文法や語い面での力不足を認識したりと、見えてくるものがあり良かったと思う。一人一人に目が届くクラスサイズなので、個々の発表にもまたグループ活動にも効果的であると思う。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

今年より新しい教室を使って授業を行ったが、以前の古い教室に比べて狭い印象をもった。隣のテーブルの音量如何で、聞こえたりしてやり難いことがある。こちらとも気を遣いながら（volumeを落としながら）テープを使った。試験の際は大き目の教室に変更してもらった。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

2～3名、中学レベルの英語が理解できない学生あり。出席の評価で救済するしかなかった。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

学生の自主性の伸びがみられた。

授業科目名	英語ⅡB
-------	------

ひとクラスの中でレベルに格差があり、上下どちらにレベルを合わせるべきなのかとても迷った。実際に行うのは不可能だが、いつでも途中から英語Ⅰへ移動させるシステムがあると良いと思う。学生も落とされたくないのもので勉強するかもしれない。

授業科目名	英語ⅢB
-------	------

授業終了時に個別に実施した受講生アンケートの結果（2枚に渡る添付資料参照）から、いわゆる英語4技能をできるだけ融合して授業を行うと、受講生のモチベーションも高まり、それぞれの技能も相乗的に上達するということが分かる。その意味で、英語を英語で教えることは非常に有効であり、弘前大学生の英語能力を真に高めたいと願いのであるならば、今後この方法をできるだけ多く取り入れるべきであると思う。「21世紀教育英語コミュニケーション実習」では4技能をspeaking／listening、そしてwritingに分けて教えているが、これは、本来同時に扱われるべき4技能を便宜上分けているのであ

て、実はこのことによって英語というコミュニケーションの手段としてのことばの統一性が失われ、受講生に不自然な形で、英語ということばを提示しているものであり、望ましい状況ではない。この状況はできるだけ早く解消されるべきである。

受講生アンケート(25名分)から。

1. 1名を除いて、24名全員が「英語だけでの授業はためになるので続けて欲しい」と回答した。
2. 大多数がwriting / speaking / listening能力が向上したと回答した：writing (20名) ;speaking (19名) ; listening (21名)
3. Pair / group discussionが「非常に役に立つ」との回答(17名)「非常に楽しかった」との回答(20名)
4. 英英辞典を使った訓練が「非常に役に立つ」との回答(13名)、「非常に楽しかった」との回答(17名)。英英辞典を使い続けるかという質問に‘Yes’が18名
5. 「この授業の良い点」：
 - Speaking, listening, writingが並行して学べる点。
 - テキストも先生も本当に大事にしてくれ、どんな表現をしても「間違い」ではない点。書く力が本当にのびたと思う。とても充実していた。
 - 今まで、英語の授業が楽しいと感じたことがなかったが、この授業は楽しかったし、いかに自分が知っている英語から自分が言いたい文を作るかを学ぶことができたと思う。
 - 高校の時までは、文法・重要単語など、英語を学問としてしか見れなかったけれど、この授業では英語を言語としてコミュニケーションができた所が自分にとって良かった点だと思う。「間違えたらどうしよう」とか、そのような事を考えなかった分、自分をより表現できた。
 - 英語を使ったgroup workが多く、英語を話す機会が多かった。楽しんで英文を書くことができた。
 - いろいろな人と交流を持てるところと、本当に自由に英文が書けるところ。
 - 大学の英語の授業らしく全て英語で行われるので緊張感をもちながら臨める。グループワークがあるので英語で自分の意志[意志]を何とか伝えようと努力できる。
 - 全て英語なので、始めはとまどったこともあったが、英語を聞いたり話したりできるようになるためにはそれが一番いい方法だと思う。
 - 英語でしか話せないという制約があるが、そのような制約が課されることは日常生活ではない。英語で話すいい機会となった。
 - 今まできちんと発音練習をしたことがなかったので、今回の授業で発音を教えてもらえてよかった。
 - 様々な学部の人と話せる。英語で話せる場であること。

- いろいろな学部の人と話す機会が非常に多い。
- 教官が英語で授業を進めるので、英語を聴く力が上達した。また、英語の話し方がわかった。
- いやでも英語でできなければいけないのでリスニングが上達した気がする。
- 先生が全て英語で話すので、とても良い訓練となった。
- 原則日本語を使わないで授業を進める点。
- 他の授業より英語にふれることができるので、英語の学習としてはかなり役にたった。
- ずっと英語で話しているので、英語に耳がなれていく。いろいろな人とコミュニケーションがとれる。
- 始終英語だけで授業が進むのでどうしたらいいのかわからないときがあったが、英語を使うことに対して抵抗感が少しずつなくなってきたと思う。
- 先生が私達に分かりやすいやさしい英語で話してくれたことです。最初からハイレベルな英語で突っぱねられたら、おそらくぎせつしたことでしょう。
- 英英辞典を使った点。言葉の意味だけ重視することから、その言葉の本当の意味に気づくことになり、母語の単語の意味も考えることになった。
- 英英辞典は初めて使ったが、英→英で説明した時の意味から単語を当てるクイズも語力がついて良かった。
- 今まで受けてきた授業と違って、とにかくかたくなるしくなく、自由であった点。だから眠くなることがなかったし、そこもよかった。
- テキストの内容が面白いので飽きない。
- テキストをやることで他人の意見をきけること。
- 友達がたくさんできる所。
- 6. 「この授業の悪い点」：
 - 本当に英語だけだと、たまに内容が伝わらない。
 - 英語だけでの授業であったので、かなりとまどった。
 - 今まで英語で話したことがなかったので、いきなり英語で会話するのは無理だった。
 - 人により英語へのモチベーションが異なり、英語で話せる人と、話せない人がいたと思う。
 - 全て英語で会話するので、何を言っているかわからなかったり、自分で言いたいことを言えなかったりする。
 - 連絡事項も英語なので何を言っているのかわからない時もあった。重要なところは黒板に書いたりすればいいと思う。
 - 非常に楽しかったのですが、英語のⅢBのレベルとしては、もう少し難しくした方がいいかもしれません。私にとっては今のレベルがちょうど良かったのですが…。

- 英文を読むことが少なかったので読む力をつけるにはものたりない授業だった。
- 自由な部分が大きいために、正確な英語を書く力は落ちたと思う。
- 英英で、理解できない単語があり、覚えられなかった。
- 英英辞典がやりっぱなしになっている。
- 辞書が重い事。(木曜日は特に荷物が多いので)
- 楽しすぎる。
- 学生の積極性がないところ。自分もダメだと思った。他に問題はないと思う。
- 学生の活発性がないため、授業の目的と従わなくてうまく行かなかった。
- みんなが保守的で消極的に英語を話していたこと。さらにおもしろく、分かりやすいトピックがあれば、もっとみんな積極的に英語で会話できたのではないか。(難しくて、言い換えられない単語があれば調べて良い、など…も許して。)
- グループ作りがスムーズに行かない点。
- 親しくない人と仲良くなれるのはいいが、親しい人とほとんど組めないで終わったのが残念。
- Group workでさえ話せば、誰とどのように組んでも問題はないと思います。
- 人見知りしやすいので、グループを作るのいつも同じ人と組んでしまうので、先生に決めてほしいです。
- 特になし。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

タテ長の教室で語学の授業には不向きであった。ビデオも使いにくかった。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

欠席・遅刻も少なく(全部あわせても6)、授業態度もよく、学生もとてもまじめでした。人数(15人)のせいだったかもしれません。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

中1から英語がよく分からないままの学生がいて本当に辛そうだった。レベル別のクラスを設けるか、アジア系の言語を取るように薦めてはどうか。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

クラス分けが学部・学科毎となり、クラス全体の雰囲気も明るくなったように思います。私の側でも連絡事項等しやすくなりました。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

今回の学生は遅刻・欠席が多く、繰り返し復習のため時間を使い、後半は少し急いだ事が反省されます。学生はドイツ語の文法だけでなく、文化や歴史についてもっと知りたいと望んでいるのですが、限

られた時間ではなかなかむずかしいので、せめてテキストにそのような情報ものっていればと思いました。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

今回理工学部では学生から、もっとゆっくりしたペースで一年を通して学習したかった、という声が多かったようですが、一冊の教科書を前・後期で終えるようにできたらと思います。後期また新しく教科書を購入する事は学生にとって負担であるかもしれませんが、ベルリンの壁の歴史とか壁崩壊のビデオ等に学生の関心が予想外に高かったのですが、その他例えば“Good Bye Lenin!”やドイツリート等の為の余裕が殆どなく、また前期で教科書終了と共にドイツ語の学習を終了してしまう学生が多いのが、いつもとても残念なものですから。

或いはまた例えば「人文・医用」とその他の学部で教科書を変えてみる、というのは如何でしょうか。(勝手な事を書き連ねて申し訳ありません。)

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

机が足りなかったので広い部屋の方がよい。今回の教科書が初めてちょうどよいレベルだと思える内容だった。成績の低迷している学生のために補習を行ってはどうか。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

「ドイツ語 I を、単語を覚えられないので1年間でやるようにして下さい」と希望する学生が1名だけいました。他の者は、それなりに覚えているようですが……。

電子辞書の訳語が必ずしも正しいものがきちんと入っていないようです。

授業科目名	ドイツ語 I
-------	--------

一部の学生は英語の知識もかなり不足しているように見えます。これは手の打ちようがありませんが……。

授業科目名	ドイツ語III
-------	---------

教育実習を契機に途中で授業に出れなくなった学生がいたことは残念だった。

授業科目名	フランス語 I
-------	---------

授業アンケート(評価)を非常勤講師についてのみ実施しないことについて、事前に通知してほしかった。評価は常勤・非常勤にかかわらず教師は参考にすべきことで、事前に通知があれば個人的に行う用意もできたと思う。

授業科目名	フランス語 I
-------	---------

半期で第二外国語の単位が満たされるような現状

は、フラストレーションがたまる。言語も含めて学問の面白さ、楽しさは、難しさを乗り越えて初めて得られるものではないか。“学生の負担の軽減”という理屈のもとに、学生にその機会を与えていないことにならないか。

授業科目名	フランス語Ⅱ(A)
-------	-----------

単位取得を目的にした学生だけでなく、フランス語をさらに続けたいという学生、一度やめたがまた始めたいと来た学生が加わり、活気のある授業になった。こうした学生の意志をつみとらないよう、このⅡAを維持してほしい。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

やはり一クラス人数は四十人以上、授業の効率的運行とその成果にマイナスの影響が大きいと思います。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

ここ数年、できる学生とできない学生の二極化傾向を痛感している。できる学生はヒアリング、筆記ともに毎回高得点であるが、欠席もなく真面目に出席していながらまったくできない学生もいる。

初習外国語科目であるにも拘わらず、半年でこのように差がひらくのは、入学時からの差のひらきではないかと思わざるを得ないところがある。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

語学のクラスとして、一クラスの人数がやや多い。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

一クラス41人で、一対一で発音をチェックするのはむずかしい。もっと人数を減らしてほしいです。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

クラスごとに人数が多くて、授業中一人ずつ練習させるのがたいへん苦労しました。

これから、クラスごとに人数ができれば、四十人以内にしてほしい。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

語学の勉強で、一クラスで60名は人数が多すぎる。

授業科目名	中国語Ⅰ
-------	------

一クラス66人もいるので、発音等教えづらかった。人数を減らしてほしいです。

授業科目名	バスケットボールⅠ
-------	-----------

全ての学生に、ボールにふれる機会を多くし、全ての学生がシュートを打つことができ、ゲーム作に積極性が出てきた。頭脳的なプレーを楽しんでいた。

授業科目名	ソフトボール
-------	--------

グラブの補充、ボールの補充を毎年やってもらいたい。

授業科目名	バドミントンA
-------	---------

1グループ4～5名なので練習量は非常に多くなり、基本技術の修得には効果的である。また、同年輩でもあり気楽にアドバイスなどを受けている場面も多く、全体に和やかなふん囲気で授業が進められる。

授業科目名	バレーボールⅠ
-------	---------

前回同様に最初のガイダンスで希望者が多数あり、40名程度に制限したが、具体的な授業の目標(ゲームの実施)において、その達成にむけ授業展開上効果的であったと思われる。

授業科目名	卓球A
-------	-----

コート(卓球台)、新品を準備していただいたので非常によかったです。

室内競技のため、夏、冬の厳しさのため、いづれも現在の時間帯(時限)がベストのようです。

皆勤率が、64%位なので平均点が少し高めになったかなと感じています。

授業科目名	卓球B
-------	-----

第1体育館2Fの倉庫に入っている卓球台も使用しているが、パイプ椅子が邪魔で台の出し入れに支障をきたす場合がある。この点を改善していただきたい。

授業科目名	基本の運動
-------	-------

基本の運動は文字通り身体を動かす授業形態をとっており、週明けのしかも1時限目に開講することは決して有意義なものとは言えない。開始時限を午後にしていただくよう検討願いたい。

授業科目名	美術実技(A)
-------	---------

受講者レベルは高く、大変楽しい授業の時間を共有できた。

授業科目名	情報処理演習Ⅱ
-------	---------

学生のレベルが大分違うようで、授業の内容について苦労した。習得レベル別に開講した方がよい。

授業科目名	情報処理演習Ⅱ
-------	---------

高校の情報教育でパソコン操作に慣れている？学生が3：2の割(学生によると)であったが、内容によりスピードが早いとの意見もあった。

授業科目名	情報処理演習Ⅱ
-------	---------

今年度の学生はあまりTAに質問することがなく、

TAが手持無沙汰の状態であった。TAの活用を図る必要がある。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

テキストと使用環境の差が大きく、早期の対応が必要である。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

来年から高校が新カリに移行するためか、かなり個人差がある。また、ほとんどが初学者ではないため、内容的に問題があった。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

パソコンの利用に関してはかなりの学生が既に学んでいるが、その利用法については倫理的な面での教育が必要と感じている。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

できれば、学生の既習者レベルでクラス分けした方が良いのではないのでしょうか。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

成績処理の電算化をいそぐべし。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

レポートの未提出が例年に比べて多く、授業に対する意欲が低下してきているように感じられた。

授業科目名 情報処理演習Ⅱ

情報処理の基礎能力は、年々かえって差が開いているようで対応が難しくなっている。

授業科目名 哲学の基礎

学生—近来にないほど“おとなしすぎた”。

資料投影機—すぐ使えるようにセットしたままであれば助かる。

授業科目名 言語学の基礎

人数が多すぎることと学部により（人文がほとんど）がありすぎます。後期開講の人文1年生用の授業との違いが理解できません。どのような工夫をすべきなのでしょう。

授業科目名 文学の基礎

単位認定の基本事項が了解できていない1年生がいた。「レポートを出しても不可がつくことはありますか？」はましな方で「何点だと不可ですか？」「可は単位がつくのですか？」等々。こういうレベルのことも教えないといけない現状なのかという感想です。

授業科目名 芸術学の基礎

この授業は、いやこれに限らず、「出席ですべてOK」というような空気が生まれています。これを全体ガイダンスでとりさし、「出席≠参加」と認知してもらいたいです。個人では限界があります。

授業科目名 古典語実習(ギリシア語Ⅰ)

今年度前期は例年と比較して、受講者がやや少なかったが、モチベーションの高い学生が多く、授業中の質問等、授業に主体的に参加していこうとする、熱心な学生のおかげで、担当する側の志気も大いに上がった。

授業科目名 会計学の基礎

マイク（ワイヤレス）が後部座席まで電源がとどかず、宿題を答えてもらっても全員に聞きとれない。黒板に書いてもらおうとしてもひび割れしており書きづらい。（「聞けない」「見えない」の二重苦では1年生は大学の印象を悪くして、母校に帰った時入学をやめるよう下級生に言わないか心配です。）

とりやめしている学生の情報が無いので毎回、出欠を取っていた。無駄とは言えないまでも効率的ではなく、改善をお願いしたい。

授業科目名 経営学の基礎

受講生が多く、教室の確保が大変だった。大教室のため、講義内容がどこまで理解してもらえたか不安。教室の設備をもっとよくしてほしい。（液晶プロジェクターの設置など）

授業科目名 経済学の基礎（A）

補講日を期末試験前に設定して頂けないでしょうか。

授業科目名 経済学の基礎（C）

2点要望がある。1つは私の場合板書が多いので、上下に移動できる黒板のある教室を用意していただきたいこと、2つは、履修者名簿が届くのが遅すぎること、このため出席者の確認に煩瑣を伴った。この点は早速に改善してほしい。

授業科目名 社会学の基礎

平均点が低いので、求める水準が適格であるか、検討したい。

授業科目名 法学の基礎

総合201の後方にはマイクの声が届かない。是非とも早急に整備していただきたい。

授業科目名 歴史学の基礎

教室がせまく、暑くて具合が悪くなるような日も

あった。名簿ができあがるのが遅かった。学生は真面目であったと思う。

授業科目名 日本国憲法

受講者名簿を「共通教育」の時と同様の様式にしてほしい。(出欠確認のチェックを容易にするため)

授業科目名 数学の基礎Ⅰ(A)

「1回目はオリエンテーションで授業を進めず、出欠もとらない(カウントしない)」というのは、無駄である。

マークシートで行っている学生による「授業評価」は本質的なものではないので無駄であり、やめてほしい。

授業科目名 数学の基礎Ⅰ(B)

3年前に比べて、学生の基礎学力の低下を感じる。301教室のワイヤレスマイクは時々、雑音で使えないことがあった。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(A)

3年前に比べて、学生の基礎学力の低下を感じる。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(A)

推せん入学の学生等を含め「行列」をみたことがない学生が30~40人いた。(高校で数学Cはやらないなど)通常の授業ができない初めてのクラスである。数学Cは入学までに修得させるべきである。(推せん合格者に対しては他大学や本学など(医以外)ではレポートなどの形で補っている。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(A)

なぜ、平均点や分布が算出できないのか、理解に苦しむ。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(A)

学力差がありすぎ、授業が大へんである。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(A)

いつも通りで普通である。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(B)

当初目標に学習レベルが達した学生が増えることは望ましいことなので、優の比率や平均点に基準があっても絶対評価しているので、この基準に適合しなくなる。

成績をファイルで提出したい。

授業科目名 数学の基礎Ⅱ(B)

数学の授業では、板書することがたくさんありますので、大きな黒板が備え付けられた教室を振り当てて頂きたい。

授業科目名 物理学の基礎Ⅰ(B)

予習してくるものは約1/5、解説するものは数人、半数は問題文を読むだけ、残りは内職をしていた。

授業科目名 物理学の基礎Ⅰ(B)

もう少し、人数が少なればいいのですが……。

授業科目名 物理学の基礎Ⅰ(B)

成績評価状況調べが非常に面倒である。プログラムを早急に導入していただきたい。今回は提出するが、次回から提出するつもりはない。

授業科目名 物理学の基礎Ⅰ(B)

クラスの学生レベルが違いすぎます。クラス分けのし方を変えた方がいいでしょう。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(A)

この授業は、高校で物理を履修済みの学生が対象のはずであるが、特にチェックはしないため、たくさんの未履修者が入っているのが現実である。話を聞くと教員免許のために無理を承知で履修するとの事。結果として脱落していく人も多いように感じた。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(A)

1学科1クラス制を希望します。

授業科目名 物理学の基礎Ⅱ(D)

保健学科の放射線技術科学1年生(40名)と検査技術科学1年生40名では多すぎて、きめ細かな講義はできない。又、放射線は高校で物理を受けた学生、検査は受けていない学生でレベルの差がありすぎ。来年から、又、元の別々の講義に戻すべき？

授業科目名 化学の基礎Ⅰ(A)

高校で化学の授業を受けた人と受けなかった人で、理解のスピードに違いがあるように思えた。

授業科目名 化学の基礎Ⅰ(B)

この授業は医学部と農学生命科学部が対象となっているが、医学部医学科とそれ以外の学生との学力の差が歴然としていた。したがって成績の相対評価は難しいと思う。

授業科目名 化学の基礎Ⅰ(B)

306講義室の黒板が古いためか板書した文字がなかなか消せない(かなり力を入れる必要がある)。新しくして欲しいと思います。

授業科目名 化学の基礎Ⅱ(A)

医学科と保健学科の学生が一緒に講義を受けるため、基礎学力には大きな差が認められたが、実際、

講義を行い、試験を行ったところでは、成績には大きな差は認められなかった。学生の授業への取り組みに対する姿勢が影響しているように思われた。昨年と異なり、今年度は放射線技術科学専攻の学生が、化学の基礎Dを受けるようになったため、受講生が半減し、大変やりやすくなった。

授業科目名 化学の基礎Ⅱ（A）

講義室が狭い割に受講人数が多く（87人）、学生も大変だったろうと思う。

試験時、隣に座らざるを得ず、カンニングを防げたか心配。やはり受講人数を減らすのが上策と考える。

授業科目名 化学の基礎Ⅱ（A）

平均を80点にする評価は学生を甘やかすことになり、延いては大学の存在価値に関わってくる。このような方針はやめるべきである。

学期制や週一回の講義形態などを含め、システム全体を見なおすことが必要かも知れない。このような事を考えないで適当に対処するのが一番楽なのですが。平均点などの算出プログラムを開発して下さい。

授業科目名 生物学の基礎Ⅰ（A）

受講者149名は、あまりに多すぎて、特に夏の暑い時期には、Audio器機を用いて、講義するのは、学生にとっても、教師にとっても、暑くてやってられません。何とかして下さい！

授業科目名 生物学の基礎Ⅰ（A）

学生数100人以上は多すぎる。せめて60—70人におさえてほしい。

授業科目名 生物学の基礎Ⅰ（B）

受講者数が150名を超えておりあまりに多すぎる。

授業科目名 生物学の基礎Ⅱ（A）

学生の質、関心度などが異なる学生が混在しているので、講義のレベル設定、試験問題の作製、採点など困難な点が多かった。理工・人文は、医・農生とは、別コースにしたほうが良いと思われる。

授業科目名 生物学の基礎Ⅱ（B）

小レポート、小試験の回数がふえたため、学生にとってはかなりきつかったかもしれない。しかし、点数は悪くなかった。

授業科目名 地学の基礎Ⅰ（A）

授業の工夫に対して150名の受講では効果は上がらない。地学が文系科目であるという認識をされているのは論外であるし、受講生を50名程度以内に制限すべきである。

授業科目名 地学の基礎Ⅰ（B）

前の時間に講義を行った教員は黒板を雑に消していくため、殆ど毎回最初に黒板を消していた。どうかしてほしい。

授業科目名 地学の基礎Ⅰ（B）

全体の授業を液晶プロジェクターを使用しておこなったが、教室の前方のみの照明を消すことができないため、部屋全体を暗くする必要があり、学生から不満が出た。照明スイッチの分割パターンを変更して、前1/3くらいだけ照明を消せるようにしていただきたい。

授業科目名 地学の基礎Ⅱ（A）

補講期間があっても意味をなさないと思う。試験は通常の時間に行わないと学生があつまらない。また試験が終わった後の補講期間に集中講義を入れる教員が多い。授業の内容をカバーしているのであれば、13回～14回の開講数でもよいのではないかと？学生の理解が得られるのであればという前提があるが。

授業科目名 統計学の基礎

理数系科目で受講生130名は多すぎます。きめ細かい教育を行うためには、70～80名程度が限界と思われます。

授業科目名 保健体育学の基礎

出席点を20%設けているが、具体的なレポート点数との兼ね合いで、むずかしいところがある。出席はするがレポートを出さない学生がいる。（4人の教員すべてに）この場合、今回は0点としたが、出席点をつける必要もないかと思われる。

授業科目名 基礎科学実験（物理）

今年のカリキュラムは前期に実験や実習が集中してしまい、学生が腰を落ちつけて、じっくり取り組めていなかった。（週に4日）カリキュラムを改善する必要があると考える。

授業科目名 基礎科学実験（生物）

動物実験に対する倫理との問題を、医学生として考察できたように思う。2年前期に実施するに当たって、医学科の基礎医学実習Aとの重なり（時間的、内容的）を調整する必要がある。

授業科目名 基礎ゼミナール

「とても役に立った授業で、楽しかった」「プレゼンテーションを行うことは、十分有意義なものであった」「発表を通して調べたことは、この先私を元気づけてくれる気がする」等の感想がレポートに書かれていたので、よかったと思っている。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

前年度のやり方を踏襲したが、はじめに2、3回行ったガイダンス・オリエンテーションは、他のガイダンス・オリエンテーションと重複するところがあったようで、学生からはパワーポイントの事にもっと集中してほしいという要望があった。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

学生の評価の低い科目は少なくとも良いのではないでしょう。

報告書の様式を紙から電子ファイルにして欲しいと思います。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

学生1人1人とのディスカッションは出てよかったが、学生同士のコミュニケーションは十分ではないのが残念。お互いの意見を述べあうのが苦手なようだ。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

1年前期のうちは、クラス内で、学生達は互いの顔も名前もよく知らないの、共同で作業することにより、学生同志の意思の疎通が授業前より円滑になったと思われる。学生間にヨコのつながりを持たす上で、効果があったと思われる。

なるべく学生には、「体を使った学習」の機会を多く与えたいと考えている。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

レポートを提出させたところ、専門的な知識に触れた喜びばかりでなく、人間関係の構築など、大学生活に対する不安の解消にも役立っているとのこと、概ね評価が高かった。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

外部講師を招く費用を当科が負担したが、満足な研究費もない現状では、このような費用を教員か学科が負担することはむづかしい。権限は21世紀教育、費用は学部または学科というのは、おかしくないか。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

インターネットによる調査が主流になっているため、原著をあたる事がなく、研究の導入の効果はほとんどない。毎週のプレゼンテーションのやり方の指導が主体となってしまった。脱落しそうな者の補助体制を作るには有効かもしれない。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

徐々に授業に対する真剣さがみとめられてきた。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

授業の工夫を実際に行う事で、教育効果をあげることは可能と考える。

しかし、一方でそのためには、時間や労力を費やすことは不可欠である。

教員の様々な面での負担が大きい場合、授業スタイルによっては十分な効果をあげられない可能性がある。

より良い教育を行うためには、教員自身の時間あるいは精神的な余裕の確保は不可欠と考える。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

大学で何を勉強したらよいのか、目標の定まらない学生があり、大変だと思った。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

大学全体の「教養」のありかたをはっきり示すことが必要です。

21C教育は今、とても「不信」を学生たちに与えています!!

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

全員、真面目に受講しており、成績に優劣をつけるのは、そぐわない。(合・否)でよいのではないか。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

最終的に個人レポートを提出させたが、どれも力作ぞろいであり、基礎ゼミとしての当初の狙いは十分に達成できた。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

基礎ゼミナールと情報処理演習の独立開講は無駄が多い。両者をセットで通年科目とすることでより密度の高い情報リテラシー教育が可能となると思われる。今の基礎ゼミでは、情報集めの時間が短すぎて、情報の消化も不十分で処理もあまりできない。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

同じ課程の学生を1クラスにしてあるため、指導しやすく助かりました。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

基礎ゼミを担当するのは始めてであったが、大変楽しく授業ができたと思う。また、新入生の新しい発想や社会問題などへの考え方などと接することができて、新しい刺激となった。

要望・提案としては、少し基礎ゼミの定員が多いような気がする。グループ活動の報告などでも、3グループだと多くのコメントができず、時間に追われているような感じがした。教員の負担の問題などもあるかと思うが、定員を減らせるようご検討を願いたい。

授業科目名 基礎ゼミナール

思った以上に、皆まじめに課題をこなして、授業に参加していた。しかし、数人は、早くも心配な学生がおり、今後、時折、声かけをしなければいけないと思っている。

授業科目名 基礎ゼミナール

課題発見能力はやや乏しく、受け身の学習姿勢になる傾向も見られたが、概ね、授業の目標は達成されたと思われる。

授業科目名 基礎ゼミナール

複数での学習、1つのテーマを追求するような学習にまだ不慣れである。

個人の学習はほぼできる為、これからの課題である。

授業科目名 基礎ゼミナール

21世紀の「基礎ゼミ」というのは本来学部の専門の教官が日常的に学生と接触しながら行っているものと似ており、21世紀で行うのは妥当ではないと思っている。

授業科目名 基礎ゼミナール

分担制なので個人的には控える。

授業科目名 基礎ゼミナール

学生は授業科目の達成目標を良く理解して学習した。

授業科目名 基礎ゼミナール

自学習の方式として、非常によい。大学は自力で勉強するものであることの認識を体得したようである。

授業科目名 基礎ゼミナール

感想：テーマに対する論理的なまとめ方は未完成であるが、チーム内の活発なディスカッション、並びに自らの意見を記述することを通して、今後の学習のモチベーション高揚に繋がったと確信した。

要望・提案：文京キャンパスでなく、本町で実施できれば良いと感じました。

授業科目名 基礎ゼミナール

10人という少人数は学生とコミュニケーションをはかりやすく、導入科目としては適当な人数と感じている。

授業科目名 基礎ゼミナール

学生にとっては、専攻への全体的展望が開け、指導者側にとっては、個々の学生に対する指導の方向性が見えて有益であると思われる。

授業科目名 基礎ゼミナール

まだ、高校生という感じである。与えられたものは、何とかするが、考えたり創造することにはとまどっている。今後はこの様な場を多くしていく必要がある。

授業科目名 基礎ゼミナール

私は不適任でした。

- ・少なくとも私には実施概要・内容をカバーする事は不可能です。全教員ローテーションにするのであれば趣旨を必要不可欠を示し、ある程度教員の裁量に任せては？
- ・クラス分けの方法に不満です。私のクラスは15名中8名が工藤さんでした。

授業科目名 基礎ゼミナール

きびしいレポート提出を課したが全員がなんとか課題をやりとげた。

授業科目名 基礎ゼミナール

所属学生に休学者が出たが、復学した場合来年度の一年生といっしょに再履修ことになるのが、科目の主旨に照らして疑問に感じた。担当教員は助言教員でもあるので、「保留」にして対処することも考えてよいのではないかな。

授業科目名 基礎ゼミナール

学生の興味、関心をもとに、自主性を尊重しながら指導した結果、意欲的な学習が展開できたことは、学生の感想発表でも裏づけられた。

専攻単位の基礎ゼミがより望ましいと思っているので、そのように改善していただきたい。

授業科目名 基礎ゼミナール

履修学生は授業態度もよく、課題研究も熱心であった。

授業科目名 基礎ゼミナール

教員として何か要望するという訳ではありませんが、直前が体育実技ということもあって、やや疲れ気味で講義に集中しにくかったとの感想が、数名の学生から寄せられていました。

授業科目名 基礎ゼミナール

「自主的な学習態度を獲得する」ような内容を15回で実施するのはとても難しいと感じた。

授業科目名 基礎ゼミナール

実力がある、あるいは積極性のある学生はともかくとして、実力がない（計算力がない、説明能力が弱い、日本語能力がない）そして消極的な学生に対

するケアをどうするか、大きな課題として残っている。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

学生の積極性を引き出すことが出来なかった。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

高価な分子模型を学部長裁量経費で購入していたことは、非常に有意義であったと考える。模型は今後も活用したい。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

1年生は月曜日にこの基礎ゼミしか配置されておらず、時間割に工夫が必要と思う。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

学生の自主性を尊重するような授業展開にしてみたが、学習意欲のある学生には効果的であったと思う。反面、意欲のない学生は発表の形を整える事がやっとなであり、こういう学生に対しては、まず型にはまった様な指導が必要なのかもしれないと感じた。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

無断欠席が多い、途中で欠席が5回を超えると単位を出せない決まりになっているか聞いたところ、知らないようである。ガイダンス等でしっかり知らせるべきである。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

学生間、学生・教員間のコミュニケーションは十分に図ることができたと考えている。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

基礎ゼミナールの受講生は当該学科の学生に限られているので、学科の専門性を重視した導入科目であるので、21世紀教育の中で実施するよりも、専門教育の中に組み入れた方が良いと思う。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

他の人とコミュニケーションが全くとれない学生が増えているように思えます。

人とのつながりは大きな財産となりますので、在学中に多くの友人をつくってほしいのですが……。

授業科目名	基礎ゼミナール
-------	---------

自宅通学でない学生が多く、まずは、学生生活や授業について相談できる友人なり先輩を作ることが重要なようである。

5 21世紀教育授業実施結果

(1) 平成17年度21世紀教育科目開講状況一覧

区 分 ・ 領 域		前 期	後 期	計	備 考
テ ー マ 科 目	国 際	8	12	20	
	情 報	5	7	12	
	環 境	7	9	16	
	健 康	10	15	25	
	科 学	7	10	17	
	社 会	4	6	10	
	文 化	6	8	14	
	人 間	5	10	15	
	特 設	2	1	3	
	小 計	54	78	132	
英語コミュニケーション実習		116	40	156	
多 言 語 コ ミ ュ ニ ケー ション 実 習	ド イ ツ 語	29	14	43	
	フ ラ ン ス 語	29	15	43	
	ロ シ ア 語	0	0	0	
	中 国 語	24	14	38	
	朝 鮮 語	4	4	8	
	小 計	86	47	133	
ス ポ ー ツ ・ 体 育 実 技		26	12	38	
芸 術 実 技		3	3	6	
情 報 処 理 演 習		23	2	25	
基 礎 教 育 科 目	文 化 系 基 礎	15	10	25	
	社 会 系 基 礎	20	10	30	
	自 然 系 基 礎	64	35	99	
	小 計	99	55	154	
基 礎 ゼ ミ ナ ー ル		118	2	120	
21世紀教育科目 計		525	239	764	

(2) 21世紀教育開設授業科目／履修人員一覧

平成16年度(2004)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	担当教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	4年生	合計
後期	金 5・6	871	国際社会の現在 (A)	齋藤 義彦・他	52	6	4	4	3	2	71	1	72
後期	木 5・6	979	国際社会の現在 (D)	近藤 順茂	3	0	3	0	0	3	9		9
後期	金 5・6	872	世界の地域・国・民族 (A)	春日 修・他	122	40	7	18	35	19	241	5	246
後期	木 3・4	871	世界の地域・国・民族 (C)	林 明	49	25	0	15	13	6	108	3	111
後期	木 5・6	871	世界の地域・国・民族 (E)	富田 晃	32	34	7	0	22	18	113	2	115
後期	火 5・6	871	紛争と平和を考える (A)	加来 浩	77	46	20	18	33	3	197	2	199
後期	金 7・8	871	国際文化の展開 (A)	中澤 實郎	71	36	3	22	24	18	174	4	178
後期	火 3・4	871	国際文化の展開 (B)	松井 太	42	11	5	2	11	10	81	1	82
後期	金 7・8	872	国際協力と国際交流 (B)	福田 健一	47	14	11	14	12	7	105	1	106
後期	木 3・4	872	研究・教育から見た世界と日本 (A)	倉又 秀一・他	5	10	2	0	10	5	32	6	38
後期	火 5・6	872	研究・教育から見た世界と日本 (C)	小山 宣子・他	27	7	5	4	7	7	57		57
後期	木 3・4	874	情報ネットワーク (A)	丹波 澄雄	13	9	0	1	103	4	130	2	132
後期	木 3・4	873	情報ネットワーク (A)	松谷 秀哉	26	6	16	11	18	15	92	3	95
後期	金 7・8	873	情報の表現 (A)	小西 榮一	1	1	3	1	49	1	56	1	57
後期	金 5・6	873	情報の処理 (A)	水田 智史・他	3	1	1	3	52	4	64	2	66
後期	火 3・4	872	情報の利用 (A)	根本 伸一	45	5	2	10	57	4	123	1	124
後期	火 5・6	873	情報の伝達 (A)	香取 薫	32	18	16	15	94	1	176	2	178
後期	木 5・6	872	情報化革命 (A)	内海 淳	20	5	3	0	21	7	56	2	58
後期	木 3・4	875	21世紀の環境問題 (A)	牧田 肇・他	25	16	4	13	32	32	122	3	125
後期	金 5・6	874	21世紀の環境問題 (A)	児玉 安正・他	18	11	11	21	55	46	162		162
後期	金 5・6	875	環境と生活 (C)	中根 明夫・他	17	16	23	38	31	29	154	2	156
後期	火 3・4	873	環境と社会 (A)	森 樹男・他	43	7	3	2	16	12	83	1	84
後期	火 5・6	874	環境と資源 (A)	新関 稔・他	5	14	11	11	57	44	142	3	145
後期	火 5・6	875	環境との共生 (A)	谷口 建・他	12	28	4	15	40	32	131	3	134
後期	火 3・4	874	環境と農業 (A)	荒川 修・他	27	31	6	26	24	75	189	3	192
後期	木 3・4	876	環境と農業 (D)	工藤 啓一・他	3	10	1	0	30	20	64	5	69
後期	火 5・6	876	生活習慣と健康 (A)	保嶋 実・他	12	13	0	34	18	12	89	6	95
後期	木 3・4	877	生活習慣と健康 (B)	佐藤 敬・他	33	22	0	34	15	6	110	5	115
後期	木 5・6	873	メンタルヘルス (A)	兼子 直・他	62	48	0	0	40	30	180	14	194
後期	火 3・4	875	メンタルヘルス (B)	阿部テル子・他	68	74	0	86	26	27	281	4	285
後期	木 3・4	878	障害者の健康 (B)	對馬 均・他	20	60	0	45	15	7	147		147
後期	火 3・4	876	障害者の健康 (C)	近藤 和泉・他	4	3	0	18	1	6	32		32
後期	木 5・6	874	薬と健康 (A)	立石 智則・他	39	56	1	2	71	47	216	8	224
後期	木 3・4	879	薬と健康 (B)	元村 成・他	9	12	0	55	24	25	125	2	127
後期	火 5・6	877	発達と老化 (A) ①	米坂 勸・他	42	23	0	60	53	14	192	4	196
後期	金 5・6	876	発達と老化 (A) ②	伊藤 悦朗・他	18	51	0	62	45	27	203	5	208
後期	金 5・6	877	最新医学の現状 (A)	中澤 満・他	18	32	0	43	38	37	168	4	172
後期	金 7・8	874	最新医学の現状 (B)	中澤 満・他	23	49	0	91	52	24	239	10	249
後期	火 9・10	874	健康と運動の科学 (A) ②	戸塚 学・他	37	3	0	13	18	6	77	2	79
後期	木 1・2	879	健康と運動の科学 (A) ③	戸塚 学・他	34	16	5	26	77	52	210	4	214
後期	木 9・10	874	健康と運動の科学 (A) ④	戸塚 学・他	37	6	0	0	22	7	72	2	74
後期	金 5・6	878	科学・技術の発達 (C)	中束 克美・他	4	3	0	1	37	6	51		51
後期	木 3・4	880	科学・技術の発達 (E)	高垣 啓一・他	4	4	18	3	23	10	62	1	63
後期	木 5・6	875	科学・技術の最前線 (B)	匂坂 康男・他	4	3	11	0	48	9	75	1	76
後期	火 3・4	877	科学・技術の最前線 (D)	古屋 泰文・他	0	2	23	27	115	15	182	1	183
後期	火 3・4	878	生活の科学・技術 (A)	牧野 英司・他	2	4	1	3	37	4	51	3	54
後期	木 3・4	881	生活の科学・技術 (B)	五十嵐康雄・他	19	29	6	23	41	48	166	6	172
後期	火 3・4	879	生物の科学・技術 (A)	松本光比古・他	6	9	7	19	19	39	99		99

平成16年度(2004)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	担当教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	4年生	合計
後期	火5・6	878	生物の科学・技術(B)	石黒 誠一・他	1	9	4	9	39	65	127	2	129
後期	木5・6	876	自然や社会の数学(B)	北田 俊之	4	4	2	0	39	10	59		59
後期	金7・8	875	宇宙と地球の科学(A)	小菅 正裕	1	9	0	4	21	5	40		40
後期	木3・4	882	国家と政策(A)	春日 修	119	25	13	3	9	4	173	4	177
後期	金7・8	876	社会と経済(A)	池田 憲隆	102	12	6	4	14	9	147		147
後期	火5・6	879	社会と経済(F)	北島 誓子	15	4	1	0	3	1	24	4	28
後期	火5・6	880	企業と経営(A)	四宮 俊之	89	9	4	11	29	7	149	2	151
後期	火3・4	880	企業と経営(A)	綿引 宣道	13	4	1	1	6	1	26		26
後期	金5・6	879	社会と市民生活(A)	村田 輝夫・他	66	22	2	6	3	6	105	2	107
後期	木5・6	877	地域社会と地方自治(A)	児山 正史	41	19	2	0	5	4	71	1	72
後期	火3・4	881	社会とジェンダー(A)	羽渕 一代・他	68	28	1	11	11	5	124	3	127
後期	金5・6	880	美術の世界(A)②	岡田 敬司	31	17	6	2	5	1	62	1	63
後期	木5・6	878	文学の世界(B)	奈蔵 正之	73	28	2	0	13	15	131	1	132
後期	火5・6	881	音楽の世界(A)	今井 民子・他	43	26	3	9	12	2	95	3	98
後期	金7・8	877	音楽の世界(B)	島 一夫・他	55	42	24	45	45	27	238	1	239
後期	火3・4	882	思想と文化(B)	山田 史生	42	38	15	11	37	7	150	1	151
後期	金7・8	878	言語の文化誌(A)	木村 宣美・他	60	12	2	3	3	3	83		83
後期	木5・6	980	くらし・歴史・文化(B)	麓 信義	11	5	23	0	6	3	48		48
後期	木5・6	879	人を育む営み(A)	砂上 史子・他	63	70	23	1	6	11	174	5	179
後期	火5・6	883	人を育む営み(B)	松本 敏治・他	21	28	1	16	9	1	76	5	81
後期	金7・8	879	人を育む営み(C)	菅野 幸宏・他	35	50	6	24	28	14	157	6	163
後期	木3・4	883	人間の尊厳(A)	五十嵐靖彦・他	33	25	0	1	14	3	76		76
後期	火5・6	884	人間の尊厳(B)	三浦 秀春・他	10	13	16	4	11	1	55	2	57
後期	金7・8	880	生態系の中の人間(A)	石田 幸子・他	6	4	0	2	1	12	25	2	27
後期	火3・4	883	人間の知(D)	木村 純二	48	20	7	5	8	8	96	1	97
後期	金5・6	881	創造する人間(B)	児玉 忠	31	45	14	5	1	3	99	1	100
後期	金5・6	882	人間のこれから(A)	藤田 昇治・他	9	21	5	9	12	3	59	1	60
後期	火5・6	885	人間のこれから(B)	猪瀬 武則・他	9	16	1	10	7	1	44		44
後期	火1・2	870	英語ⅠA	奥野 忠徳	5	3	0	1	8	2	19		19
後期	木1・2	870	英語ⅠB	小嶋 英夫	5	5	0	0	14	5	29		29
後期	水1・2	876・877	英語ⅡA	今井 文	8	4	0	0	0	0	12	1	13
後期	水1・2	874・875	英語ⅡA	荒田 弘美	9	2	0	0	0	0	11	2	13
後期	水3・4	872・873	英語ⅡA	荒田 弘美	0	0	0	1	8	2	11		11
後期	水3・4	874・875	英語ⅡA	佐藤 和博	0	0	0	2	8	0	10	1	11
後期	水1・2	872・873	英語ⅡA	奈良 重信	6	2	1	0	0	0	9	1	10
後期	水1・2	878・879	英語ⅡA	藤森 千博	11	1	0	0	1	0	13	1	14
後期	水1・2	870・871	英語ⅡA	レオナルド, T. J.	9	2	0	0	0	0	11	1	12
後期	水3・4	870・871	英語ⅡA	レオナルド, T. J.	0	0	0	0	5	6	11		11
後期	水1・2	880・881	英語ⅡA	須々田 友子	46	6	1	0	0	0	53		53
後期	水3・4	878・879	英語ⅡA	須々田 友子	0	0	0	0	6	5	11	1	12
後期	水3・4	880・881	英語ⅡA	フィリップス, J. E.	0	0	0	1	6	1	8		8
後期	水3・4	882・883	英語ⅡA	奥野 浩子	0	0	0	8	27	15	50		50
後期	水3・4	876・877	英語ⅡA	サワダ, H. J.	0	0	0	0	4	3	7	2	9
後期	金1・2	870・871	英語ⅡB	今井 文	0	0	0	2	4	4	10	2	12
後期	金1・2	880・881	英語ⅡB	ウォータス雅代	0	0	0	1	10	1	12		12
後期	金3・4	880・881	英語ⅡB	ウォータス雅代	11	2	0	0	0	0	13		13
後期	金1・2	876・877	英語ⅡB	小田桐清美	0	0	0	1	8	4	13	1	14
後期	金1・2	874・875	英語ⅡB	香取 真理	0	0	0	0	8	4	12		12

平成16年度(2004)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	担当教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	4年生	合計
後期	金 3・4	874・875	英語Ⅱ B	香取 真理	8	2	0	0	0	0	10	1	11
後期	金 1・2	872・873	英語Ⅱ B	佐藤 幸正	0	0	0	0	8	3	11	2	13
後期	金 3・4	876・877	英語Ⅱ B	佐藤 幸正	8	3	0	0	0	0	11		11
後期	金 1・2	878・879	英語Ⅱ B	曾我 純子	0	0	0	1	7	3	11	1	12
後期	金 3・4	870・871	英語Ⅱ B	曾我 純子	10	2	0	0	0	0	12		12
後期	金 1・2	882・883	英語Ⅱ B	藤森 千博	0	0	0	3	3	2	8	2	10
後期	金 3・4	878・879	英語Ⅱ B	藤森 千博	9	0	0	0	0	0	9		9
後期	金 3・4	872・873	英語Ⅱ B	小笠原淑子	5	2	0	0	1	0	8	3	11
後期	金 1・2	884・885	英語Ⅱ B	小野寺 進	0	0	0	8	27	15	50		50
後期	金 3・4	882・883	英語Ⅱ B	内海 淳	47	6	1	0	0	0	54		54
後期	火 1・2	873	英語Ⅲ A	バービエリ	1	3	0	3	3	0	10		10
後期	火 1・2	872	英語Ⅲ A	ヒューゴソン, A.O.	1	2	0	1	3	2	9		9
後期	火 1・2	874	英語Ⅲ A	ウェスタホーベン, J.N.	5	4	0	1	7	5	22	1	23
後期	火 1・2	871	英語Ⅲ A	野呂 徳治	0	3	1	0	4	4	12		12
後期	木 1・2	872	英語Ⅲ B	今井 文	1	4	0	2	3	1	11	2	13
後期	木 1・2	873	英語Ⅲ B	ウォータス雅代	0	2	2	1	4	2	11	2	13
後期	木 1・2	871	英語Ⅲ B	小田桐清美	1	4	0	1	3	3	12	4	16
後期	木 1・2	874	英語Ⅲ B	香取 真理	5	4	0	1	7	4	21	1	22
後期	木 1・2	875	英語Ⅳ	ラウシュ, A. S.	0	0	7	1	0	0	8	3	11
後期	火1・2木1・2	935	ドイツ語Ⅰ	新田 茂	9	3	0	2	6	8	28	1	29
後期	水1・2金3・4	937	ドイツ語Ⅰ	山本 由起	1	3	0	0	12	3	19	3	22
後期	水 1・2	883	ドイツ語Ⅱ (A)	田中 壽子	0	0	0	4	4	2	10		10
後期	水 1・2	882	ドイツ語Ⅱ (A)	福島 伸雄	0	0	1	1	5	3	10		10
後期	水 3・4	884	ドイツ語Ⅱ (A)	田中 岩男	5	3	19	0	0	0	27	1	28
後期	水 3・4	885	ドイツ語Ⅱ (A)	齋藤 義彦	1	2	24	0	0	0	27		27
後期	金 3・4	885	ドイツ語Ⅱ (B)	田中 壽子	0	0	0	3	2	2	7		7
後期	金 3・4	884	ドイツ語Ⅱ (B)	正木むつみ	0	0	1	0	3	1	5	1	6
後期	金 1・2	886	ドイツ語Ⅱ (B)	フールト, V. M.	3	4	30	0	0	0	37		37
後期	金 3・4	886	ドイツ語Ⅱ (C)	相馬 伸子	0	0	1	0	2	0	3		3
後期	金 1・2	887	ドイツ語Ⅱ (C)	船橋奈穂子	1	0	14	0	0	0	15		15
後期	水3・4金1・2	940	フランス語Ⅰ	工藤 貴子	14	2	2	0	0	0	18	1	19
後期	水1・2金3・4	938	フランス語Ⅰ	松山 和子	0	0	0	4	17	4	25	1	26
後期	水 3・4	886	フランス語Ⅱ (A)	小笠原淑子	4	6	8	0	0	1	19		19
後期	水 1・2	884	フランス語Ⅱ (A)	工藤 貴子	0	0	0	0	6	5	11	6	17
後期	金 1・2	888	フランス語Ⅱ (A)	松山 和子	5	2	14	0	0	0	21	1	22
後期	金 1・2	889	フランス語Ⅱ (A)	山井 淑子	7	3	13	0	0	0	23		23
後期	金 3・4	887	フランス語Ⅱ (A)	山井 淑子	0	0	0	1	3	2	6		6
後期	水 1・2	885	フランス語Ⅱ (B)	ジャンソン, M.	0	0	0	0	1	1	2		2
後期	水 3・4	887	フランス語Ⅱ (B)	ジャンソン, M.	8	1	21	0	0	0	30	2	32
後期	金 1・2	890	フランス語Ⅱ (B)	ジャンソン, M.	4	4	8	0	0	0	16	2	18
後期	金 3・4	888	フランス語Ⅱ (B)	ジャンソン, M.	1	0	2	0	3	3	9		9
後期	金 3・4	889	フランス語Ⅱ (C)	工藤 貴子	0	2	1	0	4	3	10	2	12
後期	水 3・4	888	フランス語Ⅱ (C)	奈蔵 正之	3	1	6	0	0	0	10		10
後期	水3・4金1・2	941	中国語Ⅰ	許 紅	10	11	0	0	2	1	24		24
後期	水1・2金3・4	939	中国語Ⅰ	李 淑賢	0	0	0	9	20	8	37		37
後期	火1・2木1・2	936	中国語Ⅰ	楊 天曦	14	5	0	2	13	1	35		35
後期	金 3・4	890	中国語Ⅱ (A)	許 紅	0	0	0	1	7	6	14	1	15
後期	金 1・2	891	中国語Ⅱ (A)	李 淑賢	14	4	0	0	0	1	19	2	21

平成16年度(2004)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	担当教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	4年生	合計
後期	水3・4	889	中国語Ⅱ(A)	李 梁	26	7	0	0	0	0	33		33
後期	水1・2	886	中国語Ⅱ(A)	楊 天曦	0	0	0	0	9	5	14	1	15
後期	水1・2	887	中国語Ⅱ(B)	李 安	2	0	0	1	5	5	13	2	15
後期	水3・4	890	中国語Ⅱ(B)	李 安	13	3	0	0	0	0	16		16
後期	金1・2	892	中国語Ⅱ(C)	楊 天曦	24	5	0	0	0	0	29	1	30
後期	金3・4	891	中国語Ⅱ(C)	城本 るみ	0	0	0	0	7	5	12	1	13
後期	水1・2	888	朝鮮語Ⅱ(A)	尹 永愛	0	0	0	2	2	3	7		7
後期	水3・4	891	朝鮮語Ⅱ(A)	尹 永愛	11	4	0	0	0	0	15	4	19
後期	金1・2	893	朝鮮語Ⅱ(B)	尹 永愛	11	4	0	0	0	0	15	4	19
後期	金3・4	892	朝鮮語Ⅱ(B)	尹 永愛	0	0	0	2	2	3	7		7
後期	金7・8	870	ロシア語Ⅱ(A)	ワレンティン, S.	4	1	0	0	0	0	5	1	6
後期	金9・10	870	ロシア語Ⅱ(B)	ワレンティン, S.	4	1	0	0	0	0	5	1	6
後期	火3・4	870	サッカー	麓 信義	0	5	0	0	0	0	5		5
後期	金5・6	870	エアロビック・ダンス・エクササイズ	佐々木美鈴	6	6	0	3	2	0	17	4	21
後期	月5・6	870	バスケットボールⅠ	伊藤 武樹	16	0	0	0	5	1	22		22
後期	木3・4	870	レクリエーション・スポーツ	齋藤 和男	17	5	0	0	1	4	27		27
後期	水7・8	871	サッカー	船水 友治	6	9	0	0	15	2	32	2	34
後期	火9・10	870	トランポリン	清水 紀人	6	3	0	8	2	0	19	4	23
後期	水7・8	870	バドミントンA	横山 正二	17	11	1	2	9	6	46	4	50
後期	木5・6	870	バドミントンB	石戸 俊雄	8	2	0	0	19	8	37		37
後期	水5・6	870	バレーボールⅡ	川村 謙二	11	1	3	0	6	3	24		24
後期	水5・6	871	卓球A	成田 静司	7	0	0	0	12	9	28		28
後期	火7・8	870	舞踊	尾崎 四樓	4	2	0	9	0	3	18		18
後期	集中	870・871	スキー&スノーボード	高橋 俊哉・他	25	8	1	13	24	9	80		80
後期	木9・10	870・871	音楽実技	和田美亀雄・他	2	9	0	0	1	3	15		15
後期	木9・10	872・873	美術実技	岩井 康頼・他	3	10	0	0	2	2	17		17
後期	火9・10	872	情報処理演習Ⅱ	小山 智史	5	0	0	0	5	0	10		10
後期	火7・8	872	情報処理演習Ⅱ	吉岡 良雄	6	4	0	6	7	6	29	3	32
後期	火9・10	873	情報処理演習Ⅲ	小山 智史	0	0	0	0	1	0	1		1
後期	木9・10	875	哲学の基礎④	木村 純二	31	11	0	0	7	1	50		50
後期	金9・10	871	言語学の基礎②	木村 宣美・他	73	2	1	0	10	0	86		86
後期	火7・8	874	文学の基礎	伊藤 守幸	54	10	2	4	6	1	77	6	83
後期	火9・10	875	芸術学の基礎②	芳野 明・他	51	18	0	6	5	4	84	1	85
後期	月9・10	870	心理学の基礎④	石黒 格・他	66	33	0	1	66	27	193	9	202
後期	木9・10	876	心理学の基礎⑤	石黒 格・他	21	33	1	1	32	25	113	18	131
後期	月9・10	871	教育学の基礎③	吉川 友能・他	23	19	0	0	13	2	57	1	58
後期	金9・10	872	教育学の基礎④	吉川 友能・他	38	5	2	9	8	0	62	4	66
後期	火7・8	875	古典語実習(ギリシア語Ⅱ)	今井 正浩	9	2	0	0	4	0	15		15
後期	木7・8	870	古典語実習(漢文B)	山口 爲廣	43	6	0	0	1	8	58	1	59
後期	火7・8	876	経営学の基礎	森 樹男・他	70	31	5	21	38	14	179	4	183
後期	火9・10	876	経済学の基礎(A)	赤城 国臣	61	8	0	1	24	3	97	3	100
後期	金9・10	873	経済学の基礎(B)	飯島 裕胤	48	1	5	0	20	9	83	2	85
後期	火7・8	877	経済学の基礎(C)	高橋 秀直	65	31	3	31	20	8	158	4	162
後期	火7・8	878	社会学の基礎	武田 共治・他	28	38	0	12	16	10	104	5	109
後期	木9・10	877	政治学の基礎	村松 恵二	40	10	2	0	2	7	61		61
後期	木7・8	871	地理学の基礎③	後藤 寛・他	34	31	1	0	6	49	121	3	124
後期	木7・8	872	法学の基礎③	村田 輝夫・他	73	48	0	0	12	34	167	12	179
後期	火9・10	877	歴史学の基礎④	齊藤 利男	42	25	0	17	13	4	101	2	103

平成16年度(2004)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	担当教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	4年生	合計
後期	木3・4	884	日本国憲法	大竹 昭裕	14	21	0	2	15	6	58	5	63
後期	木7・8	873	数学の基礎Ⅰ(A)②	伊藤 成治	124	46	0	0	0	0	170	4	174
後期	木7・8	874	数学の基礎Ⅱ(B)⑧	高橋 敬夫	0	4	0	1	8	15	28	3	31
後期	木7・8	875	数学の基礎Ⅱ(C)①	工藤 良満	0	0	80	0	0	0	80		80
後期	木7・8	876	数学の基礎Ⅱ(C)②	榊 真	0	0	0	0	43	0	43	2	45
後期	木7・8	877	数学の基礎Ⅱ(C)③	中里 博	0	0	0	0	86	0	86		86
後期	木7・8	878	数学の基礎Ⅱ(C)④	力石 國男	0	0	0	0	64	0	64		64
後期	木7・8	879	数学の基礎Ⅱ(C)⑤	倉坪 茂彦	0	0	0	0	51	0	51		51
後期	木7・8	880	数学の基礎Ⅱ(C)⑥	永瀬 範明	0	0	0	0	69	0	69		69
後期	金9・10	874	物理学の基礎Ⅰ(A)	星野 英興・他	24	3	0	0	0	0	27		27
後期	木9・10	881	物理学の基礎Ⅱ(B)	佐藤 雄二	0	1	0	0	1	89	91		91
後期	木9・10	879	物理学の基礎Ⅱ(B)	岡崎 楨子	0	0	0	0	139	0	139		139
後期	木9・10	878	物理学の基礎Ⅱ(B)	真下 正夫	0	0	78	0	0	0	78		78
後期	木9・10	880	物理学の基礎Ⅱ(B)	小野 俊郎	0	0	1	0	107	0	108		108
後期	火9・10	878	化学の基礎Ⅰ(A)	須藤 新一	34	15	0	0	0	0	49	1	50
後期	金9・10	875	化学の基礎Ⅱ(A)	萩原 守	0	0	0	2	37	34	73	2	75
後期	火9・10	882	化学の基礎Ⅱ(B)	奥野 智旦	0	0	0	0	0	157	157		157
後期	火9・10	879	化学の基礎Ⅱ(B)	北原 晴男	0	2	0	0	53	0	55	1	56
後期	火9・10	880	化学の基礎Ⅱ(B)	長岐 正彦	0	0	80	8	0	0	88		88
後期	火9・10	881	化学の基礎Ⅱ(B)	伊東 俊司	0	0	0	0	86	0	86		86
後期	木9・10	882	生物学の基礎Ⅰ(A)①	齋藤 捷一・他	81	38	0	0	0	0	119	2	121
後期	金9・10	876	生物学の基礎Ⅱ(A)②	大町 鉄雄	3	1	17	4	56	46	127		127
後期	火7・8	879	生物学の基礎Ⅱ(A)③	城田 安幸・他	3	0	34	2	24	63	126		126
後期	木9・10	883	生物学の基礎Ⅱ(B)③	正村 和彦・他	2	1	0	1	3	46	53		53
後期	火7・8	880	生物学の基礎Ⅱ(C)②	佐原 雄二	7	4	36	5	50	50	152	2	154
後期	木9・10	884	地学の基礎Ⅰ(A)	鎌田耕太郎・他	84	49	0	0	1	0	134	3	137
後期	火9・10	883	地学の基礎Ⅱ(A)	氏家 良博	9	1	1	0	39	13	63	1	64
後期	木9・10	885	地学の基礎Ⅱ(B)	田中 和夫	3	0	0	0	24	12	39		39
後期	火7・8	881	情報処理論の基礎	荒木 喬	2	3	0	0	40	2	47	3	50
後期	金9・10	877	統計学の基礎①	石黒 格	44	4	0	0	1	0	49		49
後期	火7・8	882	統計学の基礎②	笠原 幹	78	0	0	0	0	0	78		78
後期	金9・10	878	統計学の基礎③	三上 聖治	0	0	2	8	22	0	32		32
後期	火7・8	883	統計学の基礎④	二ツ矢昌夫	0	0	0	0	79	0	79		79
後期	火9・10	884	統計学の基礎⑤	飯倉 善和	0	0	0	0	72	0	72		72
後期	火9・10	885	統計学の基礎⑧	對馬 栄輝	0	0	0	86	0	0	86		86
通年	金5～10	756	基礎科学実験(化学)	土田 成紀・他	0	0	81	0	0	0	81		81
通年	金5～10	757	基礎科学実験(生物)	元村 成・他	0	0	81	0	0	0	81		81
通年	金5～10	755	基礎科学実験(物理)	泉井 亮・他	0	0	81	0	0	0	81		81
後期	月9・10	977	基礎ゼミナール	齋藤 義彦	7	0	0	0	0	0	7		7
後期	月3・4	981	基礎ゼミナール	中根 明夫	0	0	1	0	0	0	1		1
後期	月9・10	978	基礎ゼミナール	長南 幸安	0	1	0	0	0	0	1		1
後期	月9・10	982	基礎ゼミナール	須藤 新一	0	0	0	0	1	0	1		1
後期	月1・2	983	基礎ゼミナール	柴 正敏	0	0	0	0	1	0	1		1
後期	火3・4	984	基礎ゼミナール	石本 淳	0	0	0	0	1	0	1		1

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	木3・4	754	国際社会の現在(B)	李 安	31	9	9	10	11	6	76	1	77
前期	水3・4	781	国際社会の現在(E)	近藤 順茂	5	1	3	0	0	4	13		13
前期	火3・4	756	世界の地域・国・民族(D)	陳 小君	33	13	4	15	12	13	90	2	92
前期	水1・2	783	世界の地域・国・民族(F)	秋葉まり子	34	53	17	35	20	8	167		167
前期	木3・4	755	紛争と平和を考える(B)	齊藤 利男	25	17	1	2	3	8	56	4	60
前期	火1・2	799	国際文化の展開(C)	山口 爲廣	59	27	22	23	23	20	174	2	176
前期	火3・4	757	国際協力と国際交流(A)	西東 克介	32	11	0	10	4	4	61		61
前期	水3・4	782	研究・教育から見た世界と日本(B)	齊藤 利男	27	10	2	0	3	1	43	1	44
前期	木3・4	756	情報ネットワーク(A)	佐藤 友暁	8	3	4	3	26	10	54	3	57
前期	水1・2	784	情報の表現(B)	内海 淳	16	7	5	7	24	10	69	1	70
前期	水3・4	783	情報の表現(C)	小野口一則	2	0	1	3	26	4	36	2	38
前期	火3・4	758	情報の処理(B)	雨森 道紘	0	1	1	4	39	0	45		45
前期	火1・2	800	情報の利用(B)	小山 智史	14	5	26	14	34	17	110	1	111
前期	水1・2	785	21世紀の環境問題(A)	児玉 安正	18	5	4	10	29	16	82		82
前期	木3・4	757	環境と生活(D)	阿部 由直	5	1	9	2	14	6	37	3	40
前期	火5・6	752	環境と社会(B)	山下 祐介	34	41	0	0	82	4	161		161
前期	水3・4	784	環境と資源(B)	工藤 明	7	6	19	13	17	23	85		85
前期	火3・4	759	環境と資源(C)	伊藤 昭彦	3	1	7	4	33	5	53		53
前期	木3・4	758	環境との共生(B)	北原 啓司	13	14	11	13	50	16	117	6	123
前期	火3・4	760	環境と農業(C)	青山 正和	2	4	6	9	6	20	47	1	48
前期	火3・4	761	生活習慣と健康(C)	中路 重之	10	21	0	16	8	15	70	3	73
前期	木3・4	759	生活習慣と健康(D)	齋藤久美子	33	18	0	26	18	9	104		104
前期	火1・2	801	メンタルヘルス(C)	佐々木大輔	101	65	4	79	67	35	351	3	354
前期	水1・2	786	障害者の健康(A)	小山内隆生	24	17	0	10	13	5	69		69
前期	木5・6	752	薬と健康(A)	立石 智則	78	21	0	1	48	37	185	4	189
前期	木3・4	760	薬と健康(B)	元村 成	4	11	0	19	18	14	66	1	67
前期	水3・4	785	発達と老化(A)	鍵谷 昭文	75	70	0	25	43	58	271	3	274
前期	火3・4	762	最新医学の現状(C)	中澤 満	23	39	0	80	58	23	223	2	225
前期	木5・6	753	最新医学の現状(D)	中澤 満	22	11	0	3	13	36	85	1	86
前期	水1・2	787	健康と運動の科学(A)	大島 義晴	14	0	1	2	26	3	46	2	48
前期	木3・4	761	科学・技術の発達(G)	大久保 正	40	48	31	77	79	39	314		314
前期	水3・4	786	科学・技術の発達(H)	東 徹	2	7	5	7	22	8	51		51
前期	水1・2	788	科学・技術の最前線(B)	長南 幸安	20	25	34	29	67	39	214	3	217
前期	火3・4	763	生活の科学・技術(D)	橋本 勝	6	7	45	17	11	19	105	2	107
前期	火3・4	764	生物の科学・技術(B)	赤田 辰治	1	0	4	11	2	23	41		41
前期	木1・2	799	自然や社会の数学(A)	山形 昌弘	6	14	5	19	37	14	95	2	97
前期	水3・4	787	宇宙と地球の科学(B)	葛西 真寿	18	22	15	40	93	31	219	3	222
前期	水3・4	788	社会と経済(B)	黄 孝春	66	8	0	2	5	10	91	2	93
前期	木3・4	762	企業と経営(A)	濱田 照久	17	3	1	0	4	4	29	1	30
前期	火3・4	765	地域社会と地方自治(B)	大坪 正一	13	4	0	0	2	0	19	2	21
前期	水3・4	789	社会とジェンダー(A)	羽渕 一代	38	8	0	17	7	5	75	1	76
前期	水1・2	789	美術の世界(B)	宮坂 朋	50	12	0	0	4	4	70		70
前期	火3・4	766	文学の世界(A)	小野寺 進	22	5	3	2	6	3	41		41
前期	木1・2	800	音楽の世界(C)	吉田 孝	68	29	10	39	21	19	186	2	188
前期	木3・4	763	思想と文化(C)	諸岡道比古	32	21	1	7	9	7	77		77
前期	火1・2	802	言語の文化誌(B)	吉田比呂子	7	4	0	2	3	0	16		16
前期	水1・2	790	くらし・歴史・文化(A)	関根 達人	34	24	3	13	1	16	91		91
前期	火3・4	767	人を育む営み(C)	菅野 幸宏	21	13	5	20	8	7	74	3	77

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	火5・6	753	人間の尊厳(C)	土田 成紀	11	20	0	0	9	4	44		44
前期	木3・4	764	人間の知(C)	清水 明	11	3	1	7	3	1	26	2	28
前期	水3・4	790	創造する人間(A)	岩井 康頼	84	44	13	16	18	18	193		193
前期	木3・4	765	人間のこれから(A)	藤田 昇治	1	9	5	0	3	2	20	1	21
前期	火3・4	768	社会と私ー仕事を通して考える(A)	小磯 重隆	111	45	2	14	22	47	241	4	245
前期	木3・4	766	英語で学ぶ経営	近藤 順茂	4	1	0	0	1	0	6		6
前期	火1・2	757	英語ⅠA	佐藤 憲和	6	7	0	1	11	5	30		30
前期	火1・2	750	英語ⅠA	石堂 哲也	7	9	0	1	8	4	29		29
前期	火1・2	752	英語ⅠA	上松 一	5	11	0	3	9	4	32		32
前期	火1・2	756	英語ⅠA	木村 宣美	4	6	0	5	9	5	29		29
前期	火1・2	755	英語ⅠA	小野寺 進	2	5	0	4	13	3	27		27
前期	火1・2	758	英語ⅠA	澤田 真一	5	6	0	1	11	5	28		28
前期	火1・2	760	英語ⅠA	奥野 浩子	6	9	0	2	10	4	31		31
前期	火1・2	753	英語ⅠA	内海 淳	6	9	0	2	10	2	29		29
前期	火1・2	754	英語ⅠA	奥野 忠徳	7	8	0	1	11	2	29		29
前期	火1・2	751	英語ⅠA	市原 聡子	5	7	0	3	11	2	28	1	29
前期	火1・2	759	英語ⅠA	小嶋 英夫	3	9	0	3	10	5	30		30
前期	木1・2	758	英語ⅠB	村田 俊一	7	8	0	2	12	3	32		32
前期	木1・2	750	英語ⅠB	石堂 哲也	3	13	0	1	11	4	32		32
前期	木1・2	759	英語ⅠB	山本 秀樹	6	5	0	5	12	5	33		33
前期	木1・2	757	英語ⅠB	田中 一隆	5	9	0	2	11	5	32		32
前期	木1・2	753	英語ⅠB	木村 宣美	8	8	0	1	8	7	32		32
前期	木1・2	752	英語ⅠB	小野寺 進	5	9	0	3	12	4	33		33
前期	木1・2	755	英語ⅠB	菅澤 信夫	4	9	0	2	14	4	33		33
前期	木1・2	760	英語ⅠB	奥野 浩子	5	8	0	4	11	5	33		33
前期	木1・2	751	英語ⅠB	奥野 忠徳	6	10	0	3	13	4	36		36
前期	木1・2	756	英語ⅠB	小嶋 英夫	7	7	0	3	11	4	32		32
前期	水3・4	762・763	英語ⅡA	澤田 信一	0	0	0	13	0	8	21		21
前期	火1・2	773・774	英語ⅡA	今井 文	0	14	0	0	10	0	24		24
前期	水1・2	764・765	英語ⅡA	今井 文	20	0	3	0	0	0	23		23
前期	火1・2	771・772	英語ⅡA	ウォータス雅代	0	12	0	0	12	0	24	1	25
前期	水1・2	762・763	英語ⅡA	ウォータス雅代	22	0	0	0	1	0	23		23
前期	水3・4	766・767	英語ⅡA	ウォータス雅代	0	0	0	11	0	12	23		23
前期	火1・2	785・786	英語ⅡA	香取 真理	0	11	0	0	15	0	26		26
前期	水1・2	774・775	英語ⅡA	香取 真理	23	0	1	0	0	0	24		24
前期	火1・2	779・780	英語ⅡA	荒田 弘美	0	13	0	0	12	0	25		25
前期	水1・2	768・769	英語ⅡA	荒田 弘美	22	0	1	0	0	0	23		23
前期	水3・4	770・771	英語ⅡA	荒田 弘美	0	0	0	11	0	12	23		23
前期	水3・4	774・775	英語ⅡA	佐藤 和博	0	0	0	15	0	8	23		23
前期	火1・2	775・776	英語ⅡA	バービエリ	0	13	0	0	9	0	22	1	23
前期	水1・2	766・767	英語ⅡA	バービエリ	19	0	2	0	0	0	21		21
前期	水3・4	768・769	英語ⅡA	バービエリ	0	0	0	12	0	11	23		23
前期	火1・2	781・782	英語ⅡA	藤森 千博	0	7	0	0	17	0	24		24
前期	水1・2	772・773	英語ⅡA	藤森 千博	23	0	2	0	0	0	25		25
前期	水1・2	770・771	英語ⅡA	レオナルド, T. J.	23	0	2	0	0	0	25		25
前期	水3・4	772・773	英語ⅡA	レオナルド, T. J.	0	0	0	9	0	13	22		22
前期	火1・2	783・784	英語ⅡA	須々田 友子	1	7	0	0	17	0	25		25
前期	火1・2	777・778	英語ⅡA	ヒューゴソン, A. O.	0	10	0	0	15	0	25		25

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	火1・2	787・788	英語ⅡA	ウォータース・グレン	0	15	0	0	11	0	26	1	27
前期	水1・2	776・777	英語ⅡA	アップル	23	0	2	0	0	0	25		25
前期	水3・4	776・777	英語ⅡA	アップル	0	0	0	10	0	12	22		22
前期	水3・4	760・761	英語ⅡA	佐藤 憲和	0	0	0	8	0	14	22	1	23
前期	火1・2	767・768	英語ⅡA	村田 俊一	0	8	0	0	14	0	22	1	23
前期	水3・4	750・751	英語ⅡA	石堂 哲也	0	0	0	13	0	9	22		22
前期	水1・2	752・753	英語ⅡA	上松 一	19	0	3	0	0	0	22		22
前期	水3・4	752・753	英語ⅡA	上松 一	0	0	0	12	0	10	22		22
前期	火1・2	769・770	英語ⅡA	山本 秀樹	0	14	0	0	9	0	23	1	24
前期	水1・2	760・761	英語ⅡA	山本 秀樹	22	0	1	0	0	0	23		23
前期	火1・2	765・766	英語ⅡA	田中 一隆	0	8	0	0	16	0	24		24
前期	水1・2	756・757	英語ⅡA	木村 宣美	21	0	1	0	0	0	22		22
前期	水3・4	756・757	英語ⅡA	木村 宣美	0	0	0	10	0	12	22		22
前期	水1・2	754・755	英語ⅡA	カーペンター, V. L.	21	0	2	0	0	0	23		23
前期	水3・4	754・755	英語ⅡA	カーペンター, V. L.	0	0	0	13	0	10	23		23
前期	水3・4	758・759	英語ⅡA	フィリップス, J. E.	0	0	0	11	0	12	23		23
前期	水1・2	758・759	英語ⅡA	澤田 真一	21	0	1	0	0	0	22	1	23
前期	火1・2	763・764	英語ⅡA	菅澤 信夫	0	9	0	0	14	0	23		23
前期	火1・2	761・762	英語ⅡA	サワダ, H. J.	0	12	0	0	13	0	25		25
前期	水1・2	750・751	英語ⅡA	ウェスターベン, J. N.	22	0	2	0	0	0	24		24
前期	火1・2	789・790	英語ⅡA	野呂 徳治	0	12	0	0	14	0	26		26
前期	水3・4	764・765	英語ⅡA	小嶋 英夫	0	0	0	15	0	6	21		21
前期	木1・2	771・772	英語ⅡB	今井 文	0	10	0	0	14	0	24		24
前期	金3・4	766・767	英語ⅡB	今井 文	22	0	2	0	0	0	24	1	25
前期	木1・2	769・770	英語ⅡB	ウォータース・雅代	0	10	0	0	14	0	24		24
前期	木1・2	773・774	英語ⅡB	小田桐清美	0	12	0	0	12	0	24		24
前期	金1・2	762・763	英語ⅡB	小田桐清美	0	0	0	16	0	8	24		24
前期	木1・2	783・784	英語ⅡB	香取 真理	0	8	0	0	14	0	22	1	23
前期	金3・4	776・777	英語ⅡB	香取 真理	24	0	3	0	0	0	27		27
前期	金1・2	766・767	英語ⅡB	佐藤 幸正	0	0	0	15	0	9	24		24
前期	金3・4	770・771	英語ⅡB	佐藤 幸正	22	0	1	0	0	0	23		23
前期	木1・2	777・778	英語ⅡB	曾我 純子	0	14	0	0	8	0	22		22
前期	金1・2	764・765	英語ⅡB	曾我 純子	0	0	0	13	0	10	23		23
前期	金3・4	768・769	英語ⅡB	曾我 純子	22	0	1	0	0	0	23		23
前期	木1・2	779・780	英語ⅡB	藤森 千博	0	13	0	0	10	0	23		23
前期	金1・2	768・769	英語ⅡB	藤森 千博	0	0	0	15	0	7	22	1	23
前期	木1・2	781・782	英語ⅡB	須々田友子	0	13	0	0	11	0	24		24
前期	木1・2	787・788	英語ⅡB	小笠原淑子	0	12	0	0	11	0	23	1	24
前期	金1・2	770・771	英語ⅡB	小嶋 裕子	0	0	0	6	0	18	24		24
前期	金3・4	772・773	英語ⅡB	小嶋 裕子	21	0	3	0	0	0	24		24
前期	金1・2	772・773	英語ⅡB	佐藤 豊	0	0	0	11	1	13	25		25
前期	金3・4	774・775	英語ⅡB	佐藤 豊	25	0	0	0	0	0	25		25
前期	木1・2	775・776	英語ⅡB	ヒューゴソン, A. O.	0	14	0	0	9	0	23		23
前期	木1・2	785・786	英語ⅡB	ウォータース・グレン	0	11	0	0	11	0	22		22
前期	金3・4	756・757	英語ⅡB	佐藤 憲和	22	0	2	0	0	0	24		24
前期	金1・2	760・761	英語ⅡB	村田 俊一	0	0	0	10	0	14	24		24
前期	金3・4	762・763	英語ⅡB	村田 俊一	21	0	1	0	0	0	22		22
前期	金3・4	750・751	英語ⅡB	石堂 哲也	22	0	2	0	0	0	24		24

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	金 3・4	764・765	英語Ⅱ B	山本 秀樹	21	0	2	0	0	0	23		23
前期	金 1・2	758・759	英語Ⅱ B	田中 一隆	0	0	0	10	0	14	24		24
前期	金 3・4	760・761	英語Ⅱ B	田中 一隆	23	0	1	0	0	0	24		24
前期	金 1・2	754・755	英語Ⅱ B	小野寺 進	0	0	0	14	0	11	25		25
前期	木 1・2	767・768	英語Ⅱ B	澤田 真一	0	12	0	0	11	0	23		23
前期	金 1・2	756・757	英語Ⅱ B	菅澤 信夫	0	0	0	13	0	10	23		23
前期	金 3・4	758・759	英語Ⅱ B	菅澤 信夫	21	0	2	0	0	0	23		23
前期	木 1・2	765・766	英語Ⅱ B	内海 淳	0	10	0	0	12	0	22		22
前期	金 1・2	752・753	英語Ⅱ B	内海 淳	0	0	0	15	0	9	24	1	25
前期	金 1・2	774・775	英語Ⅱ B	中野 京子	0	0	0	14	0	9	23	1	24
前期	木 1・2	789・790	英語Ⅱ B	長南 幸安	0	9	0	0	14	0	23	1	24
前期	金 3・4	754・755	英語Ⅱ B	奥野 忠徳	21	0	1	0	0	1	23		23
前期	木 1・2	761・762	英語Ⅱ B	市原 聡子	0	7	0	0	16	0	23		23
前期	金 1・2	750・751	英語Ⅱ B	市原 聡子	0	0	0	11	0	13	24		24
前期	金 3・4	752・753	英語Ⅱ B	市原 聡子	21	0	2	0	0	0	23		23
前期	木 1・2	763・764	英語Ⅱ B	ウェスタホーベン, J.N.	0	7	0	0	16	0	23		23
前期	木 1・2	791・792	英語Ⅱ B	野呂 徳治	0	5	0	0	17	0	22	2	24
前期	火 1・2	792	英語Ⅲ A	カーペンター, V. L.	6	1	15	2	2	1	27		27
前期	火 1・2	793	英語Ⅲ A	フィリップス, J. E.	1	2	12	4	3	4	26	1	27
前期	火 1・2	791	英語Ⅲ A	ウェスタホーベン, J.N.	4	2	15	2	1	1	25		25
前期	火 1・2	794	英語Ⅲ A	ラウシュ, A. S.	3	2	12	4	2	2	25		25
前期	木 1・2	793	英語Ⅲ B	上松 一	3	2	11	4	2	2	24		24
前期	木 1・2	794	英語Ⅲ B	カーペンター, V. L.	2	2	12	4	4	1	25		25
前期	木 1・2	795	英語Ⅲ B	フィリップス, J. E.	6	2	15	2	2	1	28		28
前期	木 1・2	796	英語Ⅲ B	ラウシュ, A. S.	5	1	15	2	1	4	28		28
前期	木 1・2	778	英語Ⅳ	ラウシュ, A. S.	2	0	0	0	1	4	7		7
前期	水3・4金1・2	834	ドイツ語Ⅰ①	田中 岩男	35	0	0	0	0	0	35		35
前期	水3・4金1・2	835	ドイツ語Ⅰ②	齋藤 義彦	19	0	0	0	0	0	19		19
前期	水3・4金1・2	836	ドイツ語Ⅰ③	福島 伸雄	17	0	0	0	0	0	17		17
前期	水3・4金1・2	837	ドイツ語Ⅰ④	正木むつみ	0	20	0	0	0	0	20		20
前期	水3・4金1・2	838	ドイツ語Ⅰ⑤	新田 茂	0	13	0	0	0	0	13		13
前期	水3・4金1・2	839	ドイツ語Ⅰ⑥	原田 悦雄	0	0	22	0	0	0	22		22
前期	水1・2金3・4	815	ドイツ語Ⅰ⑦	山本 由起	0	0	0	0	30	0	30	1	31
前期	水1・2金3・4	816	ドイツ語Ⅰ⑧	相馬 伸子	0	0	0	0	20	0	20		20
前期	水1・2金3・4	817	ドイツ語Ⅰ⑨	船橋奈穂子	0	0	0	0	29	0	29	1	30
前期	水1・2金3・4	818	ドイツ語Ⅰ⑩	田中 壽子	0	0	0	31	0	0	31		31
前期	水1・2金3・4	819	ドイツ語Ⅰ⑪	正木むつみ	0	0	0	41	0	0	41		41
前期	水1・2金3・4	820	ドイツ語Ⅰ⑫	福島 伸雄	0	0	0	6	0	27	33		33
前期	水1・2金3・4	821	ドイツ語Ⅰ⑬	新田 茂	0	0	0	6	0	19	25		25
前期	火 1・2	795	ドイツ語Ⅱ (A)	齋藤 義彦	3	0	3	0	1	0	7		7
前期	木 1・2	797	ドイツ語Ⅱ (B)	フルト, V. M.	1	0	1	0	2	0	4		4
前期	火 1・2	796	ドイツ語Ⅲ	田中 岩男	3	0	0	0	1	1	5	1	6
前期	水3・4金1・2	840	フランス語Ⅰ①	熊野真規子	28	0	0	0	0	0	28		28
前期	水3・4金1・2	841	フランス語Ⅰ②	奈蔵 正之	31	0	0	0	0	0	31	1	32
前期	水3・4金1・2	842	フランス語Ⅰ③	松山 和子	30	0	0	0	1	0	31		31
前期	水3・4金1・2	843	フランス語Ⅰ④	泉谷 安規	14	0	21	0	0	0	35		35
前期	水3・4金1・2	844	フランス語Ⅰ⑤	工藤 貴子	0	31	0	0	0	0	31		31
前期	水3・4金1・2	845	フランス語Ⅰ⑥	山井 淑子	0	28	0	0	0	0	28		28

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	水3・4金1・2	846	フランス語Ⅰ⑦	ジャンソン, M.	0	0	34	0	0	0	34		34
前期	水1・2金3・4	822	フランス語Ⅰ⑧	泉谷 安規	0	0	0	0	21	0	21		21
前期	水1・2金3・4	823	フランス語Ⅰ⑨	ジャンソン, M.	0	0	0	0	29	0	29		29
前期	水1・2金3・4	824	フランス語Ⅰ⑩	小笠原淑子	0	0	0	0	14	0	14		14
前期	水1・2金3・4	825	フランス語Ⅰ⑪	松山 和子	0	0	0	31	0	0	31		31
前期	水1・2金3・4	826	フランス語Ⅰ⑫	工藤 貴子	0	0	0	10	0	16	26		26
前期	水1・2金3・4	827	フランス語Ⅰ⑬	山井 淑子	0	0	0	10	0	19	29		29
前期	木1・2	798	フランス語Ⅱ(A)	工藤 貴子	6	2	5	0	0	0	13	3	16
前期	火1・2	797	フランス語Ⅱ(B)	熊野真規子	6	1	3	0	0	0	10	3	13
前期	火1・2	798	フランス語Ⅲ	奈蔵 正之	16	0	0	0	3	2	21		21
前期	水3・4金1・2	847	中国語Ⅰ①	李 梁	39	0	0	3	0	0	42		42
前期	水3・4金1・2	848	中国語Ⅰ②	城本 るみ	39	0	0	3	0	0	42		42
前期	水3・4金1・2	849	中国語Ⅰ③	楊 天曦	51	0	0	0	0	0	51		51
前期	水3・4金1・2	850	中国語Ⅰ④	顧 国玉	38	0	0	0	1	0	39		39
前期	水3・4金1・2	851	中国語Ⅰ⑤	許 紅	0	54	0	0	0	0	54		54
前期	水3・4金1・2	852	中国語Ⅰ⑥	李 淑賢	0	46	0	0	0	0	46		46
前期	水3・4金1・2	853	中国語Ⅰ⑦	林 雁青	0	47	0	0	0	0	47		47
前期	水1・2金3・4	828	中国語Ⅰ⑧	林 雁青	1	0	0	60	0	0	61		61
前期	水1・2金3・4	829	中国語Ⅰ⑨	許 紅	0	0	0	0	61	0	61		61
前期	水1・2金3・4	830	中国語Ⅰ⑩	李 淑賢	0	0	0	0	61	0	61		61
前期	水1・2金3・4	831	中国語Ⅰ⑪	楊 天曦	0	0	0	0	33	29	62		62
前期	水1・2金3・4	832	中国語Ⅰ⑫	顧 国玉	0	0	0	0	0	66	66		66
前期	水3・4金1・2	854	朝鮮語Ⅰ①	尹 永愛	25	21	0	0	0	0	46		46
前期	水3・4金1・2	833	朝鮮語Ⅰ②	尹 永愛	1	1	0	7	22	17	48		48
前期	金5・6	750	エアロビック・ダンス・エクササイズ	佐々木美鈴	17	3	0	2	4	0	26		26
前期	火5・6	751	バスケットボールⅠ	伊藤 武樹	6	4	0	5	11	7	33		33
前期	火3・4	751	バスケットボールⅡ	本間 正行	8	0	0	0	11	3	22		22
前期	火7・8	751	レクリエーション・スポーツ	齋藤 和男	9	1	0	9	7	0	26		26
前期	火5・6	750	スポーツ・ファーストエイド	高橋 俊哉	2	2	0	9	3	8	24		24
前期	集中	750	アクアスポーツ	大島 義晴	4	1	0	1	2	1	9		9
前期	集中	751	キャンプA	高橋 俊哉	8	2	0	0	11	6	27		27
前期	木5・6	751	サッカー	船水 友治	8	0	1	6	12	6	33		33
前期	木7・8	751	サッカー	船水 友治	2	0	0	2	21	13	38		38
前期	水5・6	751	ソフトボール	東 好弘	14	3	0	1	26	13	57		57
前期	水7・8	751	ソフトボール	東 好弘	19	2	0	0	29	4	54		54
前期	火3・4	753	テニス	齋藤 和男	5	0	0	0	23	7	35		35
前期	木5・6	750	バドミントンA	横山 正二	20	0	3	15	1	10	49		49
前期	木7・8	750	バドミントンA	横山 正二	12	3	0	2	20	14	51		51
前期	木3・4	750	バレーボールⅠ	川村 謙二	13	2	0	6	15	3	39		39
前期	火3・4	750	フィットネス	大島 義晴	9	0	0	0	6	3	18		18
前期	火3・4	752	柔道	高橋 俊哉	5	0	0	0	8	2	15		15
前期	水5・6	750	卓球A	成田 静司	7	0	2	9	9	3	30		30
前期	水7・8	750	卓球A	成田 静司	5	5	0	0	15	1	26		26
前期	木7・8	752	卓球B	石川 孝	6	4	0	0	14	3	27		27
前期	火7・8	750	舞踊	尾崎 四樓	3	0	0	4	1	1	9		9
前期	月3・4	752	テニス	齋藤 和男	0	16	0	0	0	0	16		16
前期	月3・4	751	トレーニング	戸塚 学	0	57	0	1	1	1	60		60
前期	月3・4	750	バスケットボール	本間 正行	0	54	0	0	1	1	56		56

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	月1・2	750	基本の運動	清水 紀人	0	102	0	0	1	0	103		103
前期	月3・4	753	柔道	高橋 俊哉	1	21	0	0	0	1	23		23
前期	木9・10	750・751	音楽実技	和田美亀雄	4	11	0	1	6	0	22		22
前期	木9・10	752	美術実技(A)	蝦名 敦子	1	2	0	2	4	7	16		16
前期	木9・10	754	美術実技(B)	富田 晃	0	6	0	1	2	0	9		9
前期	月1・2	753	情報処理演習Ⅱ	張 樹槐	0	0	0	0	0	54	54		54
前期	月1・2	751	情報処理演習Ⅱ	角野 三好	0	0	0	0	0	66	66		66
前期	月1・2	752	情報処理演習Ⅱ	高橋 照夫	0	0	0	0	0	67	67		67
前期	月7・8	750	情報処理演習Ⅱ	後藤 寛	60	0	0	0	0	0	60		60
前期	月7・8	751	情報処理演習Ⅱ	大橋 忠宏	66	0	0	0	0	0	66		66
前期	火3・4	755	情報処理演習Ⅱ	丹波 澄雄	0	0	39	0	0	0	39		39
前期	火3・4	754	情報処理演習Ⅱ	松谷 秀哉	0	0	38	0	0	0	38		38
前期	木3・4	753	情報処理演習Ⅱ	清宮 良昭	0	0	0	71	0	0	71		71
前期	水1・2	781	情報処理演習Ⅱ	山本 逸郎	0	60	0	0	0	0	60		60
前期	金1・2	776	情報処理演習Ⅱ	道上 宗巳	0	0	0	0	62	0	62		62
前期	水3・4	779	情報処理演習Ⅱ	鈴木 裕史	0	0	0	0	60	0	60		60
前期	金3・4	779	情報処理演習Ⅱ	深瀬 政秋	0	66	0	0	0	0	66		66
前期	水3・4	778	情報処理演習Ⅱ	長瀬 智行	0	0	0	0	60	0	60		60
前期	金3・4	778	情報処理演習Ⅱ	齋藤 稔	0	65	0	0	0	0	65		65
前期	月5・6	751	情報処理演習Ⅱ	岡崎 功	58	0	0	0	0	0	58		58
前期	月3・4	754	情報処理演習Ⅱ	成田 明子	60	0	0	0	0	0	60		60
前期	木3・4	751	情報処理演習Ⅱ	宮田 寛	0	0	0	65	0	0	65		65
前期	金1・2	777	情報処理演習Ⅱ	笹川 和彦	0	0	0	0	62	0	62		62
前期	月3・4	755	情報処理演習Ⅱ	稲村 隆夫	56	0	0	0	0	0	56		56
前期	木3・4	752	情報処理演習Ⅱ	柳岡 英樹	0	0	0	67	0	0	67		67
前期	水1・2	782	情報処理演習Ⅱ	妻木 勇一	0	66	0	0	0	0	66		66
前期	月5・6	750	情報処理演習Ⅱ	佐川 貢一	55	0	0	0	0	0	55		55
前期	水3・4	780	情報処理演習Ⅲ	水田 智史	0	0	0	0	68	0	68		68
前期	火5・6	755	哲学の基礎	岡崎 英輔	23	13	0	5	5	4	50	3	53
前期	火5・6	754	哲学の基礎	三浦 秀春	46	22	0	54	6	0	128	1	129
前期	金7・8	751	哲学の基礎	矢島 忠夫	76	29	8	9	26	1	149		149
前期	木5・6	754	言語学の基礎	佐藤 和之	74	7	1	0	1	7	90	1	91
前期	木5・6	755	言語学の基礎	長崎 秀昭	35	36	1	1	1	5	79		79
前期	木9・10	756	文学の基礎	木村 純二	54	6	1	0	7	7	75		75
前期	火5・6	756	文学の基礎	奈蔵 正之	33	5	0	2	0	1	41		41
前期	木7・8	753	芸術学の基礎	足達 薫	85	34	3	7	24	31	184	5	189
前期	火9・10	751	心理学の基礎	芳野 晴男	58	16	4	23	49	13	163	3	166
前期	火9・10	750	心理学の基礎	石黒 格	94	81	17	51	56	21	320	1	321
前期	木9・10	757	心理学の基礎	石黒 格	33	50	35	37	69	53	277	3	280
前期	火7・8	752	教育学の基礎	吉川 友能	11	87	0	7	19	4	128	2	130
前期	木7・8	754	教育学の基礎	吉川 友能	14	72	2	0	17	3	108	1	109
前期	火7・8	753	古典語実習(ギリシア語Ⅰ)	今井 正浩	17	0	0	1	1	2	21		21
前期	金7・8	752	古典語実習(漢文A)	植木 久行	42	1	0	1	3	0	47		47
前期	木9・10	758	会計学の基礎	新井 一夫	153	17	1	1	38	10	220	2	222
前期	火7・8	754	経営学の基礎	森 樹男	35	19	6	6	53	7	126	1	127
前期	木7・8	755	経営学の基礎	森 樹男	151	10	5	0	26	7	199		199
前期	火5・6	757	経済学の基礎(A)	小谷田文彦	124	13	0	0	7	13	157	2	159
前期	火7・8	755	経済学の基礎(B)	山本 康裕	109	6	1	2	18	7	143	3	146

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	火9・10	752	経済学の基礎(C)	鈴木 和雄	36	2	0	0	5	2	45	1	46
前期	火7・8	756	社会学の基礎	武田 共治	51	37	5	29	49	13	184		184
前期	金5・6	751	社会学の基礎	武田 共治	127	88	0	2	29	8	254	1	255
前期	火5・6	758	政治学の基礎	柑本 英雄	84	25	0	2	2	8	121	3	124
前期	木5・6	756	地理学の基礎	檜垣 大助	14	8	0	0	3	15	40	2	42
前期	金5・6	752	地理学の基礎	後藤 雄二	36	25	0	0	20	17	98	1	99
前期	火7・8	757	法学の基礎	村田 輝夫	58	27	31	8	25	5	154	1	155
前期	木7・8	756	法学の基礎	村田 輝夫	86	34	11	0	7	6	144		144
前期	木5・6	757	歴史学の基礎	藤沼 邦彦	37	37	14	0	0	8	96	2	98
前期	火9・10	753	歴史学の基礎	荷見 守義	35	7	1	2	6	2	53		53
前期	金9・10	750	歴史学の基礎	足立 孝	78	18	3	8	30	12	149	5	154
前期	木3・4	767	日本国憲法	大竹 昭裕	0	84	1	17	0	34	136	1	137
前期	集中	752	日本国憲法	加藤 隆之	71	0	0	0	1	3	75	1	76
前期	木1・2	801	日本国憲法	堀内 健志	2	3	0	0	118	0	123	2	125
前期	木3・4	768	日本国憲法	宮崎 秀一	0	153	0	0	0	0	153		153
前期	木5・6	758	数学の基礎Ⅰ(A)	太田 伸也	65	29	0	0	0	0	94	1	95
前期	木5・6	759	数学の基礎Ⅰ(B)	北田 俊之	20	14	0	4	7	34	79		79
前期	火5・6	759	数学の基礎Ⅱ(A)	北田 俊之	12	16	0	20	0	12	60		60
前期	火5・6	761	数学の基礎Ⅱ(A)	本瀬 香	0	0	0	0	42	0	42		42
前期	火5・6	760	数学の基礎Ⅱ(A)	高橋 敬夫	0	0	77	0	0	0	77		77
前期	火5・6	763	数学の基礎Ⅱ(A)	脇 克志	0	0	0	0	61	0	61		61
前期	火5・6	765	数学の基礎Ⅱ(A)	中里 博	0	0	0	0	67	0	67		67
前期	火5・6	762	数学の基礎Ⅱ(A)	二ツ矢昌夫	0	0	0	0	85	0	85		85
前期	火5・6	764	数学の基礎Ⅱ(A)	工藤 良満	0	0	0	0	64	0	64		64
前期	木5・6	760	数学の基礎Ⅱ(B)	藤崎 浩幸	16	7	0	0	0	57	80		80
前期	火9・10	754	数学の基礎Ⅱ(B)	廣田 淳一	1	0	0	19	0	0	20		20
前期	木5・6	762	数学の基礎Ⅱ(B)	丹原 大介	0	0	0	0	79	0	79	1	80
前期	木5・6	761	数学の基礎Ⅱ(B)	榊 真	0	0	0	0	40	0	40		40
前期	木5・6	764	数学の基礎Ⅱ(B)	中里 博	0	0	0	0	57	0	57		57
前期	木5・6	765	数学の基礎Ⅱ(B)	永瀬 範明	0	0	0	0	68	0	68	1	69
前期	木5・6	763	数学の基礎Ⅱ(B)	津村 浩三	0	0	0	0	65	0	65		65
前期	金5・6	754	物理学の基礎Ⅰ(B)	松本光比古	0	0	2	38	0	0	40		40
前期	金5・6	756	物理学の基礎Ⅰ(B)	東 徹	4	8	1	0	33	34	80		80
前期	金5・6	755	物理学の基礎Ⅰ(B)	小豆畑 敬	0	0	0	0	0	88	88		88
前期	金5・6	753	物理学の基礎Ⅰ(B)	手塚 泰久	0	0	37	0	46	0	83		83
前期	金9・10	751	物理学の基礎Ⅱ(A)	谷口 建	1	0	0	1	6	97	105		105
前期	金5・6	758	物理学の基礎Ⅱ(A)	竹ヶ原克彦	0	0	0	0	66	0	66	1	67
前期	金5・6	757	物理学の基礎Ⅱ(A)	倉又 秀一	0	0	39	0	0	0	39		39
前期	金5・6	759	物理学の基礎Ⅱ(A)	市村 雅一	0	0	0	0	106	0	106		106
前期	火7・8	758	物理学の基礎Ⅱ(A)	齊藤 玄敏	0	0	0	0	105	0	105		105
前期	金5・6	760	物理学の基礎Ⅱ(D)	山寺 亮	0	0	0	82	0	0	82		82
前期	金7・8	753	化学の基礎Ⅰ(A)	内山 大史	45	13	0	0	0	0	58	2	60
前期	金7・8	755	化学の基礎Ⅰ(B)	五十嵐康雄	0	0	36	34	0	9	79		79
前期	金7・8	754	化学の基礎Ⅰ(B)	田尻 明男	3	2	0	0	61	0	66	1	67
前期	金7・8	757	化学の基礎Ⅱ(A)	佐藤 剛	0	0	21	25	0	0	46		46
前期	金7・8	756	化学の基礎Ⅱ(A)	長南 幸安	0	2	0	0	97	0	99		99
前期	金7・8	759	化学の基礎Ⅱ(A)	中束 克美	0	0	0	0	2	86	88		88
前期	金7・8	758	化学の基礎Ⅱ(A)	糠塚いそし	0	0	0	0	72	0	72		72

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	金 7・8	760	化学の基礎Ⅱ(A)	長尾 至孝	0	0	0	0	0	97	97	1	98
前期	木 7・8	757	化学の基礎Ⅱ(B)	澤田 英夫	0	0	0	0	15	10	25	1	26
前期	金 7・8	761	化学の基礎Ⅱ(D)	石川 孝	0	0	0	41	1	0	42		42
前期	金 9・10	752	化学の基礎Ⅱ(D)	石川 孝	0	0	0	41	0	0	41		41
前期	火 7・8	759	生物学の基礎Ⅰ(A)	小原 良孝	86	62	0	0	1	0	149		149
前期	火 9・10	755	生物学の基礎Ⅰ(A)	武藤 昱	77	32	0	0	0	0	109	1	110
前期	金 5・6	761	生物学の基礎Ⅰ(B)	石川 隆二	2	26	1	8	21	17	75	1	76
前期	金 9・10	753	生物学の基礎Ⅰ(B)	赤田 辰治	3	5	39	54	46	6	153	1	154
前期	金 9・10	754	生物学の基礎Ⅱ(A)	菊池 英明	11	1	25	8	24	41	110		110
前期	火 9・10	757	生物学の基礎Ⅱ(B)	葛西 身延	0	0	36	18	1	0	55		55
前期	火 9・10	756	生物学の基礎Ⅱ(B)	村上 修	0	5	0	0	7	72	84		84
前期	火 7・8	760	生物学の基礎Ⅱ(C)	杉山 修一	8	1	6	8	23	118	164		164
前期	金 7・8	762	生物学の基礎Ⅱ(D)	三浦 富智	0	0	0	41	0	0	41		41
前期	金 9・10	755	生物学の基礎Ⅱ(D)	三浦 富智	0	0	0	41	0	0	41		41
前期	木 9・10	759	地学の基礎Ⅰ(A)	堀内 弘之	111	40	0	0	0	0	151	1	152
前期	火 9・10	758	地学の基礎Ⅰ(B)	根本 直樹	12	13	0	4	25	29	83	1	84
前期	木 7・8	758	地学の基礎Ⅰ(B)	佐々木 実	16	8	0	1	37	39	101	3	104
前期	木 7・8	759	地学の基礎Ⅱ(A)	柴 正敏	18	5	0	0	49	20	92	2	94
前期	木 9・10	760	地学の基礎Ⅱ(B)	佐藤 魂夫	1	0	0	0	67	16	84		84
前期	木 7・8	760	情報処理論の基礎	成田 明子	2	4	0	0	73	0	79		79
前期	火 5・6	766	統計学の基礎	万木 正弘	0	0	0	0	2	128	130		130
前期	金 5・6	762	統計学の基礎	嶋 恵一	0	0	0	82	0	0	82		82
前期	月 1・2	754	保健体育学の基礎	佐藤 光毅	0	93	0	0	0	0	93		93
前期	月 3・4	756	保健体育学の基礎	清水 紀人	2	105	0	0	0	0	107		107
前期	月 1・2	755	保健体育学の基礎	面澤 和子	0	73	0	0	1	0	74		74
前期	火・木 5~10	754	基礎科学実験(化学)	土田 成紀	0	0	83	0	0	0	83		83
前期	火・木 5~10	755	基礎科学実験(生物)	元村 成	0	0	83	0	0	0	83		83
前期	火・木 5~10	753	基礎科学実験(物理)	泉井 亮	0	0	83	0	0	0	83		83
前期	木 3・4	770	基礎ゼミナール	石田 幸子	0	0	0	0	0	13	13		13
前期	木 3・4	771	基礎ゼミナール	葛西 身延	0	0	0	0	0	14	14		14
前期	木 3・4	774	基礎ゼミナール	戸羽 隆宏	0	0	0	0	0	11	11		11
前期	木 3・4	775	基礎ゼミナール	武藤 昱	0	0	0	0	0	11	11		11
前期	木 3・4	776	基礎ゼミナール	吉田 孝	0	0	0	0	0	10	10		10
前期	木 3・4	777	基礎ゼミナール	荒川 修	0	0	0	0	0	8	8		8
前期	木 3・4	780	基礎ゼミナール	杉山 修一	0	0	0	0	0	10	10		10
前期	木 3・4	781	基礎ゼミナール	鈴木 裕之	0	0	0	0	0	9	9		9
前期	木 3・4	782	基礎ゼミナール	佐野 輝男	0	0	0	0	0	9	9		9
前期	木 3・4	779	基礎ゼミナール	東 信行	0	0	0	0	0	9	9		9
前期	木 3・4	783	基礎ゼミナール	高橋 秀直	0	0	0	0	0	40	40		40
前期	木 3・4	769	基礎ゼミナール	福沢 雅志	0	0	0	0	0	15	15		15
前期	木 3・4	772	基礎ゼミナール	菊池 英明	0	0	0	0	0	10	10		10
前期	木 3・4	773	基礎ゼミナール	片方陽太郎	0	0	0	0	0	10	10		10
前期	木 3・4	778	基礎ゼミナール	本多 和茂	0	0	0	0	0	9	9		9
前期	月 7・8	753	基礎ゼミナール	藤沼 邦彦	15	0	0	0	0	0	15		15
前期	月 7・8	752	基礎ゼミナール	足達 薫	15	0	0	0	0	0	15		15
前期	月 7・8	757	基礎ゼミナール	白田 昭吾	14	0	0	0	0	0	14		14
前期	月 7・8	756	基礎ゼミナール	植木 久行	14	0	0	0	0	0	14		14
前期	月 7・8	754	基礎ゼミナール	泉谷 安規	15	0	0	0	0	0	15		15

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	月7・8	758	基礎ゼミナール	石堂 哲也	14	0	0	0	0	0	14		14
前期	月7・8	761	基礎ゼミナール	原田 悦雄	17	0	0	0	0	0	17		17
前期	月7・8	760	基礎ゼミナール	奈蔵 正之	17	0	0	0	0	0	17		17
前期	月7・8	762	基礎ゼミナール	フールト, V. M.	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月7・8	755	基礎ゼミナール	清水 明	15	0	0	0	0	0	15		15
前期	月7・8	759	基礎ゼミナール	内海 淳	14	0	0	0	0	0	14		14
前期	月5・6	758	基礎ゼミナール	大橋 忠宏	15	0	0	0	0	0	15		15
前期	月7・8	763	基礎ゼミナール	石黒 格	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月5・6	755	基礎ゼミナール	新井 一夫	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月5・6	756	基礎ゼミナール	保田 宗良	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月5・6	757	基礎ゼミナール	綿引 宣道	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月5・6	759	基礎ゼミナール	笠原 幹	15	0	0	0	0	0	15		15
前期	月5・6	754	基礎ゼミナール	山本 康裕	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月5・6	753	基礎ゼミナール	飯島 裕胤	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月5・6	752	基礎ゼミナール	李 永俊	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月7・8	765	基礎ゼミナール	児山 正史	15	0	0	0	0	0	15		15
前期	月7・8	766	基礎ゼミナール	紺屋 博昭	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月7・8	764	基礎ゼミナール	山口 恵子	16	0	0	0	0	0	16		16
前期	月3・4	773	基礎ゼミナール	丹波 澄雄	0	0	0	0	15	0	15		15
前期	月9・10	750	基礎ゼミナール	中根 明夫	0	0	79	0	0	0	79		79
前期	火3・4	769	基礎ゼミナール	阿部テル子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	770	基礎ゼミナール	齋藤久美子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	774	基礎ゼミナール	宮本 昭子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	771	基礎ゼミナール	川崎くみ子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	772	基礎ゼミナール	野戸 結花	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	776	基礎ゼミナール	木立るり子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	773	基礎ゼミナール	森 圭子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	777	基礎ゼミナール	市丸 俊夫	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	780	基礎ゼミナール	廣田 淳一	0	0	0	11	0	0	11		11
前期	火3・4	778	基礎ゼミナール	岩崎 晃	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	779	基礎ゼミナール	祐川 幸一	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	784	基礎ゼミナール	三浦 富智	0	0	0	11	0	0	11		11
前期	火3・4	783	基礎ゼミナール	佐藤 達資	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	782	基礎ゼミナール	佐々木甚一	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	786	基礎ゼミナール	岩田 学	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	785	基礎ゼミナール	金沢 善智	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	787	基礎ゼミナール	三浦 秀春	0	0	0	11	0	0	11		11
前期	火3・4	788	基礎ゼミナール	加藤 拓彦	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	火3・4	775	基礎ゼミナール	芝山江美子	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	月9・10	752	基礎ゼミナール	後藤 雄二	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	751	基礎ゼミナール	小岩 直人	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	753	基礎ゼミナール	伊藤 成治	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	755	基礎ゼミナール	山本 逸郎	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	763	基礎ゼミナール	長南 幸安	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	754	基礎ゼミナール	大高 明史	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	756	基礎ゼミナール	島 一夫	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	757	基礎ゼミナール	吉田 孝	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	758	基礎ゼミナール	佐藤 光輝	0	15	0	0	0	0	15		15

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
前期	月9・10	759	基礎ゼミナール	麓 信義	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	760	基礎ゼミナール	肥田野 豊	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	火3・4	781	基礎ゼミナール	大友 良光	0	0	0	10	0	0	10		10
前期	月9・10	762	基礎ゼミナール	安藤 房治	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	764	基礎ゼミナール	佐藤 雄一	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	767	基礎ゼミナール	遠藤 孝夫	0	16	0	0	0	0	16		16
前期	月9・10	766	基礎ゼミナール	花屋 道子	0	16	0	0	0	0	16		16
前期	月9・10	765	基礎ゼミナール	田上 恭子	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月9・10	761	基礎ゼミナール	齋藤 尚子	0	15	0	0	0	0	15		15
前期	月3・4	760	基礎ゼミナール	榊 真	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	757	基礎ゼミナール	倉坪 茂彦	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	758	基礎ゼミナール	二ツ矢昌夫	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	759	基礎ゼミナール	永瀬 範明	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	765	基礎ゼミナール	岡崎 禎子	0	0	0	0	14	0	14		14
前期	月3・4	766	基礎ゼミナール	道上 宗巳	0	0	0	0	14	0	14		14
前期	月3・4	764	基礎ゼミナール	竹ヶ原克彦	0	0	0	0	13	0	13		13
前期	月3・4	762	基礎ゼミナール	長岐 正彦	0	0	0	0	12	0	12		12
前期	月3・4	763	基礎ゼミナール	喜多 昭一	0	0	0	0	13	0	13		13
前期	月3・4	767	基礎ゼミナール	市村 雅一	0	0	0	0	15	0	15		15
前期	月3・4	768	基礎ゼミナール	鶴見 實	0	0	0	0	15	0	15		15
前期	月3・4	769	基礎ゼミナール	佐藤 魂夫	0	0	0	0	15	0	15		15
前期	月3・4	770	基礎ゼミナール	片岡 俊一	0	0	0	0	16	0	16		16
前期	月3・4	774	基礎ゼミナール	手塚 泰久	0	0	0	0	19	0	19		19
前期	月3・4	772	基礎ゼミナール	吉岡 良雄	0	0	0	0	18	0	18		18
前期	月3・4	775	基礎ゼミナール	宮田 寛	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	776	基礎ゼミナール	古屋 泰文	0	0	0	0	11	0	11		11
前期	月3・4	777	基礎ゼミナール	伊藤 昭彦	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	780	基礎ゼミナール	牧野 英司	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	761	基礎ゼミナール	澤田 英夫	0	0	0	0	14	0	14		14
前期	月3・4	779	基礎ゼミナール	齊藤 玄敏	0	0	0	0	10	0	10		10
前期	月3・4	771	基礎ゼミナール	中島 健介	0	0	0	0	17	0	17		17
前期	月3・4	778	基礎ゼミナール	福田 真	0	0	0	0	10	0	10		10
後期	金5・6	866	国際社会の現在(A)	齋藤 義彦・他	20	6	5	1	14	8	54	2	56
後期	木5・6	865	国際社会の現在(D)	近藤 順茂	8	2	1	0	5	1	17	1	18
後期	金5・6	867	世界の地域・国・民族(A)	石堂 哲也・他	59	21	6	6	26	16	134		134
後期	木3・4	867	世界の地域・国・民族(C)	林 明	58	28	3	3	18	8	118	1	119
後期	集中	867	世界の地域・国・民族(E)	富田 晃	30	20	2	24	25	14	115	1	116
後期	火5・6	866	紛争と平和を考える(A)	加来 浩	68	52	13	5	40	31	209		209
後期	金7・8	865	国際文化の展開(A)	中澤 實郎	94	55	7	11	27	8	202	2	204
後期	火3・4	866	国際文化の展開(B)	松井 太	34	6	0	2	5	4	51		51
後期	金5・6	868	国際文化の展開(D)	足立 孝	31	13	4	1	8	7	64		64
後期	金7・8	866	国際協力と国際交流(B)	福田 健一	49	5	13	7	10	1	85		85
後期	木3・4	868	研究・教育から見た世界と日本(A)	倉又 秀一・他	9	2	1	1	4	1	18		18
後期	木3・4	869	研究・教育から見た世界と日本(D)	土持ゲーリー法一	7	18	3	0	2	1	31		31
後期	木3・4	871	情報ネットワーク(A)	丹波 澄雄	20	5	1	8	69	4	107	1	108
後期	木3・4	870	情報ネットワーク(A)	松谷 秀哉	17	6	25	18	30	5	101		101
後期	金7・8	867	情報の表現(A)	小西 榮一	3	1	0	0	27	0	31	1	32
後期	金5・6	869	情報の処理(A)	水田 智史・他	5	0	0	1	35	1	42	1	43

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
後期	木5・6	867	情報の利用(A)	谷田 親彦	5	5	0	0	4	4	18		18
後期	火5・6	867	情報の伝達(A)	香取 薫	59	19	4	8	65	5	160	1	161
後期	木5・6	868	情報化革命(A)	内海 淳	16	4	14	0	32	0	66		66
後期	火5・6	868	21世紀の環境問題(A)	牧田 肇・他	23	13	5	4	39	30	114	1	115
後期	金7・8	868	21世紀の環境問題(A)	児玉 安正・他	14	12	6	11	52	51	146	4	150
後期	金7・8	869	環境と生活(A)	長田 恭一・他	20	14	10	26	30	31	131	3	134
後期	火3・4	867	環境と生活(B)	野田 香織・他	10	9	7	12	28	22	88	1	89
後期	火3・4	868	環境と社会(A)	須藤 弘敏・他	18	6	2	1	6	6	39		39
後期	火3・4	869	環境と資源(A)	肥田野 豊・他	9	13	3	9	26	42	102	1	103
後期	火5・6	869	環境との共生(A)	谷口 建・他	16	25	14	14	43	51	163	2	165
後期	火3・4	870	環境と農業(A)	荒川 修・他	21	12	18	19	34	4	108	1	109
後期	木3・4	872	環境と農業(D)	工藤 啓一・他	15	10	3	11	29	39	107		107
後期	火5・6	870	生活習慣と健康(A)	保嶋 実・他	17	19	0	25	24	14	99	2	101
後期	木3・4	873	生活習慣と健康(B)	佐藤 敬・他	33	38	0	46	31	16	164	3	167
後期	木5・6	869	メンタルヘルス(A)	矢部 博興・他	86	86	0	0	66	36	274	2	276
後期	火3・4	871	メンタルヘルス(B)	阿部テル子・他	50	56	0	85	52	28	271	6	277
後期	木3・4	874	障害者の健康(B)	對馬 均・他	25	40	0	48	8	15	136		136
後期	火3・4	872	障害者の健康(C)	近藤 和泉・他	5	6	0	11	2	3	27		27
後期	木5・6	870	薬と健康(A)	立石 智則・他	68	72	0	3	95	74	312	2	314
後期	木3・4	875	薬と健康(B)	元村 成・他	17	10	0	39	19	22	107	1	108
後期	火5・6	871	発達と老化(A)①	米坂 勲	44	66	0	95	76	25	306		306
後期	金5・6	870	発達と老化(A)②	伊藤 悦朗・他	52	50	0	46	40	40	228	1	229
後期	金5・6	871	最新医学の現状(A)	中澤 満・他	21	36	0	85	71	43	256	1	257
後期	金7・8	870	最新医学の現状(B)	中澤 満・他	67	49	0	69	68	39	292	1	293
後期	火9・10	869	健康と運動の科学(A)②	戸塚 学・他	36	3	0	23	18	5	85		85
後期	木1・2	865	健康と運動の科学(A)③	戸塚 学・他	36	5	2	26	89	52	210		210
後期	木9・10	865	健康と運動の科学(A)④	戸塚 学・他	27	5	4	2	25	7	70	1	71
後期	金7・8	871	科学・技術の発達(A)	吉澤 篤・他	13	3	18	6	69	12	121		121
後期	金5・6	872	科学・技術の発達(C)	中束 克美・他	2	0	4	4	19	1	30		30
後期	木5・6	871	科学・技術の最前線(A)	匂坂 康男・他	7	2	7	0	52	9	77	1	78
後期	火5・6	872	科学・技術の最前線(C)	赤田 辰治・他	7	4	7	6	59	7	90		90
後期	火3・4	873	生活の科学・技術(C)	福地 博・他	2	3	0	5	31	6	47		47
後期	木3・4	876	生活の科学・技術(E)	吉田 孝・他	1	7	10	8	12	32	70		70
後期	火3・4	874	生物の科学・技術(A)	佐野 輝男・他	2	1	5	5	21	29	63		63
後期	火5・6	873	生物の科学・技術(A)	葛西 身延・他	9	12	4	9	31	32	97		97
後期	木3・4	877	自然や社会の数学(B)	陳 小君・他	5	0	3	1	18	3	30		30
後期	金5・6	873	宇宙と地球の科学(C)	片岡 俊一	7	6	5	2	27	9	56	3	59
後期	木3・4	878	社会と経済(E)	中澤 勝三	84	6	0	3	11	6	110	2	112
後期	火3・4	875	企業と経営(A)	藤田 正一	115	17	3	9	44	17	205	1	206
後期	木5・6	872	社会と市民生活(A)	村田 輝夫・他	105	60	22	0	27	25	239	1	240
後期	金5・6	874	社会と市民生活(A)	村田 輝夫・他	41	15	3	5	3	2	69	1	70
後期	木5・6	873	地域社会と地方自治(A)	児山 正史	27	16	2	0	3	16	64		64
後期	金5・6	875	社会とジェンダー(A)	羽渕 一代・他	105	31	0	13	24	7	180	1	181
後期	火5・6	874	美術の世界(B)	芳野 明	50	23	11	4	17	3	108		108
後期	木3・4	879	文学の世界(B)	白田 昭吾	24	10	0	2	3	1	40	1	41
後期	火3・4	876	音楽の世界(A)	今井 民子	42	30	10	14	11	13	120	1	121
後期	金5・6	876	音楽の世界(B)	島 一夫	20	6	0	8	21	15	70	1	71
後期	火3・4	877	思想と文化(B)	山田 史生	60	72	17	23	54	36	262	2	264

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
後期	金 7・8	872	言語の文化誌(A)	原田 悦雄・他	50	11	3	1	3	4	72		72
後期	木 5・6	875	くらし・歴史・文化(B)	麓 信義	7	6	5	0	4	6	28		28
後期	火 3・4	878	くらし・歴史・文化(C)	曾我 亨・他	39	6	0	1	2	4	52		52
後期	金 5・6	877	人を育む営み(A)	安藤 房治・他	33	77	24	33	13	14	194	1	195
後期	火 5・6	875	人を育む営み(B)	松本 敏治・他	44	44	6	19	15	12	140	2	142
後期	金 7・8	873	人を育む営み(C)	菅野 幸宏・他	30	32	3	13	14	19	111	2	113
後期	木 5・6	876	人間の尊厳(A)	五十嵐靖彦・他	28	13	18	0	5	7	71		71
後期	火 5・6	876	人間の尊厳(B)	三浦 秀春・他	16	7	7	12	8	5	55		55
後期	金 7・8	874	生態系の中の人間(A)	石田 幸子・他	4	1	3	0	3	12	23	2	25
後期	火 3・4	879	人間の知(B)	祐川 幸一	20	22	8	17	28	17	112	1	113
後期	金 7・8	875	創造する人間(B)	児玉 忠	21	51	15	14	20	11	132	3	135
後期	金 5・6	878	人間のこれから(A)	藤田 昇治・他	2	1	5	3	1	2	14		14
後期	火 5・6	877	人間のこれから(B)	猪瀬 武則・他	12	16	3	1	10	1	43		43
後期	火 3・4	880	社会と私ー仕事を通して考える(B)	小磯 重隆	17	2	0	2	2	10	33		33
後期	水 1・2	865	英語ⅠA	奥野 忠徳	4	4	0	2	12	6	28		28
後期	金 3・4	865	英語ⅠB	小嶋 英夫	5	7	0	2	18	9	41		41
後期	水 1・2	873	英語ⅡA	今井 文	25	0	0	0	0	0	25		25
後期	水 3・4	873・874	英語ⅡA	香取 真理	0	0	0	0	15	1	16	2	18
後期	水 1・2	868・869	英語ⅡA	荒田 弘美	22	3	1	0	0	0	26		26
後期	水 3・4	867・868	英語ⅡA	荒田 弘美	0	0	0	1	10	0	11	1	12
後期	水 3・4	871・872	英語ⅡA	佐藤 和博	0	0	0	0	16	1	17		17
後期	水 1・2	866・867	英語ⅡA	バービエリ	21	0	0	0	0	0	21		21
後期	水 3・4	865・866	英語ⅡA	バービエリ	0	0	0	1	0	9	10	1	11
後期	水 1・2	874・875	英語ⅡA	藤森 千博	27	0	0	0	0	0	27		27
後期	水 1・2	870・871	英語ⅡA	レオナルド, T. J.	5	19	0	0	0	0	24		24
後期	水 3・4	869・870	英語ⅡA	レオナルド, T. J.	0	0	0	0	14	4	18		18
後期	水 1・2	876・877	英語ⅡA	須々田友子	15	12	0	0	0	0	27		27
後期	水 3・4	877・878	英語ⅡA	須々田友子	0	0	0	0	1	18	19		19
後期	水 1・2	889・890	英語ⅡA	佐藤 憲和	19	0	0	0	0	0	19	1	20
後期	水 3・4	875・876	英語ⅡA	奥野 浩子	0	0	0	4	8	6	18		18
後期	金 1・2	879・880	英語ⅡB	今井 文	1	0	0	0	0	19	20		20
後期	金 1・2	865・866	英語ⅡB	ウォータス雅代	0	0	0	0	1	13	14	3	17
後期	金 3・4	868・869	英語ⅡB	ウォータス雅代	20	1	0	0	0	0	21		21
後期	金 1・2	867・868	英語ⅡB	小田桐清美	0	0	0	0	13	0	13		13
後期	金 1・2	876	英語ⅡB	香取 真理	0	0	0	0	6	1	7		7
後期	金 1・2	871・872	英語ⅡB	佐藤 幸正	0	0	0	3	1	8	12	2	14
後期	金 3・4	870・871	英語ⅡB	佐藤 幸正	13	4	0	0	0	0	17		17
後期	金 1・2	869・870	英語ⅡB	曾我 純子	0	0	0	0	13	0	13		13
後期	金 3・4	876・877	英語ⅡB	曾我 純子	26	0	0	0	0	0	26		26
後期	金 1・2	873・874	英語ⅡB	藤森 千博	0	0	0	1	13	0	14	2	16
後期	金 3・4	872・873	英語ⅡB	藤森 千博	5	16	0	0	0	0	21	1	22
後期	金 3・4	878・879	英語ⅡB	小笠原淑子	13	12	0	0	0	0	25		25
後期	金 1・2	877・878	英語ⅡB	小野寺 進	0	0	0	4	8	5	17		17
後期	金 3・4	866・867	英語ⅡB	フィリップス, J. E.	20	1	0	0	0	0	21	2	23
後期	金 3・4	875	英語ⅡB	内海 淳	26	0	0	0	1	0	27		27
後期	水 1・2	879	英語ⅢA	ウォータス雅代	1	6	0	3	1	0	11		11
後期	水 1・2	880	英語ⅢA	ヒューゴソン, A. O.	1	0	2	1	8	2	14		14
後期	水 1・2	878	英語ⅢA	サワダ, H. J.	13	0	0	0	0	1	14		14

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
後期	水1・2	881	英語ⅢA	ウェスタホーベン, J.N.	3	3	0	1	4	1	12		12
後期	金3・4	880	英語ⅢB	今井 文	13	0	0	0	0	0	13		13
後期	金3・4	881	英語ⅢB	小田桐清美	1	8	0	3	1	0	13		13
後期	金3・4	883	英語ⅢB	香取 真理	3	3	0	1	4	1	12		12
後期	金3・4	882	英語ⅢB	野呂 徳治	1	0	1	0	8	3	13		13
後期	金3・4	884	英語Ⅳ	ラウシュ, A. S.	0	3	7	2	0	0	12		12
後期	水3・4金1・2	933	ドイツ語Ⅰ①	齋藤 義彦	7	3	0	0	5	0	15	1	16
後期	水1・2金3・4	930	ドイツ語Ⅰ②	原田 悦雄	1	1	0	1	7	6	16	1	17
後期	水3・4	879	ドイツ語Ⅱ(A)①	田中 岩男	24	0	0	0	0	0	24		24
後期	水3・4	880	ドイツ語Ⅱ(A)②	相馬 伸子	0	4	0	0	1	0	5		5
後期	水3・4	881	ドイツ語Ⅱ(A)③	福島 伸雄	0	0	24	0	2	0	26		26
後期	水1・2	882	ドイツ語Ⅱ(A)④	相馬 伸子	0	0	0	1	0	5	6		6
後期	水1・2	883	ドイツ語Ⅱ(A)⑤	山本 由起	0	0	0	0	10	3	13		13
後期	金1・2	881	ドイツ語Ⅱ(B)①	フールト, V. M.	24	0	0	0	1	0	25		25
後期	金1・2	882	ドイツ語Ⅱ(B)②	山本 由起	0	4	0	0	2	0	6		6
後期	金1・2	883	ドイツ語Ⅱ(B)③	田中 壽子	0	0	24	0	0	0	24		24
後期	金3・4	888	ドイツ語Ⅱ(B)④	正木むつみ	0	0	0	1	0	5	6		6
後期	金3・4	889	ドイツ語Ⅱ(B)⑤	田中 岩男	0	0	0	0	10	3	13		13
後期	水3・4金1・2	934	フランス語Ⅰ①	山井 淑子	16	3	0	0	3	0	22		22
後期	水1・2金3・4	931	フランス語Ⅰ②	工藤 貴子	2	1	0	0	8	1	12	1	13
後期	水3・4	883	フランス語Ⅱ(A)②	熊野真規子	29	0	0	0	0	0	29		29
後期	金1・2	886	フランス語Ⅱ(A)③	工藤 貴子	17	0	25	0	0	0	42		42
後期	水3・4	885	フランス語Ⅱ(A)④	小笠原淑子	0	4	30	0	0	0	34	1	35
後期	金3・4	890	フランス語Ⅱ(A)⑤	松山 和子	1	0	0	1	4	2	8	1	9
後期	水1・2	885	フランス語Ⅱ(A)⑥	小笠原淑子	0	0	0	0	6	2	8		8
後期	水3・4	882	フランス語Ⅱ(B)①	ジャンソン, M.	18	0	0	0	0	0	18		18
後期	金1・2	885	フランス語Ⅱ(B)②	ジャンソン, M.	28	0	0	0	0	0	28		28
後期	水3・4	884	フランス語Ⅱ(B)③	松山 和子	1	0	25	0	0	0	26		26
後期	金1・2	887	フランス語Ⅱ(B)④	松山 和子	1	4	30	0	0	0	35	2	37
後期	水1・2	884	フランス語Ⅱ(B)⑤	ジャンソン, M.	0	0	0	1	4	2	7		7
後期	金3・4	891	フランス語Ⅱ(B)⑥	ジャンソン, M.	0	0	0	0	6	2	8	1	9
後期	水3・4金1・2	935	中国語Ⅰ①	李 淑賢	30	13	0	1	2	0	46		46
後期	水1・2金3・4	932	中国語Ⅰ②	李 安	1	3	1	4	24	10	43		43
後期	金1・2	888	中国語Ⅱ(A)①	城本 るみ	31	0	0	0	0	0	31		31
後期	水3・4	887	中国語Ⅱ(A)②	城本 るみ	36	0	0	0	0	0	36		36
後期	水3・4	888	中国語Ⅱ(A)③	許 紅	0	15	0	0	2	2	19		19
後期	水1・2	886	中国語Ⅱ(A)④	楊 天曦	0	0	0	0	18	0	18		18
後期	金3・4	893	中国語Ⅱ(A)⑤	楊 天曦	0	0	0	0	0	8	8		8
後期	水3・4	886	中国語Ⅱ(B)①	楊 天曦	30	0	0	0	0	0	30		30
後期	金1・2	889	中国語Ⅱ(B)②	楊 天曦	35	0	0	0	0	0	35		35
後期	金1・2	890	中国語Ⅱ(B)③	許 紅	0	15	0	0	1	3	19		19
後期	金3・4	892	中国語Ⅱ(B)④	李 梁	0	0	0	0	19	0	19		19
後期	水1・2	887	中国語Ⅱ(B)⑤	李 梁	0	0	0	0	0	8	8		8
後期	水1・2	888	朝鮮語Ⅱ(A)	尹 永愛	0	0	0	1	2	3	6		6
後期	水3・4	889	朝鮮語Ⅱ(A)	尹 永愛	9	3	0	0	0	0	12		12
後期	金1・2	891	朝鮮語Ⅱ(B)	尹 永愛	9	3	0	0	0	0	12		12
後期	金3・4	894	朝鮮語Ⅱ(B)	尹 永愛	0	0	0	1	2	3	6		6
後期	火3・4	865	サッカー	麓 信義	0	5	0	0	0	0	5		5

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
後期	水7・8	866	サッカー	船水 友治	9	3	3	1	8	4	28		28
後期	火9・10	865	トランポリン	清水 紀人	7	6	0	2	10	2	27		27
後期	月5・6	865	バスケットボールⅠ	伊藤 武樹	2	0	0	0	19	0	21		21
後期	水7・8	865	バドミントンA	横山 正二	9	4	0	7	15	10	45	1	46
後期	木7・8	865	バドミントンB	石戸 俊雄	6	19	0	0	4	7	36		36
後期	木3・4	865	バレーボールⅡ	川村 謙二	10	15	2	0	5	4	36		36
後期	木3・4	866	レクリエーション・スポーツ	齋藤 和男	15	4	0	0	5	4	28		28
後期	水5・6	865	卓球A	成田 静司	6	7	0	6	4	5	28		28
後期	火7・8	865	舞踊	尾崎 四樓	7	6	0	4	0	0	17		17
後期	集中	865・866	スキー&スノーボード	高橋 俊哉・他	7	8	2	12	14	4	47		47
後期	木9・10	866・867	音楽実技	和田美亀雄・他	5	9	0	0	0	1	15		15
後期	木9・10	868・869	美術実技(C)	岡田 敬司	1	3	0	0	0	1	5		5
後期	木9・10	870・871	美術実技(D)	佐藤 光輝	1	3	0	0	0	1	5		5
後期	火9・10	867	情報処理演習Ⅱ	宮永 崇史	6	1	0	1	3	2	13	2	15
後期	火7・8	867	情報処理演習Ⅱ	清水 俊夫	4	2	1	6	4	2	19	1	20
後期	火9・10	868	情報処理演習Ⅲ	宮永 崇史	0	0	0	0	4	0	4		4
後期	火7・8	868	情報処理演習Ⅲ	清水 俊夫	0	0	0	0	4	0	4		4
後期	木9・10	872	哲学の基礎④	五十嵐靖彦	11	7	2	0	11	12	43	1	44
後期	金9・10	865	言語学の基礎③	木村 宣美・他	47	2	3	0	10	3	65		65
後期	火7・8	869	文学の基礎	白田 昭吾	24	3	0	4	1	4	36		36
後期	火7・8	870	芸術学の基礎	今田 匡彦	47	24	0	20	13	9	113		113
後期	月9・10	865	心理学の基礎④	石黒 格・他	85	6	0	0	86	24	201	5	206
後期	木9・10	873	心理学の基礎⑤	石黒 格・他	31	25	14	2	30	40	142	6	148
後期	月9・10	866	教育学の基礎③	吉川 友能・他	10	3	0	0	14	5	32		32
後期	金9・10	866	教育学の基礎④	吉川 友能・他	13	10	0	3	19	5	50	1	51
後期	火7・8	871	古典語実習(ギリシア語Ⅱ)	今井 正浩	8	0	0	0	0	1	9		9
後期	木7・8	866	古典語実習(漢文B)	山口 爲廣	41	10	0	0	2	1	54		54
後期	金9・10	867	会計学の基礎	中村 文彦	62	5	0	1	35	12	115	1	116
後期	火7・8	872	経営学の基礎	森 樹男・他	56	14	1	3	36	37	147	1	148
後期	火7・8	873	経済学の基礎(A)	李 永俊	32	1	1	1	5	4	44	1	45
後期	火9・10	870	経済学の基礎(B)	福田 進治	57	4	0	0	22	13	96	2	98
後期	火7・8	874	社会学の基礎③	武田 共治・他	49	12	1	9	28	24	123	1	124
後期	木9・10	874	政治学の基礎②	村松 恵二	69	5	0	0	2	12	88	1	89
後期	木7・8	867	地理学の基礎③	小岩 直人・他	39	27	0	0	16	36	118	4	122
後期	木7・8	868	法学の基礎③	紺屋 博昭・他	55	11	0	0	11	21	98	4	102
後期	火9・10	871	歴史学の基礎④	齊藤 利男	33	16	0	1	7	8	65		65
後期	木3・4	880	日本国憲法	大竹 昭裕	23	30	0	6	11	8	78	1	79
後期	木9・10	875	数学の基礎Ⅰ(A)②	中野 博之・他	85	27	0	0	1	0	113	1	114
後期	木7・8	869	数学の基礎Ⅱ(B)⑧	伊藤 成治	3	2	0	0	9	14	28	1	29
後期	木7・8	872	数学の基礎Ⅱ(C)③	丹原 大介	0	0	0	0	80	0	80		80
後期	木7・8	871	数学の基礎Ⅱ(C)②	柳 真	0	0	0	0	40	0	40		40
後期	木7・8	874	数学の基礎Ⅱ(C)⑤	中里 博	0	0	0	0	49	1	50		50
後期	木7・8	875	数学の基礎Ⅱ(C)⑥	永瀬 範明	0	0	0	0	64	0	64		64
後期	木7・8	873	数学の基礎Ⅱ(C)④	力石 國男	0	0	0	0	55	0	55		55
後期	木7・8	870	数学の基礎Ⅱ(C)①	小松 尚夫	0	0	78	0	0	0	78		78
後期	金9・10	868	物理学の基礎Ⅰ(A)	星野 英興・他	20	5	0	0	0	0	25		25
後期	木7・8	876	物理学の基礎Ⅱ(B)	佐藤 雄二	1	0	0	0	0	78	79		79
後期	木9・10	876	物理学の基礎Ⅱ(B)	岡崎 禎子	0	0	0	0	74	0	74		74

平成17年度(2005)

学期	曜日・時限	履修コード	科目名	教員名	人文	教育	医医	医保	理工	農生	計	共通	合計
後期	金 9・10	869	物理学の基礎Ⅱ(B)	宮永 崇史	0	0	80	1	0	1	82		82
後期	木 9・10	877	物理学の基礎Ⅱ(B)	中島 健介	0	0	0	0	100	0	100		100
後期	木 9・10	878	物理学の基礎Ⅱ(B)	小野 俊郎	0	0	0	0	70	1	71		71
後期	火 9・10	872	化学の基礎Ⅰ(A)②	伊東 俊司	17	2	0	0	2	0	21		21
後期	金 9・10	870	化学の基礎Ⅱ(A)⑥	阿部 敏之	0	2	2	3	39	35	81		81
後期	火 9・10	876	化学の基礎Ⅱ(B)⑤	橋本 勝	0	0	0	0	0	153	153	1	154
後期	火 9・10	873	化学の基礎Ⅱ(B)②	北原 晴男	0	2	0	0	45	0	47		47
後期	火 9・10	875	化学の基礎Ⅱ(B)④	吉澤 篤	0	0	0	0	74	0	74		74
後期	火 9・10	874	化学の基礎Ⅱ(B)③	佐藤 公彦	0	0	79	6	0	0	85		85
後期	木 9・10	879	生物学の基礎Ⅰ(A)①	齋藤 捷一・他	32	22	0	0	0	0	54		54
後期	金 9・10	871	生物学の基礎Ⅱ(A)②	大町 鉄雄・他	0	0	1	0	11	10	22		22
後期	火 7・8	875	生物学の基礎Ⅱ(A)③	城田 安幸・他	4	4	23	3	34	68	136		136
後期	金 9・10	872	生物学の基礎Ⅱ(B)③	正村 和彦・他	2	1	1	8	3	15	30		30
後期	火 7・8	876	生物学の基礎Ⅱ(C)	佐原 雄二	2	0	39	4	43	33	121		121
後期	木 9・10	880	地学の基礎Ⅰ(A)	鎌田耕太郎・他	51	25	0	0	0	0	76	1	77
後期	金 9・10	873	地学の基礎Ⅱ(A)	氏家 良博	18	3	1	0	70	31	123	1	124
後期	木 9・10	881	地学の基礎Ⅱ(B)	田中 和夫	2	0	0	0	18	67	87		87
後期	火 7・8	877	情報処理論の基礎	荒木 喬	1	1	0	0	8	1	11	1	12
後期	火 9・10	877	統計学の基礎①	石黒 格	51	29	0	0	1	1	82		82
後期	木 7・8	877	統計学の基礎②	笠原 幹	101	0	0	0	0	2	103		103
後期	火 9・10	879	統計学の基礎⑧	對馬 栄輝	0	0	0	81	0	0	81		81
後期	火 7・8	879	統計学の基礎④	二ツ矢昌夫	0	0	0	0	41	0	41		41
後期	火 7・8	878	統計学の基礎③	吉岡 良雄	0	0	1	41	18	0	60		60
後期	火 9・10	878	統計学の基礎⑤	飯倉 善和	0	0	0	0	75	1	76		76
後期	月 7・8	865	基礎ゼミナール	田中 一隆	6	0	0	0	0	0	6		6
後期	木 1・2	866	基礎ゼミナール	中島 健介	0	0	0	0	1	0	1		1

6 21世紀教育授業運営・担当評価

弘前大学においては、教養教育のカリキュラムと実施体制を大幅に改革し、平成14年度から「弘前大学「21世紀教育」」を実施している。同時に、「21世紀教育」の責任ある実施体制と授業担当の濃淡に伴う不公平感を払拭し、「全学担当制」が円滑に展開することを目標として、教育評価の一つの試みとして授業運営・担当評価を研究費配分という形で行うことが弘前大学全学教育協議会で承認され、評議会で決定された。（弘前大学「21世紀教育」実施要綱、平成17年2月18日発行参照）

本年度も、21世紀教育センター運営委員会は「21世紀教育授業運営・担当評価に係る経費」の必要性を確認し、14,199千円を計上した。その具体的な配分方針及び配分方法については、21世紀教育センター運営委員会で原案が承認された。

以下に、「平成17年度21世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針について」、及び「21世紀教育授業運営・担当実施要項」を掲載し、その若干の説明を記す。

- (1) 平成17年度21世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針
(資料を掲載する)
- (2) 21世紀授業運営・担当評価実施要項
(資料を掲載する)

(1) 平成17年度21世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針

平成17年度21世紀教育授業運営・担当評価に係る配分額の決定方針について

平成17年12月22日 21世紀教育センター

1. 科目主任について

- (1) 科目主任を複数担当している場合においても、複数分は配分しない。
- (2) 配分額については、基準時間を超える担当者の評価時間数、配分額を勘案して決定する。
- (3) 期間が3月以上11月以下の科目主任については、科目主任配分額を12で除した額に月数を乗じて得た額を配分額とする。
- (4) 年度途中で退官等した（又は予定の）科目主任へは配分しない。

2. 基準時間を超える担当者について

- (1) 評価時間数は、基準時間を超えた時間数とする。
ただし、休講した場合については、担当教員からの申し出に基づき、基準時間を超えた時間数から休講時間数を減じるものとし、補講（申し出があった場合）した場合は、減じないものとする。
- (2) 休講及び補講した場合の時間数の算定は、配分額算定の都合上、11月末までの申し出に基づき、行うものとする。

3. カリキュラム開発の推進者

- (1) 今年度の申請件は、なし。

4. その他

評価対象者への配分額は、総予算配分額の枠内で決定する。

(2) 学部等別基準時間を超える時間数一覧

学 部 等 名	基準時間を超える時間数	総 担 当 数	教 員 数	基準時間内に満たない数	担当しない数	備 考
人 文 学 部	1,018	5,738	85	23	4	
教 育 学 部	990	4,152	96	36	7	
医 学 部	医 学 科	1,590	84(25)	52(16)	12(4)	()内は84×0.3
	保健学科	1,432	66	26	13	
附 属 病 院	6	158	44(13)	27(8)	16(5)	()内は44×0.3
理 工 学 部	1,042	3,258	82	20		
農 学 生 命 学 部	206	1,368	62	36	2	
大学院地域社会研究科		30	2	2		
保 健 管 理 セ ン タ ー		30	2	2		
遺 伝 子 実 験 施 設	2	32	1			
総合情報処理センター			1	1		
生 涯 学 習 教 育	8	66	2	1		
研 究 セ ン タ ー						
地域共同研究センター	18	54	1			
留 学 生 セ ン タ ー	88	154	5	1	2	
21世紀教育センター	8	38	1			
学生就職支援センター	4	34	1			
計	4,306	18,134	535(445)	227(172)	56(37)	
助手(学内非常勤講師)	276	276	5			
合 計	4,582	18,410	540(450)	227(172)	56(37)	

(3) 予算額

区 分	員 数	単 価	金 額	備 考
1. 科目主任配分費	126人	円	千円 4,877	
2. 基準時間を超える授業担当者配分費	4,776時間	1,944	9,265	
3. カリキュラム開発推進者配分費	1件		58	
合 計			14,200	

(4) 配分額 (科目主任の配分額を基準時間(30時間)相当額とする。)

区 分	員 数	単 価	金 額	備 考
1. 科目主任配分費		円	千円	
①言語コミュニケーション実習及びスポーツ・体育実技の科目主任	37人	58,320	2,158	
②その他の科目主任	85人		3,134	
在任期間(12月)	65人	41,658	2,707	
〃 (11月)	1人	38,244	38	
〃 (6月)	18人	20,829	375	
〃 (4月)	1人	13,793	14	
2. 基準時間を超える授業担当者配分費	4,582時間	1,944	8,907	
3. カリキュラム開発推進者配分費	0件		0	
合 計			14,199	

(5) 21世紀教育推進経費学部等別配分額一覧

(単位：円)

学 部 等		科目主任 配 分 額	基準時間を超える 担 当 者 配 分 額	計	備 考
人 文 学 部		2,212,011	1,978,992	4,191,003	
教 育 学 部		1,546,248	1,924,560	3,470,808	
医 学 部	(医 学 科)	270,777	1,512,432	1,783,209	
	(保 健 学 科)	62,487	746,496	808,983	
附 属 病 院		41,658	11,664	53,322	
理 工 学 部		708,186	2,083,968	2,792,154	
農 学 生 命 科 学 部		305,399	400,464	705,863	
保 健 管 理 セ ン タ ー		41,658		41,658	
生 涯 学 習 教 育 研 究 セ ン タ ー		41,658	15,552	57,210	
留 学 生 セ ン タ ー		41,658	171,072	212,730	
2 1 世 紀 教 育 セ ン タ ー		20,829	15,552	36,381	
学 生 就 職 支 援 セ ン タ ー			7,776	7,776	
遺 伝 子 実 験 施 設			3,888	3,888	
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー			34,992	34,992	
計		5,292,569	8,907,408	14,199,977	

注) 基準時間を超える担当者には、助手(学内非常勤講師)を含む。

平成17年度21世紀教育授業運営・担当評価に係る経費配分は、従来通りの配分ルールに基づき算出された数値をもとに配分された。

平成17年度の基準時間を超える授業時間数は、4,582時間であり、当初算出時間数(4,776時間)を下回った。しかし、平成16年度の基準時間を超える授業時間数(4,486時間)を上回った。これは、開講コマ数の増加にもよるが、やはり依然として、21世紀教育が全学出動の建前を取りながらもそれが実現できていないことを示すものでもある。

しかし、本学での21世紀教育における幅広い内容のカリキュラムの実施は、教員の構成比から文系及び一部の理系教員の担当時間が増加することは避けられず、本学の教員構成という構造上の問題も含まれている。また、医学部を含めた理系教員が21世紀教育へ参加しやすくなるような工夫も求められている。

また、科目主任を30時間担当相応として評価することに対して、基準時間を超える授業時間の評価を優先させるべきであるとの意見もあり、科目主任の評価時間については再検討が必要であることが指摘された。この点は継続して検討していく必要がある。しかし、21世紀教育ではカリキュラムに基づく授業内容が、科目主任、領域科目主任会及び教務専門委員会等によって事前事後に検討されるシステムを取っており、科目主任の役割は授業の質的向上のために、非常に重要である。

いずれにせよ、現在、評価室の設置に伴う教育、研究、社会貢献、管理運営、診療等の総合的評価の仕組みが整いつつある。その総合的評価結果に基づいて、21世紀教育への参画のあり方も様々に議論されてくるであろう。

(6) 21世紀教育授業運営・担当評価実施要項

平成17年2月18日
21世紀教育センター
運営委員会制定

(趣旨)

第1 21世紀教育の授業運営・担当評価の実施については、「21世紀教育の授業運営・担当評価の実施について」（平成14年3月19日評議会承認）に基づき、この要項の定めるところにより行うものとする。

(科目主任の評価基準)

第2 科目主任の評価基準は、次のとおりとする。

- (1) 当該年度の10月1日に科目主任である者
- (2) 当該年度に3か月以上科目主任であった者

(基準時間を超える授業担当者の評価基準)

第3 基準時間を超える授業担当者の評価基準は、次のとおりとする。

- (1) 言語コミュニケーション実習の科目主任については、基準時間（年間120授業時間）を超える時間数
- (2) スポーツ・体育実技の科目主任については、基準時間（年間90授業時間）を超える時間数
- (3) 上記(1)、(2)以外の教員については、基準時間（年間30授業時間）を超える時間数

(カリキュラム開発の推進者の評価基準等)

第4 カリキュラム開発の推進者の評価基準は、次のとおりとする。

当該年度の10月1日から過去1年間の間に、カリキュラム開発を推進したものと21世紀教育センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）が認める者

- 2 カリキュラム開発に係る申請方法、審査方法、申請書の書式等は、運営委員会が別に定める。

(基礎科学実験)

第5 基礎科学実験については、担当時間数の3分の2を授業実施時間数とする。

(助手に対する評価)

第6 21世紀教育を担当する助手については、担当時間数に応じて評価する。

(推進経費の配分額の決定)

第7 評価対象者への21世紀教育推進経費（以下「推進経費」という。）の配分額については、当該年度における推進経費の配分予算額に基づき、点検・評価専門委員会（以下「専門委員会」という。）において算定の上、運営委員会が決定する。

- 2 基準時間を超える担当者への配分額算定に当たっては、専門委員会が基準時間を超える時間数の確認を行う。
- 3 当該年度の在任期間が1年未満の科目主任への配分額は、月割り計算とする。

(推進経費の配分時期等)

第8 評価対象者への推進経費の配分時期は、次のとおりとする。

- (1) 科目主任
配分時期は、当該年度の1月とする。
- (2) 基準時間を超える授業担当者
当該年度の12月に当該年度における授業時間数を確認の上、1月に配分する。

なお、1月以降の授業時間数については、当該教員に確認し評価時間数を決定する。

(3) カリキュラム開発の推進者

配分時期は、当該年度の1月とする。

(4) 助手

配分時期は、上記(2)と同様とする。

(退職者及び他大学等への転任者への経費配分)

第9 評価対象者で当該年度内に退職予定の者及び他大学等へ転任予定の者への推進経費の配分については、配分時期以降の本学在任期間を勘案し、専門委員会において検討の上、決定するものとする。

(その他)

第10 この要項に定めるもののほか、本評価の実施に関し必要な事項は、専門委員会の議を経て、運営委員会が別に定める。

附 記

この要項は、平成17年2月18日から実施し、16年4月1日から適用する。

7 あとがき

平成17年度の21世紀教育では、前期で525、後期で239の計764の授業科目が開講されました。これは、前年度の開講数779に比べるとやや少ない数になっています。授業を担当する教員の確保が難しかったことが開講科目数の減少の主な原因で、一部の科目では履修希望者が殺到して抽選を実施しなければならない状況が続いています。授業担当者の確保は、教員の配置や専門性とも関係していることから簡単に解決できる問題ではありませんが、少人数教育の実現と関連させて解決の方法を探っていかなければならない重要な課題となっています。

平成18年度から高等学校の新指導要領のもとで学習してきた学生が入学します。このため、平成17年度には高等学校の指導要領の勉強会や授業科目の再編、授業内容の精査など、21世紀教育のカリキュラム改訂のためのさまざまな検討が行われました。授業担当者の再編に向けて、全教員に対する担当授業の新たな登録調査も実施されました。結果として、新学期から始まる新しいカリキュラムは、これまでに比べてテーマ科目がややスリムになり、基礎教育科目を充実させた内容になっています。最も大きな改訂点は、平成18年度から入学する学生が高等学校ですでに情報の授業を履修してくることと関連して、これまで技能系科目のひとつだった「情報処理演習」を、3つのレベルの授業科目からなる「情報系基礎」として基礎教育科目の中に位置づけたことです。新しい情報系基礎科目では、技術面の修得ばかりでなく情報倫理教育も含めた現代的な要請に対応した内容になっています。高等学校では科目選択や科目内の内容選択の幅が多様化しています。これは入学してくる学生の既習内容が多様化することを意味します。4月から始まる授業の中で、新しいカリキュラムが多様な学習履歴を持った学生に対応したものになっているかどうかを確かめつつ、問題については柔軟に対応していく必要があります。

21世紀教育科目では「成績評価の方法と基準」に基づく評価方法を平成14年度から試行的に実施する中で、学生アンケートや教員から提出される授業担当実施報告書を参考にして修正を重ねてきました。すでに9割以上の授業担当者が基準をもとに成績評価を行っており、また大部分の授業科目では学生も概ね評価を妥当だと感じていることから、平成17年度には改訂を加えてこれを正式に導入しました。「成績評価の方法と基準」は、教員にとって授業が当初設定した目標が達成できたかどうかを検証する重要な道具にもなります。シラバスづくりと合わせて、授業改善のために有効に利用されることを期待したいところです。

6月には、教育・学生委員会との共催で「基礎ゼミナールの共通理解を深める」というテーマで1泊2日の本格的なワークショップを実施しました。これは、北海道大学が主催するワークショップへの参加で得たノウハウを生かして21世紀教育センターが独自に企画したものです。参加したほとんどの教員にとって授業設計を主題にしたワークショップは初めての経験だったため最初はとまどいも見られましたが、作業が進むにつれてどのグループでも活発な議論が行われました。教員どうして話し合うことが授業の設計や改善に大いに役に立つことを実感しました。作業の合間に設けられたコーヒブレイクや夜の懇親会では、21世紀教育についてさまざまな意見交換ができました。新しいアイデアもたくさん生まれたようです。

平成16年度に設置された21世紀教育センター高等教育開発研究室の活動が本格化し、内外のFD活動や教材の紹介、ワークショップの企画など、広範なFD活動に重要な役割を果たしています。後期には、高等教育開発研究室が窓口となって、教員の授業改善のためのコンサルティング業務が開始されました。また、平成18年3月には、高等教育の実践的・学術的研究を促進し21世紀教育の改善を目的とする21世紀教育センターの紀要「21世紀教育フォーラム」が発刊されます。こうした活動を通して、授業改善に活用できる実践事例が蓄積することが期待されます。一方で、学生アンケートを授業改善にフィードバックさせる具体的なしくみの検討や効果的な中間アンケートの方法など、授業改善のために取り組む必要のある課題も数多く残されています。

本報告書では紙面の制約で、研修会の記録を大幅に割愛せざるを得ませんでした。また、学生アンケートの結果や授業担当者からの要望の掲載も一部にとどまっています。掲載できなかったアンケート結果は、21世紀教育ホームページ上で公開いたしますので、そちらをご覧ください。

(21世紀教育センター 副センター長 大高明史)